

中野遺跡 第121地点  
中野遺跡 第123地点  
中道遺跡 第94地点  
田子山遺跡 第172地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

埼玉県志木市教育委員会



## はじめに

志木市教育委員会  
教育長 柚木 博

ここに刊行する『中野遺跡第121地点 中野遺跡第123地点 中道遺跡第94地点 田子山遺跡第172地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和3・4年度に受託事業として実施した、4地点分の発掘調査の成果をまとめたものです。

中野遺跡第121地点では、古墳時代後期の住居跡などが発見されました。

中野遺跡第123地点では、中世以降の土坑や溝跡、ピットが発見されました。

中道遺跡第94地点では、縄文時代の土坑やピット、平安時代の土坑やピット、中世以降の土坑や溝跡、ピットが発見されました。

田子山遺跡第172地点では、縄文時代の住居跡、弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓の一部などが発見されました。今回見つかった縄文時代早期の住居跡は、市内で最古の住居跡として位置付けられます。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

## 例　　言

1. 本書は、令和3・4年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である中野遺跡第121地点、中野遺跡第123地点、中道遺跡第94地点、田子山遺跡第172地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘作業及び整理作業は、志木市教育委員会の受託事業として、以下の土木工事主体者から委託を受け実施した。

中野遺跡第121地点：埼玉県朝霞市西原1丁目8番37号

株式会社ハウスライン 代表取締役 松本裕樹

中野遺跡第123地点：個人

中道遺跡第94地点：個人

田子山遺跡第172地点：埼玉県朝霞市膝折町1丁目15番13号

株式会社丸虹 代表取締役 石宇梅也

3. 本書の作成において、編集は木村結香が行い、執筆は下記のとおりである。なお、中世以降の遺物については、和光市教育委員会文化財調査指導員の野澤 均氏にご教示を頂いた。

尾形則敏 第1章

木村結香 第2・3・5章、第6章第1・2・4節

大久保聰 第4章、第6章第3節

4. 遺物の実測は、星野恵美子・松浦恵子・池野谷有紀が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木修・池野谷が行った。写真撮影は尾形・青木が行った。

5. 本書に掲載した石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長 藤波啓容）に実測を委託した。

6. 発掘作業における表土剥ぎ作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役 紅島正人）に委託した。

7. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

8. 調査組織（令和3・4年度）

### 【志木市教育委員会組織】

調査主体者 志木市教育委員会

教育長 柚木博

教育政策部長 北村竜一（～令和3年度）

" 今野美香（令和4年度～）

生涯学習課長 土崎健太

生涯学習課副課長 吉成和重

生涯学習課主幹 浅見千穂

生涯学習課主査 尾形則敏（～令和3年度）

" 德留彰紀

" 大久保聰（令和4年度～）

生涯学習課主任 武井香代子（～令和3年度）  
" 大久保 聰（～令和3年度）  
" 尾形則敏（令和4年度～）  
" 石川千尋  
生涯学習課主事 塚原会里（令和4年度～）  
生涯学習課主事補 遠藤彰雅（～令和3年度）  
" 木村結香（令和3年8月～）  
調査担当者 德留彰紀  
" 大久保 聰  
" 尾形則敏  
" 木村結香  
志木市文化財保護審議会 井上國夫（会長）  
深瀬 克（委員）  
上野守嘉（委員）  
新田泰男（委員）  
金子博一（委員）

#### 9. 発掘作業及び整理作業参加者

〈中野遺跡第121地点〉

○発掘作業

調査担当者 大久保聰・木村結香・徳留彰紀・尾形則敏  
調査員 青木 修  
作業員 二階堂美知子・福田浩明・松浦恵子  
重機オペレータ 田中三二・小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員 深井恵子・青木 修  
調査補助員 星野恵美子  
作業員 池野谷有紀・片山 望・小林詠美子・福田浩明・松浦恵子・村田浩美

〈中野遺跡第123地点〉

○発掘作業

調査担当者 大久保聰・木村結香・徳留彰紀・尾形則敏  
調査員 青木 修  
作業員 秋山良友・片山 望・二階堂美知子・福田浩明・松浦恵子  
重機オペレータ 小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員 深井恵子・青木 修  
作業員 片山 望・松浦恵子・山口優子

〈中道遺跡第94地点〉

○発掘作業

調査担当者 大久保聰・徳留彰紀・尾形則敏  
調査補助員 星野恵美子  
作業員 池野谷有紀・片山 望・小林詠美子・鈴木浩子・二階堂美知子・  
増田千春・松浦恵子・村田浩美  
重機オペレータ 小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員 深井恵子  
調査補助員 星野恵美子  
作業員 池野谷有紀・片山 望・小林詠美子・二階堂美知子・松浦恵子・  
村田浩美・山口優子

〈田子山遺跡第172地点〉

○発掘作業

調査担当者 徳留彰紀・木村結香・大久保聰・尾形則敏  
調査員 青木修  
作業員 秋山良友・片山 望・二階堂美知子・福田浩明  
重機オペレータ 小林貴司（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員 深井恵子・青木修  
調査補助員 星野恵美子  
作業員 池野谷有紀・片山 望・小林詠美子・二階堂美知子・福田浩明・  
村田浩美・山口優子

10. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・  
朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・  
富士見市立水子貝塚資料館

11. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈中野遺跡第121地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和4年3月7日付け 教文資第5-2173号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和4年6月1日付け 教生資第7-24号

〈中野遺跡第123地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和4年6月28日付け 教文資第5-697号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和4年9月9日付け 教生資第7-108号

〈中道遺跡第94地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和3年6月9日付け 教文資第5-439号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和3年10月1日付け 教文資第7-80号

〈田子山遺跡第172地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和3年3月29日付け 教文資第5-2232号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和4年6月17日付け 教生資第7-27号

## 凡　　例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1:10,000「志木市全図」株式会社バスコ調製

第2・21・45図 1:2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」

平成27年4月発行 株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3. 捕図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4. 遺構捕図版中の水糸レベルは、海拔標高を示す。

5. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6. 遺構捕図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物捕図版中の遺物番号と一致する。

7. 捕図版中のスクリーントーンについては、各捕図版内に内容を示した。

8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚

9. 遺構などの略記号は、以下のとおりである。

J=縄文時代の住居跡 H=古墳時代の住居跡 D=土坑 M=溝跡 P=ピット

方=方形周溝墓 畝=畝状耕作痕

---

# 目 次

---

## はじめに

例　言／凡　例／目　次／挿図目次／表　目　次／図版目次

第1章　遺跡の立地と環境	1
第1節　市域の地形と遺跡	1
第2章　中野遺跡第121地点の調査	8
第1節　遺跡の概要	8
第2節　調査の経緯	8
第3節　検出された遺構・遺物	12
第3章　中野遺跡第123地点の調査	20
第1節　遺跡の概要	20
第2節　調査の経緯	20
第3節　検出された遺構・遺物	24
第4章　中道遺跡第94地点の調査	39
第1節　遺跡の概要	39
第2節　調査の経緯	39
第3節　縄文時代の遺構・遺物	44
第4節　平安時代の遺構・遺物	47
第5節　中世以降の遺構・遺物	54
第6節　遺構外出土遺物	80
第5章　田子山遺跡第172地点の調査	83
第1節　遺跡の概要	83
第2節　調査の経緯	83
第3節　検出された遺構・遺物	87
第6章　調査のまとめ	99
第1節　中野遺跡第121地点の調査成果	99
第2節　中野遺跡第123地点の調査成果	100
第3節　中道遺跡第94地点の調査成果	100
第4節　田子山遺跡第172地点の調査成果	103

## 図　版

報告書抄録

## 挿図目次

第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000) -----	2	第30図 土坑1 (1/60) -----	62
第2図 中野遺跡の調査地点 (1/3,000) -----	9	第31図 土坑2 (1/60) -----	63
第3図 確認調査時の遺構分布図 (1/150) -----	11	第32図 土坑3 (1/60) -----	64
第4図 遺構分布図 (1/150) -----	11	第33図 土坑4 (1/60) -----	65
第5図 103号住居跡 (1/60) -----	13	第34図 49号溝跡 (1/60) -----	67
第6図 103号住居跡カマド (1/30) -----	14	第35図 50号溝跡 (1/60) -----	69
第7図 103号住居跡遺物出土状態 (1/60) -----	14	第36図 ピット1 (1/60) -----	70
第8図 103号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) -----	15	第37図 ピット2 (1/60) -----	71
第9図 ピット (1/60) -----	16	第38図 ピット3 (1/60) -----	72
第10図 遺構外出土遺物 (2/3・1/3) -----	17	第39図 ピット4 (1/60) -----	73
第11図 確認調査時の遺構分布 (1/100) -----	21	第40図 ピット5 (1/60) -----	74
第12図 遺構分布図 (1/100) -----	23	第41図 ピット6 (1/60) -----	75
第13図 基本土層 (1/60) -----	24	第42図 ピット7 (1/60) -----	76
第14図 土坑1 (1/60) -----	28	第43図 土坑・溝跡・ピット出土遺物 (1/3・4/5) -----	78
第15図 土坑2 (1/60) -----	29	第44図 遺構外出土遺物 (1/3) -----	80
第16図 土坑出土遺物 (1/3・1/4) -----	32	第45図 田子山遺跡の調査地点 (1/3,000) -----	84
第17図 32号溝跡 (1/60) -----	34	第46図 確認調査時の遺構分布 (1/100) -----	86
第18図 ピット1 (1/60) -----	35	第47図 遺構分布図 (1/100) -----	87
第19図 ピット2 (1/60) -----	36	第48図 3号住居跡 (1/60) -----	88
第20図 遺構外出土遺物 (1/3) -----	38	第49図 3号住居跡遺物出土状態 (1/60) -----	89
第21図 中道遺跡の調査地点 (1/3,000) -----	40	第50図 3号住居跡出土遺物1 (1/3) -----	90
第22図 確認調査時の遺構分布 (1/150) -----	41	第51図 3号住居跡出土遺物2 (2/3・1/3) -----	91
第23図 遺構分布図 (1/150) -----	43	第52図 2号方形周溝墓 (1/60) -----	94
第24図 土坑 (1/60) -----	45	第53図 土坑 (1/60) -----	95
第25図 ピット (1/60) -----	46	第54図 ピット (1/60) -----	96
第26図 土坑・ピット出土遺物 (1/3) -----	46	第55図 遺構外出土遺物 (1/3) -----	97
第27図 土坑 (1/60) -----	50	第56図 中道遺跡第94地点周辺の平安時代の遺構分布	
第28図 ピット (1/60) -----	52		
第29図 土坑・ピット出土遺物 (1/3) -----	52	(1/500) -----	102

## 表 目 次

第1表 志木市埋蔵文化財包藏地一覧	1	第17表 平安時代の遺構出土土器一覧	53
第2表 中野遺跡第121地点の発掘調査工程表	10	第18表 平安時代の遺構出土鉄製品一覧	53
第3表 103号住居跡出土土器一覧	15	第19表 中世以降の土坑一覧	66
第4表 遺構外出土石器一覧	18	第20表 中世以降のピット一覧(1)	77
第5表 遺構外出土繩文土器一覧(1)	18	中世以降のピット一覧(2)	78
遺構外出土繩文土器一覧(2)	19	第21表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧	79
第6表 中野遺跡第123地点の発掘調査工程表	22	第22表 中世以降の遺構出土鉄製品一覧	79
第7表 土坑一覧	31	第23表 銭貨一覧	80
第8表 中世以降の土坑出土陶磁器・土器一覧	33	第24表 遺構外出土土器一覧	81
第9表 中世以降の土坑出土瓦・鉄製品・ガラス製品・石製品一覧	33	第25表 遺構外出土陶磁器・土器一覧	82
第10表 ピット一覧	37	第26表 田子山遺跡第172地点の発掘調査工程表	86
第11表 遺構外出土陶器・土器一覧	38	第27表 3号住居跡ピット一覧	89
第12表 中道遺跡第94地点の発掘調査工程表	42	第28表 3号住居跡出土繩文土器一覧(1)	92
第13表 繩文時代のピット一覧	46	3号住居跡出土繩文土器一覧(2)	93
第14表 繩文時代の遺構出土土器一覧	47	第29表 3号住居跡出土石器一覧	93
第15表 平安時代の土坑一覧	51	第30表 ピット一覧	96
第16表 平安時代のピット一覧	52	第31表 遺構外出土繩文土器一覧	98
		第32表 遺構外出土鉄製品一覧	98

## 図 版 目 次

図版1 中野遺跡第121地点

1. 調査区近景
2. 確認調査風景
3. 表土剥ぎ風景
4. 発掘風景
5. 103号住居跡
6. 103号住居跡P1
7. 103号住居跡貯蔵穴
8. 103号住居跡P1・貯蔵穴

図版2 中野遺跡第121地点

1. 103号住居跡カマド検出状況
- 2・3. 103号住居跡カマド
4. 103号住居跡遺物出土状態
5. 103号住居跡掘り方精査風景
6. 103号住居跡掘り方
7. 1号ピット
8. 2号ピット

図版3 中野遺跡第121地点

1. 103号住居跡出土遺物
2. 遺構外出土遺物

図版4 中野遺跡第123地点

1. 調査区近景
2. 確認調査風景
3. 表土剥ぎ風景
4. A区基本土層
5. B区基本土層
6. 704号土坑
7. 705号土坑
8. 706号土坑

図版5 中野遺跡第123地点

1. 707号土坑
2. 708号土坑
- 3・4. 709号土坑遺物出土状態
5. 709号土坑
6. 710号土坑
7. 711号土坑
8. 712号土坑

図版6 中野遺跡第123地点

1. 713号土坑
2. 714号土坑
3. 715号土坑
4. 716号土坑
- 5・6. 32号溝跡
7. A区発掘風景

8. B区発掘風景

図版7 中野遺跡第123地点

1. 土坑出土遺物 2. 遺構外出土遺物

図版8 中道遺跡第94地点

1. 調査区近景 2. 表土剥ぎ風景 3. 基準点測量

4. 328号土坑 5. 330号土坑

6. 69号ピット 7. 70号ピット 8. 73号ピット

図版9 中道遺跡第94地点

1. 76号ピット 2. 332号土坑 3. 333号土坑

4. 334・335・338号土坑 5. 337号土坑 6. 340号土坑

7. 19・18号ピット 8. 28号ピット

図版10 中道遺跡第94地点

1. 34号ピット 2. 44号ピット 3. 54・60号ピット

4. 65・67号ピット 5. 307・313号土坑

6. 308・309・310号土坑 7. 311・317・320・324号土坑

8. 312・314・315・316号土坑

図版11 中道遺跡第94地点

1. 313号土坑 2. 318号土坑 3. 319号土坑

4. 321・322号土坑 5. 323号土坑 6. 325号土坑

7. 326号土坑 8. 327号土坑

図版12 中道遺跡第94地点

1. 329号土坑 2. 331号土坑 3. 336号土坑

4. 339号土坑 5. 341号土坑 6. 342号土坑

7. 343号土坑(南から) 8. 343号土坑(東から)

図版13 中道遺跡第94地点

1. 49号溝跡 2. 50号溝跡硬化面1

3. 50号溝跡硬化面2 4. 50号溝跡掘り方

図版14 中道遺跡第94地点

1. 8号ピット銭貨出土状況

2. 8・25・26・27・28号ピット 3. 20号ピット

4. 36号ピット 5. 49号ピット鉄製品出土状態

6. 58号ピット 7. 99・98号ピット 8. 110号ピット

図版15 中道遺跡第94地点

1. 土坑・ピット出土遺物(縄文時代)

2. 土坑・ピット出土遺物(平安時代)

3. 土坑出土遺物(中世以降)

図版16 中道遺跡第94地点

1. 溝跡・ピット出土遺物(中世以降) 2. 遺構外出土遺物

図版17 田子山遺跡第172地点

1. 調査区近景 2. 表土剥ぎ風景

3~5. 3号住居跡遺物出土状態 6. 3号住居跡

図版18 田子山遺跡第172地点

1. 3号住居跡P1 2. 3号住居跡P2・P3

3. 3号住居跡P4・P5 4. 3号住居跡P6

5. 3号住居跡P7 6. 3号住居跡P8

7. 3号住居跡層断面

図版19 田子山遺跡第172地点

1. 3号住居跡P9 2. 2号方形周溝墓 3. 336号土坑

4. 337号土坑 5. 2号ピット 6. 調査風景

7. 調査区A区全景 8. 調査区B区全景

図版20 田子山遺跡第172地点

1. 3号住居跡出土遺物 2. 遺構外出土遺物



# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりをもち、面積は9.05km<sup>2</sup>、人口約7万6千人の自然と文化の調和する都市である。

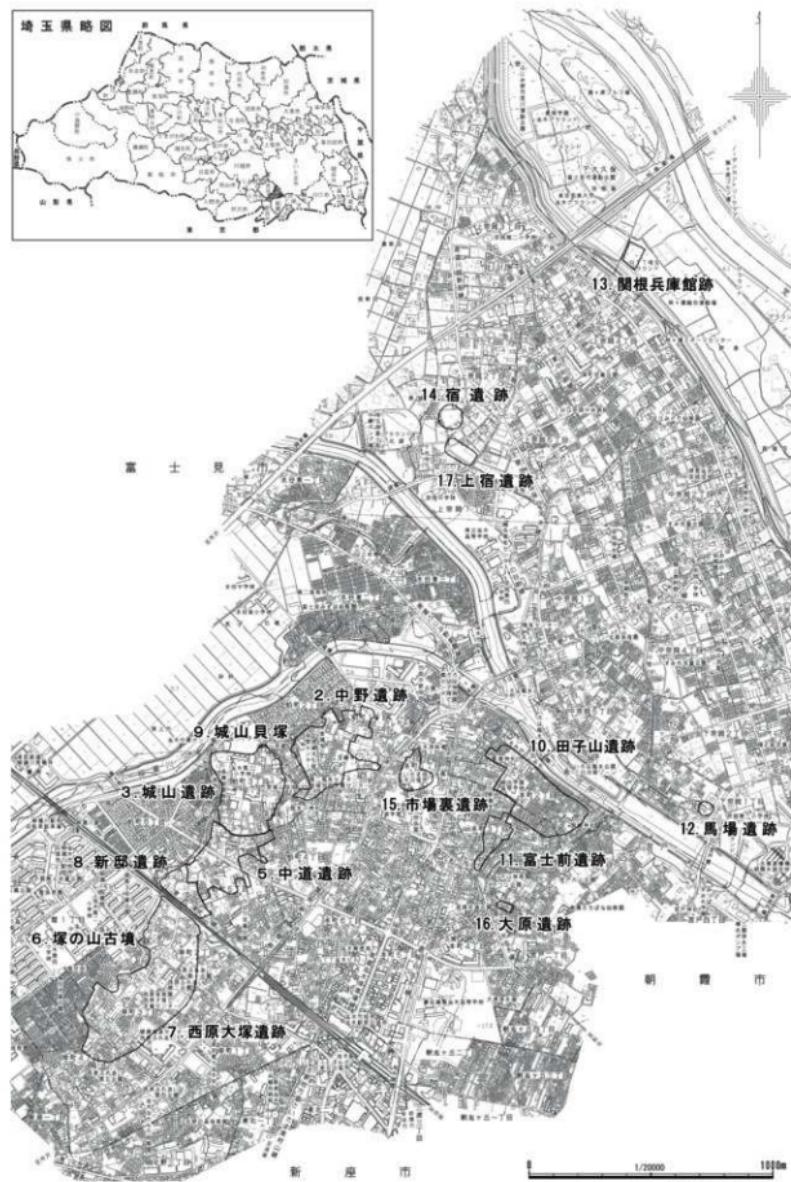
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（日入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武藏野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帶状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山

No	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な構造	主な遺物
2	中野	71,220 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、磯（早～晚）、弥（後）、古（前～後）、奈（平）、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、并戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,520 m <sup>2</sup>	畠・宅地	貝塚・城跡跡・集落跡・墓跡	旧石器、磯（草創～晚）、弥（中・後）、古（前～後）、奈（平）、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、并戸跡、溝跡、柏城跡関連、諸道遺跡等	石器、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古鉢、鍛冶関連遺物等
5	中道	54,420 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、磯（早～後）、弥（後）、古（前～後）、奈（平）、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形窓溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、繩文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古鉢、人骨等
6	塚の山古墳	800 m <sup>2</sup>	林	古墳？	古 墳？	古 墳？	なし
7	西原大塚	164,960 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、磯（前～晚）、弥（後）、古（前・後）、奈（平）、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形窓溝墓、地下式坑、并戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古鉢等
8	新邸	20,080 m <sup>2</sup>	畠・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	磯（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形窓溝墓、并戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、繩文・弥生土器、土師器、陶磁器、古鉢等
9	城山目塚	900 m <sup>2</sup>	林	貝 塚	磯（前）	斜面貝塚	石器、繩文土器、貝
10	田子山	74,030 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	磯（草創～晚）、弥（後）、古（後）、奈（平）、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形窓溝墓、ローム深掘遺構、溝跡等	繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、玻化種子等
11	富士前	14,830 m <sup>2</sup>	宅 地	集落跡	繩文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑、方形・円形窓溝墓、溝跡等	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m <sup>2</sup>	畠	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	間根兵庫跡	4,900 m <sup>2</sup>	グランド	館 跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m <sup>2</sup>	水 田	館 跡	中世	溝跡、井戸状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m <sup>2</sup>	宅 地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形窓溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大 原	1,700 m <sup>2</sup>	宅 地	集落跡	近世以降？	溝跡	なし
17	上 宿	8,600 m <sup>2</sup>	水田・宅地	集落跡・墓跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、并戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板脚等
合 计		523,260 m <sup>2</sup>					

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

令和5年1月31日現在



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

令和5年1月31日現在

遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、閑根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

## （2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のIV層上部・VI層・VII層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2か所、平成7（1995）年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第IV層下部～第V層上部・第VII層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第IV層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91⑯地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第IV層上部と第VII層の2か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第IV層下部～第V層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第IV層下部～第V層上部・第VI層・第VII層で石器集中地点や礫群が検出されている。

### 2. 繩文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撲糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東

側でやや多く出土する傾向がある。平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。城山遺跡では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第96地点から、前期後葉の諸礎期で、貝層を持つ住居跡が3軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EIV式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとめて出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行III C式・千綱式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では弥生時代後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179

地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅鏡が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高壙が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺形土器が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後葉から7世紀後葉にかけては、繩文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後葉から7世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で69軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で18軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

## 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のことろ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器环や猿投産の綠釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二錢の一つである富壽神寶<sup>スリュウジンボウ</sup>が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土鍤1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帶の一部である銅製の丸鞘が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器が共存して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村伯記』（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註2）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品1点と鉄鎧1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向かって横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山觀音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鎌などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

### [註]

- 註1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門重恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。
- 註2 『巡回雜記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18（1486）年6月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### [引用文献]

- 神山健吉 1988 「巡回雜記」に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察』『郷土志木』第7号  
2002 「道興をめぐる二つの脚説を糾す」『郷土志木』第31号

## 第2章 中野遺跡第121地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

中野遺跡は、志木市柏町1丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2kmに位置している。本遺跡は、北側に柳瀬川を臨む台地上に位置し、標高は北端で約9m、南端で約11mを測り、台地縁辺は緩やかに北側の低地に移行している。遺跡の西側には南北方向に谷が入り込んでおり、その谷の西側には城山遺跡が広がっている。遺跡の現況は、宅地化が急激に進んでおり、現在では畠地はほとんど見られなくなっている。

本遺跡の最初の発掘調査は、昭和15年（1940）年に実施された第2地点で、これまでに124地点の調査（令和5年1月31日現在）が実施され（第2図）、旧石器時代、縄文時代早～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

### 第2節 調査の経緯

#### （1）調査に至る経過

令和3年9月、土地所有者兼土木工事主体者である株式会社ハウスライン（以下、工事主体者）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町1丁目1485番8（面積60.98m<sup>2</sup>）地内に木造3階建分譲住宅建設（1棟）を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228-09-002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

12月17日、教育委員会は、工事主体者より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第121地点として、12月27日に確認調査を実施した。確認調査は、第3図に示すように調査区内に北東一南西方向に1本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、古墳時代以降の住居跡1軒・中世以降の土坑1基を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

令和4年2月10日に工事主体者と埋蔵文化財の保存措置について事前打合せを行った。その結果、分譲住宅の標準基礎部分は盛土保存とし、住宅内部の駐車場部分（9.83m<sup>2</sup>）については十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。



第2図 中野遺跡の調査地点 (1/3,000)

令和5年1月31日現在

2月14日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、工事主体者から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。

3月3日、教育委員会は、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、工事主体者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

3月10日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、3月7日付で埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、3月10日から発掘調査を実施した。

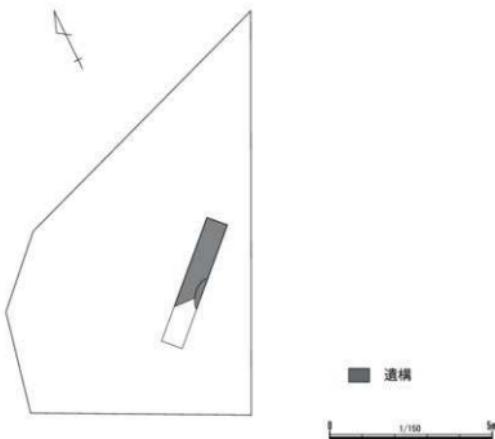
## (2) 発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の経過について説明し、各遺構の精査経過については、第2表の発掘調査工程表にも示した。

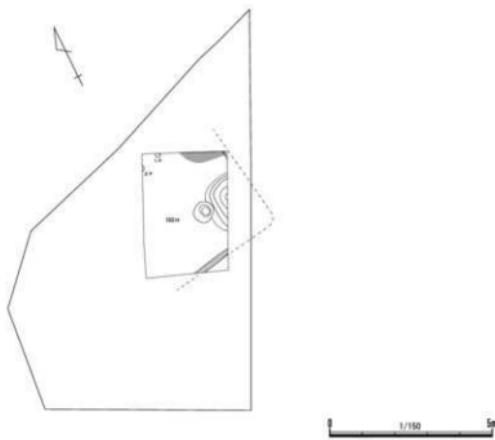
- 3月10日 発掘調査を開始する。重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。併せて、調査区の整備も行い、残土置場は調査区外の南側で処理した。第4図のように古墳時代後期の住居跡（103H）を確認した。
- 11日 本日から人員を導入し、調査器材の搬入を行う。103Hの遺構確認状況の写真撮影を行い、北—南方向に103Hセクションベルトを設定し、精査を開始する。
- 14日 103Hに伴う主柱穴1基（P1）及び貯蔵穴、それを圍む凸堤、カマド、完形品の斐形土器を検出する。103Hセクションの写真撮影を行う。基準点移動を実施する。
- 15日 103Hセクションの実測を行った後、セクションベルトの掘り下げを行う。併せて、P1及び貯蔵穴の精査を行い、103Hの完掘状況の写真撮影を実施する。調査区の北壁セクション・東壁セクションの分層後、それぞれのセクションの写真撮影を行う。
- 16日 103Hの平面図の作成を開始する。103Hの掘り方及びカマドの精査を開始する。中世以降のピット2本（1・2P）の精査を実施する。東壁セクションの実測を行う。
- 17日 カマドを完掘し、写真撮影・実測作業を行う。完形品の斐形土器の取り上げ後、北壁セクションの実測を行う。103Hの掘り方を完掘し、写真撮影を行う。本日で調査を完了する。調査器材の搬出を行う。
- 23日 重機による埋め戻し作業を行う。本日で発掘作業を終了する。

令和4年3月														
	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
表土剥ぎ作業	3.10	■												
(古墳時代)														
103H		3.11	■		3.14	■			3.17					
(中世以降)														
1P							3.16	■						
2P							3.16	■						
埋戻し作業													3.23	■

第2表 中野遺跡第121地点の発掘調査工程表



第3図 確認調査時の遺構分布(1/150)



第4図 遺構分布図(1/150)

### 第3節 検出された遺構・遺物

#### (1) 概要

古墳時代後期の遺構としては、住居跡1軒（103H）が検出された。103Hは、大部分が調査区外にあるため、プラン全体は把握できなかったが、時期は出土土器から、古墳時代後期（6世紀中葉）に比定できる。中世以降の遺構としては、ピット2本（1・2P）が検出された。

また、遺構外からは、縄文時代の遺物が出土している。

#### (2) 住居跡

##### 103号住居跡

###### **遺構** (第5～7図)

###### [位置] 調査区全体。

[検出状況] 大部分が調査区外であり、検出された範囲は住居の南東部の東壁・南壁周辺である。遺存状況は良好である。1P・2Pに切られる。

[構造] 平面形：方形と思われる。規模：カマドの位置を中心軸とすると、一辺6m程度と推定される。／遺構確認面からの深さ50～60cm前後。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-80°-E。壁溝：住居の南壁に伴う壁溝の一部と、調査区北東隅で東壁に伴う壁溝が僅かに検出された。上幅18cm／下幅6～8cm／床面からの深さ6～12cm。床面：硬化面は貯蔵穴付近から西側へ展開する状況が確認できた。貼床の厚さは2～6cmである。カマド：住居の東壁に付設されている。右袖のみが検出された。袖部はロームを馬蹄状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。天井部は遺存していない。底面は焚口側が深く、奥壁は緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドの南側で確認した。範囲は、長軸現況60cm／短軸20cm／深さ68cm。覆土は、ロームを多く含む暗黄褐色土（B-B'セクションの8層）を主体とする。周囲に幅42～70cm、高さ6cmの凸堤を伴う。柱穴：主柱穴1本（P1）が検出された。深さ83cm。覆土は6層に分類でき、暗褐色土（1～3層）を主体とし、両脇の壁近くからローム混じりの暗黄褐色・黄褐色土（4～6層）が入り込む。入口施設：検出されなかった。

[覆土] A-A'セクションで9層（2～10層）に分層できた。自然堆積を基本としており、南壁付近に三角堆積が認められる。8・9層は壁溝埋土、10層は掘り方埋土である。

[遺物] 土器は、土師器壺・甕・瓢形土器が出土した。完形品の瓢形土器（第8図3）はカマド右袖脇からの出土である。その他、穿孔貝塚穴痕跡軟質泥岩（坂本 2015）1点が出土した。

[時期] 古墳時代後期（6世紀中葉）。

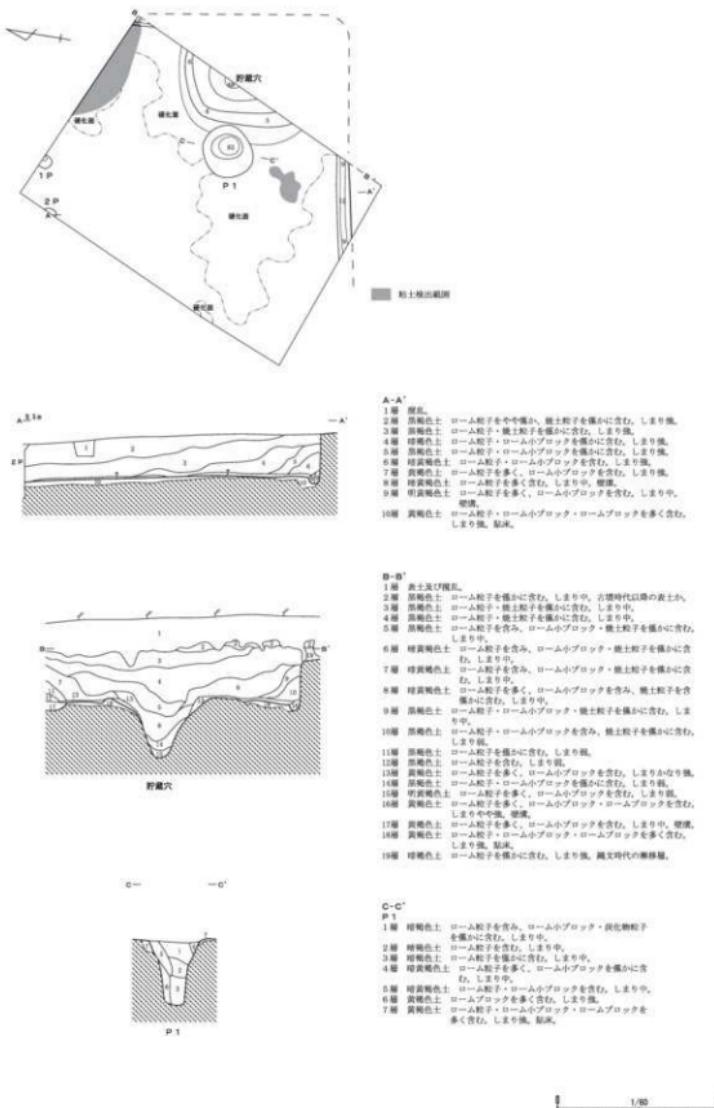
###### **遺物** (第8図、図版3-1、第3表)

###### [土器] (第8図1～4、図版3-1-1～4、第3表)

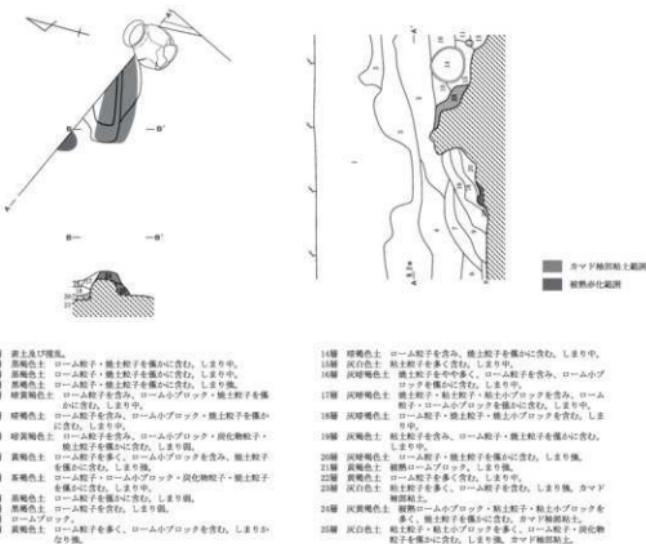
図化し得た資料のみを提示する。1・2は土師器壺形土器、3・4は土師器瓢形土器である。

###### [その他] (第8図5、図版3-1-5)

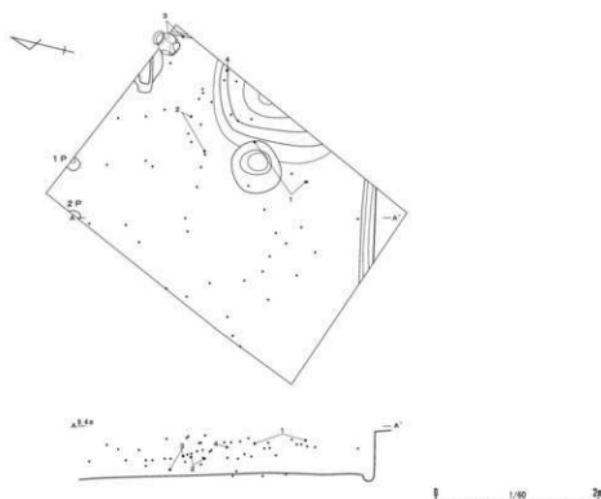
5は穿孔貝塚穴痕跡軟質泥岩である。長さ3.2cm・幅2.1cm・厚さ2.2cm・重さ5.3g。細かい穿孔が10か所確認でき、大きさ4×2mm、深さ2mm程度である。色調は白色～淡いピンク色である。被熱のため、赤化していると考えられる。覆土中からの出土である。



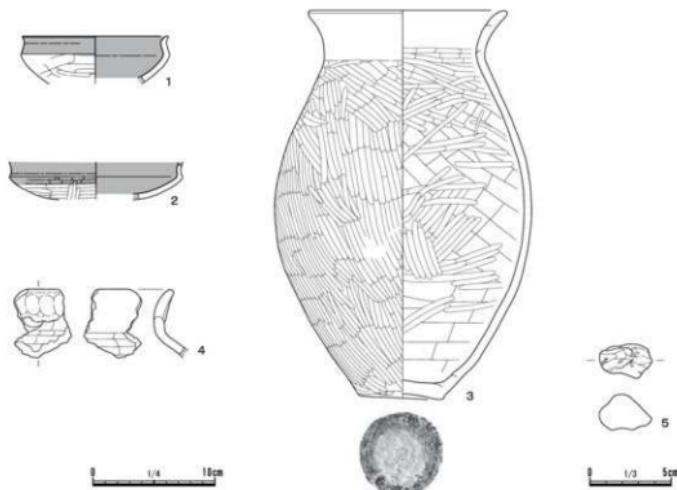
第5図 103号住居跡（1／60）



第6図 103号住居跡カマド (1/30)



第7図 103号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第8図 103号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

持因番号 図版番号	種別 器種	部 位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎 土	出土位置
第8図1 図版3-1-1	土師器 环	口縁部～ 体部下半 10%	高 [3.9] 口 (12.0)	いわゆる比企型环／口縁部は 短く外反する／口縁部と底部 との境に穂をもつ／内面及び 外面の口縁部は赤彩／人面系 土師器	内面：口縁部は横ナデ、以下は ヘラナデ／外面：口縁部は横ナ デ、以下はヘラ削り	にぶい黄褐色／砂粒を やや多く含む	覆土中
第8図2 図版3-1-2	土師器 环	口縁部～ 底部 10%	高 [3.1] 底 (14.2)	有段环／口縁部は外反する／ 口縁部と底部との境に段をも つ／丸底／内面及び外面の口 縁部～直下は赤彩／人面系土 師器	内面：口縁部は横ナデ、以下は ヘラナデ／外面：口縁部は横ナ デ、以下はヘラ削り後へラ磨 き調整	明褐色／砂粒を含む	覆土中
第8図3 図版3-1-3	土師器 甕	ほぼ 完形成	高31.9 口16.4 底7.0	口縁部は外反する／脚部から 口縁部の移行にはスムーズ／最 大径は脚部中央位にもつ／脚部 は卵形状にやや長脚胴味／底 部は輪台状	内面：口縁部は横ナデ、以下は 粗いヘラ磨き調整／外面：口縁 部は横ナデ、以下はヘラ磨き	黄褐色／砂粒を多く、 角閃石・石英を僅かに 含む	覆土中 カマド右袖窟
第8図4 図版3-1-4	土師器 甕	口縁部～ 胸壁上半 の小破片	高 [5.6] 厚0.9	複合口縁／口縁部は外反する	内面：口縁部は横ナデ、以下 はヘラナデ	にぶい黄褐色／砂粒を 多く、小石・雲母を僅 かに含む	覆土中

第3表 103号住居跡出土土器一覧

## (3) ピット

## 1号ピット

## 遺構 (第9図)

[位置] 調査区北西端。

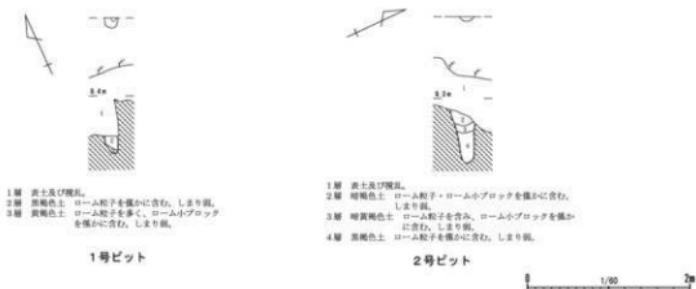
[検出状況] 調査区北壁際で半分が検出された。103Hを切る。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸現況14.9cm／短軸15.5cm／深さ8cm。

[覆土] 2層に分層された。しまりの弱い黒褐色土（2層）を主体とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の様相から中世以降と推定される。



第9図 ピット (1/60)

## 2号ピット

### 遺構 (第9図)

[位置] 調査区西端部。

[検出状況] 調査区西壁際で半分が検出された。103Hを切る。

[構造] 平面形：方形か。規模：長軸現況17.5cm／短軸現況6.5cm／深さ21cm。

[覆土] 3層に分層された。しまりの弱い黒褐色土（4層）を主体とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の様相から中世以降と推定される。

### (4) 遺構外出土遺物 (第10図、図版3-2、第4・5表)

ここでは、確認調査から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物が出土した。

#### ①縄文時代の遺物

##### [石器] (第10図1～3、図版3-2-1～3、第4表)

1は楔形石器、2は打製石斧、3は敲石である。

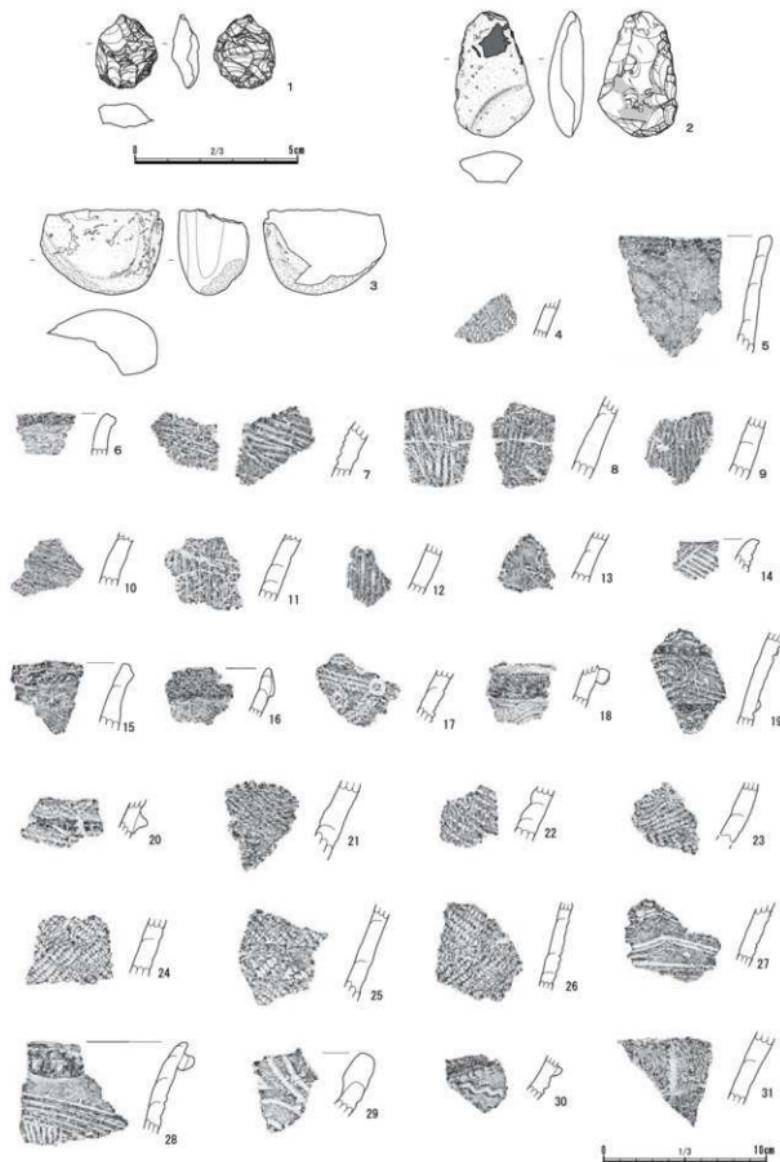
##### [土器] (第10図4～31、図版3-2-4～31、第5表)

早期・前期・中期の土器が出土している。各時期の報告点数は、早期10点、前期14点、中期4点の合計28点である。

4～13は早期の土器である。4は早期前葉の撚糸文系土器で、5～13は早期後葉の条痕文系土器である。

14～27は前期の土器である。14～26は前期前葉の羽状縄文系土器で、そのうち14～22は花積下層式土器である。27は前期後葉の諸磯a式土器である。

28～31は中期の土器である。28は中期初頭の五領ヶ台式土器、29・30は中期前葉の阿玉台式土器、31は中期後葉の加曾利E式土器である。



第10図 遺構外出土遺物 (2/3 + 1/3)

標図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第10図1 図版3-2-1	楔形石器	黒曜石	23.0	19.0	8.6	3.2	完形／上下両端に溝れあり／上下縦方向の剥離面あり	103H覆土中
第10図2 図版10-2	打製石斧	砂岩	77.5	49.1	21.7	94.4	完形／指痕／正面の全体に研磨面あり・磨石の一部を転用か／裏面に研磨面あり／裏面のみに二次加工あり／厚手の不定形削片を素材とする	確認調査時
第10図3 図版3-2	敲石	砂岩	52.8	76.0	43.6	147.2	上半部を欠損する／正面に研磨面あり／下部に敲打痕あり	103H P1覆土中

第4表 遺構外出土石器一覧

(単位:mm・g)

標図番号 図版番号	器種 種別	部 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態等	文様・調整等	胎 土	時 期 型 式	出土遺構 出土位置
第10図4 図版3-2-4	深鉢	胴部 破片	厚0.7	外縁	外面：斜位のL摺条文／内面：ミガキ	明褐色／赤褐色粒子・白色砂粒を含む	繩文早期後葉 (摺条文系)	確認調査時
第10図5 図版3-2-5	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口唇部が尖頭状。外 面が肥厚／僅かに外 縁する	外外面：斜位の条痕文	褐色／織維・角閃石・ 白色砂粒を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図6 図版3-2-6	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	口唇部は平坦で、肥 厚／僅かに外縁す る	外面：ナデ／内面：口縁部上 端ナデ	明黄褐色／織維・白色 砂粒を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図7 図版3-2-7	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外縁	外面：横位の条痕文／内面： 横位・斜位の条痕文	明黄褐色／織維・白色 砂粒を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図8 図版3-2-8	深鉢	胴部 破片	厚1.3	外縁	内外面：縱位・斜位の条痕文	明黄褐色／織維・角閃 石・砂粒を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図9 図版3-2-9	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外縁	外面：縱位の条痕文	明黄褐色／織維・角閃 石・砂粒・小礫を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図10 図版3-2-10	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外縁	内外面：横位の条痕文	褐色／織維・角閃石・ 白色針状物質・砂粒を含 む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図11 図版3-2-11	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外縁	外面：縱位・斜位の条痕文／ 内面：横位・斜位の条痕文	明黄褐色／織維・砂 粒・小礫を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図12 図版3-2-12	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外縁	外面：縱位の条痕文／内面： 横位の条痕文	褐色／織維・角閃石・ 白色針状物質・砂粒を含 む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図13 図版3-2-13	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁	内外面：斜位の条痕文	褐色／織維・角閃石・ 白色針状物質・砂粒を含 む	繩文早期後葉 (条痕文系)	103H 覆土中
第10図14 図版3-2-14	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	平縁／外縁	外面：集合線による創傷文 か／内面：ミガキ	に赤い黄褐色／織維・ 砂粒を含む	繩文前期前葉 (花積下層2段)	103H 覆土中
第10図15 図版3-2-15	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	平縁、口唇部外縁が 肥厚／外縁	外面：単節摺文LRの横位施文 か／内面：ナデ	明黄褐色／織維・白色 砂粒を含む	繩文前期前葉 (花積下層2段)	103H 覆土中
第10図16 図版3-2-16	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	平縁／外縁／複合口 縁	外面：単節摺文LRの横位施文 ／内面：ナデ	に赤い黄褐色／織維・ 白色砂粒・小礫を含む	繩文前期前葉 (花積下層2段)	103H 覆土中
第10図17 図版3-2-17	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外縁	外面：LRRL3条1組の標示側面 圧痕が菱形を出し。その頂 部に円形の刺突。菱形の内部 には燃糸側面圧痕による渦巻 文が配される／内面：ナデ	明褐色／織維・白色砂 粒を含む	繩文前期前葉 (花積下層2段)	103H P1覆土中

第5表 遺構外出土繩文土器一覧(1)

博団番号 図版番号	器種 部 位	遺存状態	法量 (cm)	器形・形態等	文様・調整等	陶 土	時 期 型 式	出土遺構 出土位置
第10図18 図版3-2-18	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁	外面：幅広の隆帯貼り付け、 隆帯上に押圧／内面：ナデ	明褐色／織維・角閃石・ 白色砂粒を含む	織文前期前葉 (花植下層式)	確認調査時
第10図19 図版3-2-19	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁	外面：ナデは單節繩文LR、幅 狭の隆帯を貼り付け横位区画、 L燃糸文側面圧痕による継手文 を抽出し、間に棒状工具に による刺突文を充填／内面：ナ デ	明褐色／織維・角閃石・ 白色砂粒を含む	織文前期前葉 (花植下層式)	103H P1覆土中
第10図20 図版3-2-20	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外縁	外面：隆帯貼り付け、隆帯面 間に3条1組のL燃糸文側面圧 痕／内面：ナデ	明褐色／織維・砂粒を 含む	織文前期前葉 (花植下層式)	103H 覆土中
第10図21 図版3-2-21	深鉢	胴部 破片	厚1.4	外縁	外面：貝殻背丘痕文／内面： ナデ	明褐色／織維・砂粒・ 小謫を含む	織文前期前葉 (花植下層式)	103H 覆土中
第10図22 図版3-2-22	深鉢	胴部 破片	厚1.3	外縁	外面：貝殻背丘痕文	明褐色／織維・白色砂 粒・小謫を含む	織文前期前葉 (花植下層式)	確認調査時
第10図23 図版3-2-23	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外縁し、僅かに内凹 する	外面：單節LR繩文の横位施文 による羽状繩文／内面：ナデ	明褐色／白色砂粒を多 量に含み、織維・小謫 を含む	織文前期前葉 (羽状繩文系)	103H 覆土中
第10図24 図版3-2-24	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外縁	外面：單節LR繩文の横位施文 による羽状繩文／内面：ナデ	褐色／織維・砂粒を含 む	織文前期前葉 (羽状繩文系)	103H 覆土中
第10図25 図版3-2-25	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外縁	外面：單節LR繩文と單節LR 繩文の横位施文による羽状繩文／内面：ナデ	明褐色／織維・白色砂 粒を含む	織文前期前葉 (羽状繩文系)	103H 覆土中
第10図26 図版3-2-26	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外縁	外面：單節LR繩文の横位施文 による羽状繩文／内面：ナデ	褐色／織維・白色砂 粒・小謫を含む	織文前期前葉 (羽状繩文系)	103H 覆土中
第10図27 図版3-2-27	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外縁	外面：半截竹管の平行沈線に による波状文／内面：ナデ	褐色／織維・角閃石・ 白色針状物質・白色砂 粒を含む	織文前期後葉 (諸謫a式)	103H 覆土中
第10図28 図版3-2-28	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	平縁／外縁し、やや 外反する	外面：口唇部直下に押圧が施 された帽状の隆帯の貼り付け、 半截竹管による模位・謫位の 集合沈線文／内面：ナデ	にぶい黄褐色／雲母・ 白色砂粒を多量に含 み、石英を含む	織文中期初頭 (五箇ヶ台式)	103H 覆土中
第10図29 図版3-2-29	深鉢	口縁部 破片	厚1.6	波状口縁／内溝し、 口唇部で外縁に屈曲 ／把手部か	外面：沈線による溝巻文／内 面：ナデ	明褐色／雲母・白色砂 粒を多量に含み、石英 を含む	織文中期前葉 (阿玉台II式)	103H 覆土中
第10図30 図版3-2-30	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	波状口縁／外縁し、 内溝する	外面：隆帯間に連続爪形文、 横位の波状沈線文／内面：ナ デ	にぶい褐色／白色砂粒 を多量に含み、石英・ 雲母を含む	織文中期前葉 (阿玉台II式)	103H 覆土中
第10図31 図版3-2-31	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外縁	外面：謫位の沈線文／内面： ナデ	明褐色／砂粒・小謫 を含む	織文中期後葉 (加曾利E3式)	103H 覆土中

第5表 遺構外出土繩文土器一覧（2）

## 第3章 中野遺跡第123地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

第2章の第1節を参照。

### 第2節 調査の経緯

#### (1) 調査に至る経過

令和3年3月11日、工事の施工責任者であるマックホーム株式会社（代表取締役 吉野 満。以下、施工責任者）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町1丁目1494番1（面積120.16m<sup>2</sup>）地内に木造3階建分譲住宅建設（2棟）を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228-09-002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

3月14日、教育委員会は、施工責任者より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第123地点として、3月24日に確認調査を実施した。確認調査は、第11図に示すように調査区内に北一南方向に2本のトレンチ（1・2 T r）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に構造確認作業を行った。その結果、中世以降の土坑10基・溝跡1本・ピット6本、調査区全域で段切状遺構を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに施工責任者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

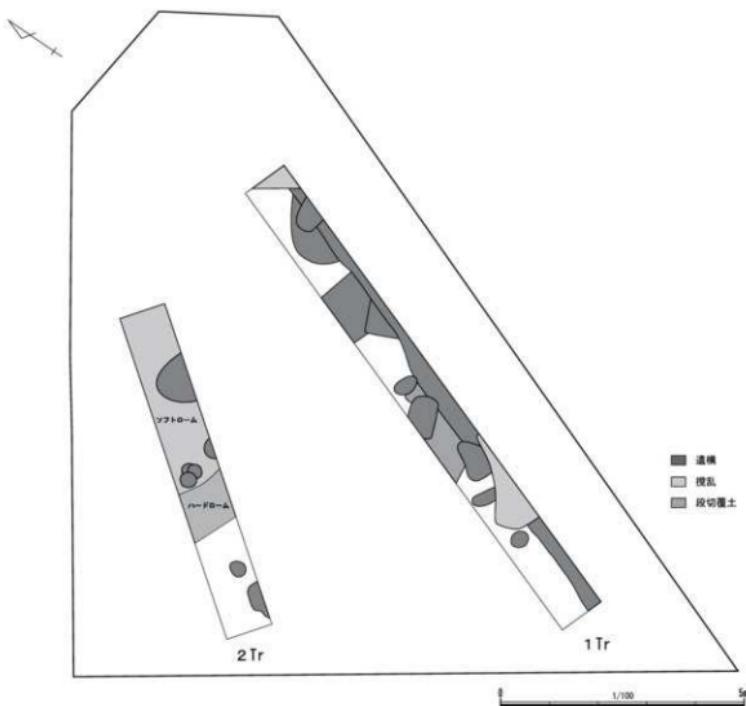
6月10日に施工責任者と埋蔵文化財の保存措置について事前打合せを行った。その結果、分譲住宅の標準基礎部分は盛土保存とし、深基礎部分（10.86m<sup>2</sup>+8.07m<sup>2</sup>=18.93m<sup>2</sup>）については十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

6月17日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、土地所有者兼土木工事主体者である個人（以下、工事主体者）から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。

6月23日、教育委員会は、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、施工責任者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

7月4日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、6月28日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、7月5日から発掘調査を実施した。



第11図 確認調査時の遺構分布（1／100）

## (2) 発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の経過について説明する。各遺構の精査経過については、第6表の発掘調査工程表にも示した。

7月5日 発掘調査を開始する。第12図のように、北側の調査区をB区、南側の調査区をA区とし、A・B区の重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始し、本日中に終了する。残土置場は調査区外の西側で処理した。調査区の整備・調査器材の搬入を行う。

6日 本日から人員を導入し、まずA・B区の遺構確認作業を行う。B区から遺構の精査を着手し、中世以降の土坑（704・706・708・710D）、ピット（1～3P）の精査を開始する。基準点移動を実施する。

7日 B区の中世以降の土坑（707・709D）、ピット（4P）の精査を開始する。705～708D、1～4Pの精査を終了する。

8日 B区の中世以降のピット（5P）の精査を開始する。709Dの覆土中から粘土・焼土が集

中して検出されたため、写真撮影及び検出範囲の実測を行う。710D・5Pの精査を終了する。

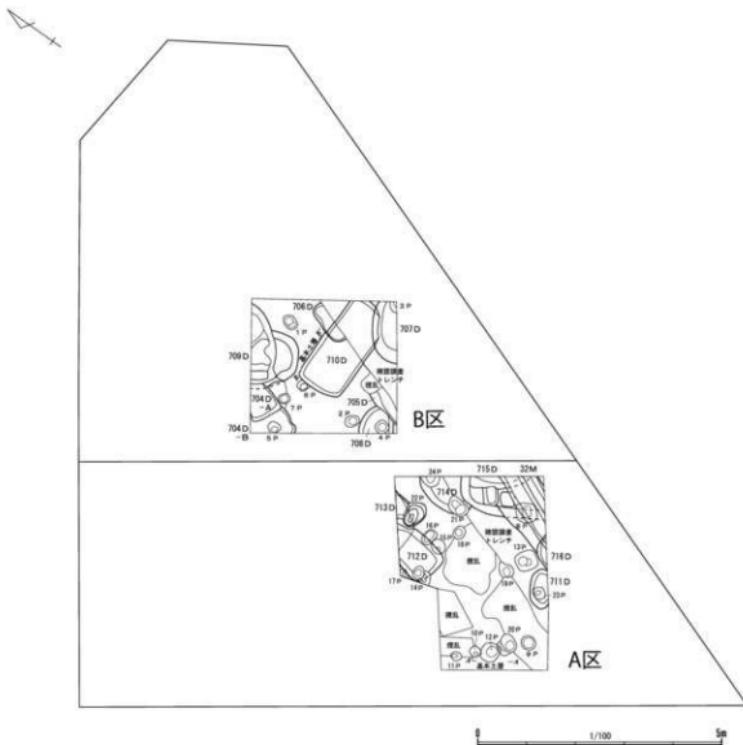
- 11日 B区の遺構精査を引き続き行う。
- 12日 B区の中世以降のピット（6・7P）の精査を開始する。709D・6Pの精査を本日中に終了する。本日からA区の遺構の精査に着手し、A区の中世以降のピット（8・9P）の精査を開始する。8Pの精査は本日中に終了する。
- 14日 B区の7Pの精査を終了する。基本土層A-A'の掘削を行う。A区の中世以降の土坑（711・712D）、ピット（10～12・14・15P）の精査を開始する。711D・9Pの精査を終了する。
- 19日 基本土層A-A'の写真撮影・実測を行い、本日でB区の調査を終了する。A区の中世以降

	令和4年7月					
	6/11	10/11	15/11	20/11	25/11	30/11
表土剥ぎ作業	7.5					
(中止)休憩						
704D	7.6		7.12			
705D	7.6	7.7				
706D	7.6	7.7				
707D	7.7					
708D	7.6	7.7				
709D	7.7		7.12			
710D	7.6	7.8				
711D		7.14				
712D		7.14			7.21	
713D			7.19	7.21		
714D			7.19	7.21		
715D			7.19	7.21		
716D			7.19	7.21		
32M			7.19	7.21		
1P	7.6	7.7				
2P	7.6	7.7				
3P	7.6	7.7				
4P	7.7					
5P	7.6					
6P		7.12				
7P		7.12	7.14			
8P		7.12				
9P		7.12	7.14			
10P		7.14		7.19		
11P		7.14		7.19		
12P		7.14		7.20		
13P			7.19			
14P		7.14		7.19		
15P		7.14		7.19		
16P			7.19			
17P			7.19			
18P			7.19			
19P			7.19			
20P			7.19	7.20		
21P			7.19	7.20		
22P				7.20		
23P				7.20		
24P			7.19	7.23		
埋戻し作業					7.25	

第6表 中野遺跡第123地点の発掘調査工程表

の土坑（713～716 D）、ピット（13・16～21・24 P）の精査を開始する。715 D の掘削中に下から溝状の遺構が検出されたため、溝跡（32 M）とした。10・11・13～19 P の精査を終了する。

- 20日 A区の中世以降のピット（22・23 P）の精査を開始する。12・20・21～23 P の精査を終了する。A区北壁・東壁・南壁セクションの実測を行う。基本土層B-B'の掘削を行う。  
 21日 712～716 D、32 M、24 P の精査を終了する。A区北壁・東壁・南壁セクションの写真撮影を行う。基本土層B-B'の写真撮影・実測を行う。本日でA区の調査を終了する。調査器材の搬出を行う。  
 25日 重機による埋め戻し作業を行う。本日で発掘作業を終了する。



第12図 遺構分布図（1／100）

### (3) 基本層序

本地点の基本層序の確認および自然地形を考察するため、テストピット（以下、TP）をA・B区それぞれ1か所に設定し、土層の記録を行った（第13図）。A区TPは10・12Pの壁面、B区TPは710Dの壁面を利用し、深堀りを行った。A区TPでは立川ローム第VII～X層、B区TPでは第V～X層を確認した。ともに第VII層・第IX層の中間層である第VIII層は確認されなかった。

**立川ローム第V層：**黄褐色土。いわゆる第一黒色帶である。B区TPでの層厚は15cm程度であるが、本層上位は削平を受けていると考えられる。A区TPには残存しない。

**立川ローム第VI層：**明黄褐色土。いわゆるAT包含層準である。層厚は15cm程度。A区TPには残存しない。

**立川ローム第VII層：**黄褐色土。いわゆる第二黒色帶である。層厚は10～20cm程度。ただし、A区TPでの本層上位は削平を受けていると考えられる。

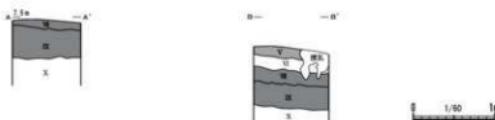
**立川ローム第IX層：**褐色土。層厚は30～40cm程度。

**立川ローム第X層：**黄褐色土。層厚は、掘削深度が本層上位までのため不明。

それぞれのTPで確認できなかった層もあるが、本地点での基本層序は武藏野台地で確認される立川ローム層の標準的な層序と言える。

本地点は、柳瀬川右岸に位置しており、台地縁辺部の斜面地にあたる。A区・B区TPにおける基本層序の深度を比較すると、第VII層と第IX層の境目は約5.5°、南から北へ向かって傾斜しており、自然地形が斜面地であったことを傍証する結果となった。

そして、A区TPで第II～VI層、B区TPで第II層～第IV層の土層が確認されなかったこと、隣接地の中野遺跡第78地点で段切状遺構が検出されていることを踏まえると（大久保・尾形・青木 2014）、本地点においても、中世以降の地形の人工改変、いわゆる段切が行われたことが推測される。中世以降に平場造成のため、A区付近では第VII層上位、B区付近では第V層上位まで削平されたと考えられる。



第13図 基本土層（1/60）

## 第3節 検出された遺構・遺物

### (1) 概要

本地点からは、中世以降の土坑13基（704～716D）、溝跡1本（32M）、ピット24本（1～24P）が検出された。また、A・B区ともに全体で段切状遺構が認められた。

中世以降の時代設定は、遺物が出土した場合、陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

また、遺構外からは、近世以降の遺物が出土している。

## (2) 土坑

## 704号土坑

**遺構** (第14図、第7表)

[位置] B区の西側。

[検出状況] 709Dに切られる。5Pと重複する。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸現況1.06m／短軸現況0.82m／深さ47cm。壁：約75°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-24°-E。

[覆土] 4層(2～5層)に分層された。覆土内での切り合いが確認されたため、切っている方を704D-A、切られている方を704-Bと区分した。ローム粒子・小ブロックをやや多く含む暗褐色土を主体とする。

[遺物] 磁器1点、陶器1点、土器1点が出土した。

[時期] 出土遺物・覆土の観察から、近世以降(19世紀以降)と思われる。

**遺物** (図版7-1-1～3、第8表)**[陶磁器]** (図版7-1-1・2、第8表)

1は磁器で、瀬戸・美濃系の碗である。2は陶器で、瀬戸・美濃系の徳利である。ともに時期は近世以降(19世紀以降)のものである。

**[土器]** (図版7-1-3、第8表)

3は瓦質土器で、在地系の七輪の上置きと考えられる。時期は近世以降(19世紀以降)のものである。

## 705号土坑

**遺構** (第14図、第7表)

[位置] B区の南側。

[検出状況] 708Dと重複する。北側は攪乱される。

[構造] 平面形：長方形か。規模：長軸現況0.83m／短軸現況0.33m／深さ15cm。壁：立ち上がりの角度は不明。長軸方位：N-22°-E。

[覆土] しまりの強い、茶褐色土・暗黃褐色土の上下2層(2・3層)に分層された。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

## 706号土坑

**遺構** (第14図、第7表)

[位置] B区の北東側。

[検出状況] 710Dを切る。

[構造] 平面形：長円形。規模：長軸0.90m／短軸現況0.33m／深さ14cm。壁：約65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-21°-E。

[覆土] しまりの弱い黒褐色土の単層である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 707号土坑

**遺構** (第14図、第7表)

[位置] B区の南東側。

[検出状況] 710D、3Pを切る。

[構造] 平面形：長円形か。規模：長軸現況1.30m／短軸現況0.51m／深さ42cm。壁：約60°～90°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-55°-E。

[覆土] 6層(2～8層)に分層された。ローム粒子・ブロックを含む暗褐色土・黄褐色土を主体とする。

[遺物] 陶器1点が出土した。

[時期] 出土遺物・覆土の観察から、中世(15～16世紀代)と思われる。

**遺物** (図版7-1-1、第8表)

[陶器] (図版7-1-1、第8表)

1は陶器で、瀬戸・美濃系の皿である。時期は中世(15～16世紀代)のものである。

### 708号土坑

**遺構** (第14図、第7表)

[位置] B区の南側。

[検出状況] 705D、4Pと重複する。

[構造] 平面形：不明。規模：長軸現況0.73m／短軸現況0.66m／深さ12cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-7°-E。

[覆土] 茶褐色土の単層(2層)である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 709号土坑

**遺構** (第14図、第7表)

[位置] B区の北側。

[検出状況] 704Dを切る。

[構造] 平面形：不整形。規模：長軸現況1.84m／短軸現況0.97m／深さ79cm。壁：約60°～90°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-55°-E。

[覆土] 15層(2～16層)に分層された。暗褐色土を主体とする覆土(11～16層)が入り込んだ後、焼土ブロック、粘土ブロックを多く含む赤褐色土(4～9層)が堆積し、しまりが強くローム粒子・ブロックを多く含む暗黃褐色土(3層)によって覆われる。焼土が多いこと、また、被熱を受けた遺物が出土したことから、焼却された物が廃棄された土坑、もしくは土坑内で不用品が焼却された痕跡と推測される。

[遺物] 磁器1点、陶器1点、瓦6点、鉄製品(鎌鍔、円環状鉄製品)2点、ガラス製品1点、石製品(凝灰岩塊)1点、コンクリート塊1点などが出土した。今回は図示し得る資料のみ掲載する。

[時期] 出土遺物・覆土の観察から近代以降と思われる。

**遺 物** (第16図3~11、図版7-1-1~13、第8・9表)**[陶 磁 器]** (図版7-1-1・2、第8表)

1は磁器で、肥前系の碗である。2は陶器の徳利である。ともに時期は近世（18世紀前半）のものである。

**[ 瓦 ]** (第16図3~8、図版7-1-3~8、第9表)

3~8は桟瓦で、近世以降の所産と考えられる。

**[鉄 製 品]** (第16図9・10、図版7-1-9・10、第9表)

9は鉄鎌、10は円環状の鉄製品である。

**[ガラス製品]** (第16図11、図版7-1-11、第9表)

11はガラス製の小瓶である。

**[石 製 品]** 図版7-1-12、第9表)

12は凝灰岩塊の破片で、材質はいわゆる大谷石である。

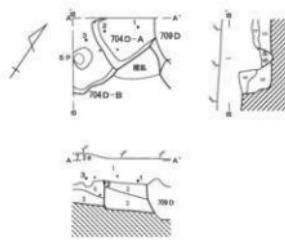
**[コンクリート]** 図版7-1-13、第9表)

13はコンクリート塊の破片である。

**710号土坑****遺 構** (第15図、第7表)**[位 置]** B区の中央付近。**[検出状況]** 706・707Dに切られ、6Pと重複する。**[構 造]** 平面形：長方形。規模：長軸2.12m／短軸1.00m／深さ66cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-89°-W。**[覆 土]** 7層に分層された。しまりの弱い茶褐色土・黒褐色土（4~7層）が堆積した後、しまりのある茶褐色土・黄褐色土（1~3層）に覆われる。**[遺 物]** 石製品（砥石）1点が出土した。**[時 期]** 出土遺物・覆土の観察から中世以降と思われる。**遺 物** (第16図、図版7-1-1、第9表)**[石 製 品]** (第16図、図版7-1-1、第9表)

1は砥石である。

**711号土坑****遺 構** (第15図、第7表)**[位 置]** A区の南東側。**[検出状況]** 23Pと重複する。**[構 造]** 平面形：長円形。規模：長軸0.84m／短軸現況0.42m／深さ55cm。壁：約70°~90°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-54°-E。**[覆 土]** 5層（3~7層）に分層された。上から、ローム粒子を多く含む茶褐色土・暗黄褐色土・黒褐色土となる。**[遺 物]** 出土しなかった。



1番 土上及び複疊。

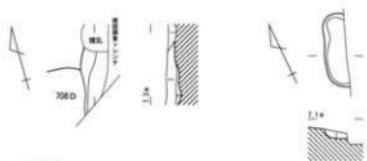
- 704D-A  
2層 塔褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック、粘土粒子を僅かに含む。しまりや強。
- 3層 塔褐色土 ローム粒子+、ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック、炭化物粒子を含む。しまりや。
- 704D-B  
4層 塔褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
- 5層 塔褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子+ロームブロックを含む。しまり中。

704号土坑



- 1層 土上及び複疊。
- 2層 塔褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック、粘土粒子を僅かに含む。しまりや。

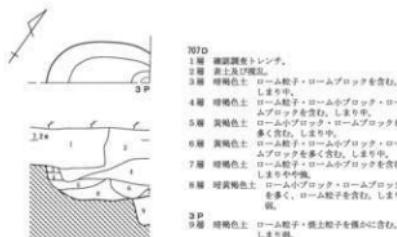
705号土坑



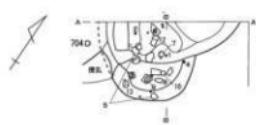
- 1層 塔褐色土。
- 2層 塔褐色土上 ローム粒子+、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや強。
- 3層 塔褐色土下 ローム粒子+、ローム小ブロックを含む。しまり強。

1番 黒褐色土。 ローム粒子+、ローム小ブロック、粘土粒子を僅かに含む。しまり強。

706号土坑

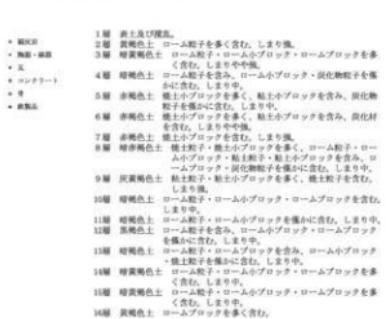


707号土坑・3号ビット



- 1層 土上及び複疊。
- 2層 塔褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック、粘土粒子を僅かに含む。しまりや。

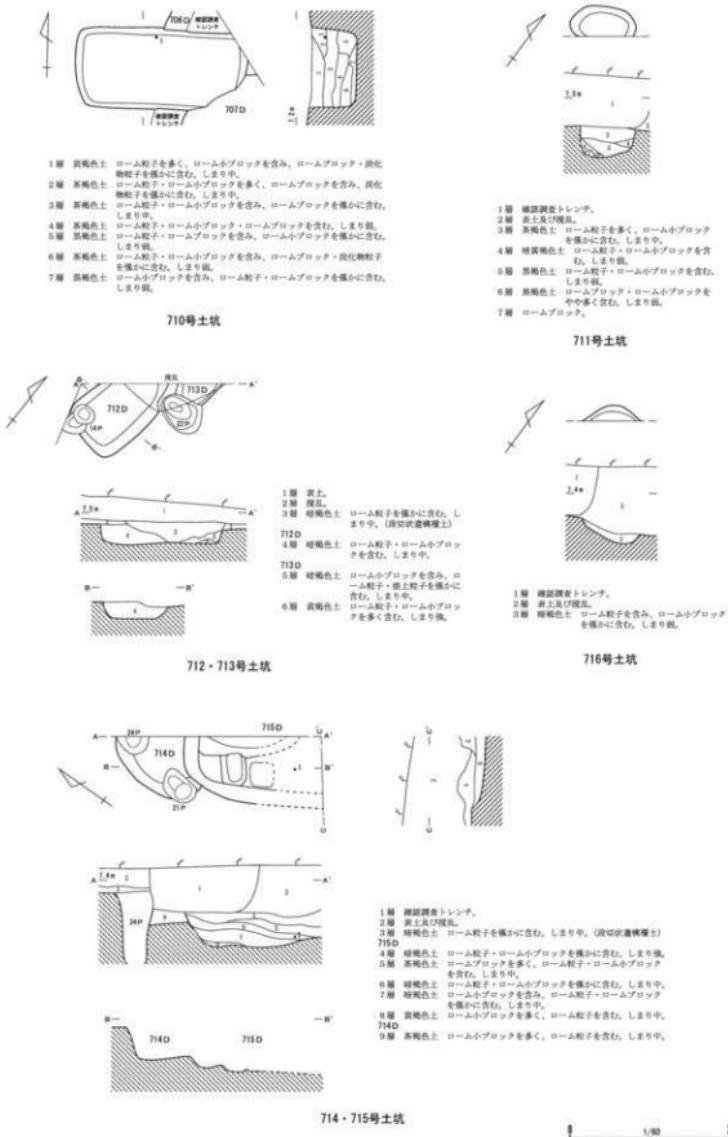
708号土坑



709号土坑

1/60 2m

第14図 土坑1 (1 / 60)



第15図 土坑2 (1/60)

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 712号土坑

**遺構** (第15図、第7表)

[位 置] A区の北西側。

[検出状況] 14Pに切られ、15~17Pを切る。713Dと重複する。北側が攪乱される。

[構 造] 平面形：長方形か。規模：長軸現況1.24m／短軸0.80m／深さ24cm。壁：約50°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-11°-E。

[覆 土] 暗褐色土の単層（4層）である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 713号土坑

**遺構** (第15図、第7表)

[位 置] A区の北側。

[検出状況] 712D、22Pと重複する。大部分が攪乱される。

[構 造] 平面形：不明。規模：長軸現況0.46m／短軸現況0.61m／深さ18cm。壁：約80°~90°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-5°-W。

[覆 土] 暗褐色土とローム粒子・ブロックを多く含む黄褐色土の上下2層（5・6層）に分層された。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 714号土坑

**遺構** (第15図、第7表)

[位 置] A区の北東側。

[検出状況] 715D、21・24Pに切られる。

[構 造] 平面形：不明。規模：長軸現況1.20m／短軸現況0.61m／深さ40cm。壁：立ち上がりの角度は不明。長軸方位：N-S。

[覆 土] ローム小ブロックを多く含む、茶褐色土の単層（9層）である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### 715号土坑

**遺構** (第15図、第7表)

[位 置] A区の東側。

[検出状況] 714D、32Mを切る。

[構 造] 平面形：不明。底面に凹凸がみられる。規模：長軸現況1.80m／短軸現況0.72m／深さ46cm。壁：約65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-36°-W。

**[覆 土]** 5層（4～8層）に分層された。北方向から南方向へ流れ込むようにして、上から暗褐色土・茶褐色土・黄褐色土が堆積する。

**[遺 物]** 陶器1点が出土した。

**[時 期]** 出土遺物・覆土の観察から近世以降（19世紀以降）と思われる。

**[遺 物]** (図版7-1-1、第8表)

**[陶 器]** (図版7-1-1、第8表)

1は唐津系の瓶である。時期は近世以降（19世紀以降）のものである。

## 716号土坑

**[遺 構]** (第15図、第7表)

**[位 置]** A区の南東側。

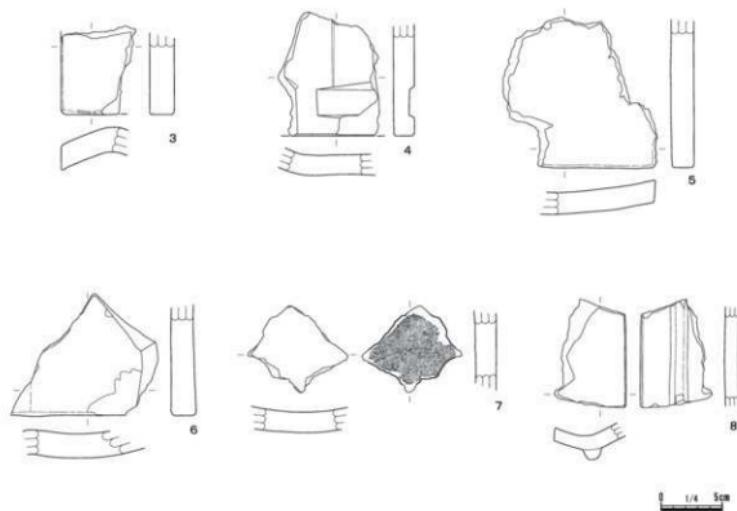
**[検出状況]** 32Mを切る。

**[構 造]** 平面形：不明。規模：長軸現況0.72m／短軸現況0.24m／深さ32cm。壁：約30°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-53°-E。

**[覆 土]** しまりの弱い暗褐色土の単層（3層）である。

遺構名	平面形	規模(m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時 期
		長軸	短軸	深さ				
704D	長方形	(1.06)	(0.82)	0.47	N-24°-E	4層／覆土内の切り合いで観察されたため、704-A・704-Bに区分した／709Dに切られ、5Pと重複する	磁器1点・陶器1点・土器1点	近世以降 (19c以降)
705D	長方形か	(0.83)	(0.33)	0.15	N-22°-E	2層／708Dと重複する	遺物なし	中世以降
706D	長円形	0.90	(0.33)	0.14	N-21°-E	単層／710Dを切る	遺物なし	中世以降
707D	長円形か	(1.30)	(0.51)	0.42	N-55°-E	6層／710D、3Pを切る	陶器1点	中世 (15～16c代)
708D	不明	(0.73)	(0.66)	0.12	N-7°-E	単層／705D、4Pと重複する	遺物なし	中世以降
709D	不整形	(1.84)	(0.97)	0.79	N-55°-E	15層／704Dを切る／粘土・焼土が集中して検出された	磁器1点・陶器1点・瓦6点・鉄製品2点・ガラス製品1点・石製品1点・コンクリート塊1点	近代以降
710D	長方形	2.12	1.00	0.66	N-89°-W	7層／706・707Dに切られ、6Pと重複する	石製品1点	中世以降
711D	長円形	0.84	(0.42)	0.55	N-54°-E	5層／23Pと重複する	遺物なし	中世以降
712D	長方形か	(1.24)	0.80	0.24	N-11°-E	単層／14Pに切られ、15～17Pを切る／713Dと重複する	遺物なし	中世以降
713D	不明	(0.46)	(0.61)	0.18	N-5°-W	2層／712D、22Pと重複する	遺物なし	中世以降
714D	不明	(1.20)	(0.61)	0.40	N-S	単層／715D、21・24Pに切られる	遺物なし	中世以降
715D	不明	(1.80)	(0.72)	0.46	N-36°-W	5層／714D、32Mを切る	陶器1点	近世以降 (19c以降)
716D	不明	(0.72)	(0.24)	0.32	N-53°-E	単層／32Mを切る	遺物なし	中世以降

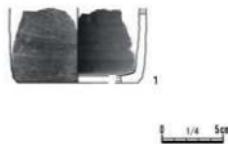
第7表 土坑一覧



709号土坑



710号土坑



715号土坑

第16図 土坑出土遺物 (1/3・1/4)

擇図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定产地	時期
図版7-1-1	704D	磁器	碗	厚0.2	外面に草花文／胎土：色調は灰白色、精鍛されている／口縁部～体部小破片	瀬戸・美濃系	近世以降 (19c以降)
図版7-1-2	704D	陶器	徳利	厚0.3	外面に灰釉、真人あり／胎土：色調は灰白色、精鍛されている／胴部小破片	瀬戸・美濃系	近世以降 (19c以降)
図版7-1-3	704D	土器	七輪の上置きか	高1.9 厚1.1	瓦質土器／胎土：色調は淡黄色、砂粒を僅かに含む／破片	在地系	近世以降 (19c以降)
図版7-1-1	707D	陶器	皿	厚0.5	内外面に灰釉／胎土：色調は浅黄色、砂粒を僅かに含む／口縁部～体部小破片	瀬戸・美濃系	中世 (15～16c代)
図版7-1-1	709D	磁器	碗	厚0.2	白磁／胎土：色調は灰白色、精鍛されている／口縁部小破片	肥前系	近世 (18c前半)
図版7-1-2	709D	陶器	徳利	厚0.2	内外面に灰釉／胎土：色調は褐灰色、精鍛されている／胴部小破片	不明	近世 (18c前半)
第16図1 図版7-1-1	715D	陶器	瓶	高[6.2] 底(9.8)	内面に明赤褐色の釉・外面に明赤褐色及び灰白色の釉がかかる／胎土：色調は赤褐色、砂粒を含む／体部～底部破片	吉津系	近世以降 (19c以降)

第8表 中世以降の土坑出土陶磁器・土器一覧

擇図番号 図版番号	出土遺構	種別	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	特徴	時期
第16図3 図版7-1-3	709D	瓦	棟瓦	7.1	6.0	2.0	103.5	小破片、棟部分が遺存／胎土：褐色、砂粒を含む／煤が付着しており。被熱を受けている	近世以降
第16図4 図版7-1-4	709D	瓦	棟瓦	10.1	8.0	1.7	156.0	小破片、棟部分が遺存／表面に長方形の溝みをもつ／胎土：にぶい黄褐色、砂粒を含む	近世以降
第16図5 図版7-1-5	709D	瓦	棟瓦	12.4	11.7	1.8	313.5	破片、彫切込み部分が遺存／胎土：黄灰色、砂粒を多く含む／煤が付着しており。被熱を受けている	近世以降
第16図6 図版7-1-6	709D	瓦	棟瓦	10.0	9.8	2.0	172.0	小破片／胎土：にぶい黄褐色、砂粒を多く含む／煤が付着しており。被熱を受けている	近世以降
第16図7 図版7-1-7	709D	瓦	棟瓦	5.7	8.2	1.8	74.5	小破片／胎土：黄灰色、砂粒を多く含む／裏面に14本一単位の櫛搔き	近世以降
第16図8 図版7-1-8	709D	瓦	棟瓦	8.6	5.9	2.0	85.0	小破片、棟部分が遺存／裏面に突起を有する／胎土：褐色、砂粒を含む	近代以降
第16図9 図版7-1-9	709D	鉄製品	鎌	7.3	2.5	0.5	13.0	曲刃／折り返し部分を欠損／全体が錆で覆われている	中世以降か
第16図10 図版7-1-10	709D	鉄製品	円環	4.4	3.6	1.1	18.2	完形／全体が錆で覆われている	中世以降
第16図11 図版7-1-11	709D	ガラス 製品	小瓶	1.9	3.0	0.1	3.8	上部は欠損／外面に花弁を模した凹凸が繰り返される／緑灰色・透明／型吹き成形	近代以降
図版7-1-12	709D	石製品	湖灰岩塊	9.7	6.3	6.3	463.5	方形か／加工面が4面遺存／オリーブ灰色・白色の砂粒を含む／煤が付着しており。被熱を受けている／大谷石	近代以降
図版7-1-13	709D	コンクリート	コンクリート塊	6.9	5.0	4.0	179.5	方形か／成形面が3面遺存・その他のは欠損している／灰白色／赤褐色及び灰色の1～3cm程度の円窪を含む	近代以降
第16図1 図版7-1-1	710D	石製品	砥石	5.0	2.1	2.1	32.6	上下両面欠損／表裏・両側面に使用面あり／凝灰岩製	中世以降

(単位: cm, g)

第9表 中世以降の土坑出土瓦・鉄製品・ガラス製品・石製品一覧

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

### (3) 溝 跡

#### 32号溝跡

**遺 構** (第17図)

[位 置] A区の東側。

[検出状況] 北側、南側は調査区外に延びる。715・716Dに切られる。8Pと重複する。

[構 造] 規模：現況長1.02m／現況幅1.38m／下端0.6m／深さ75cm。断面形：底面の東側がテラス状に1段高くなる。壁：東側は約80°の傾斜角度をもち、西側は約85°の傾斜角度をもつ。走向方位：N-28°-E。

[覆 土] 6層(3~8層)に分層された。ローム粒子を僅かに含む暗褐色土・黒褐色土を主体とする。埋没後、715・716Dに切られる。

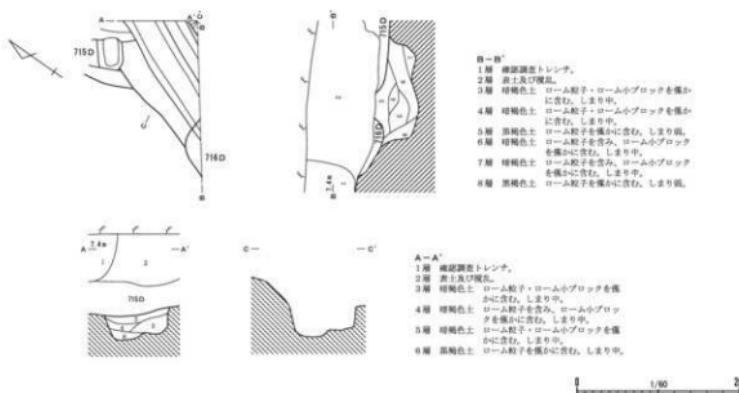
[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から中世以降と思われる。

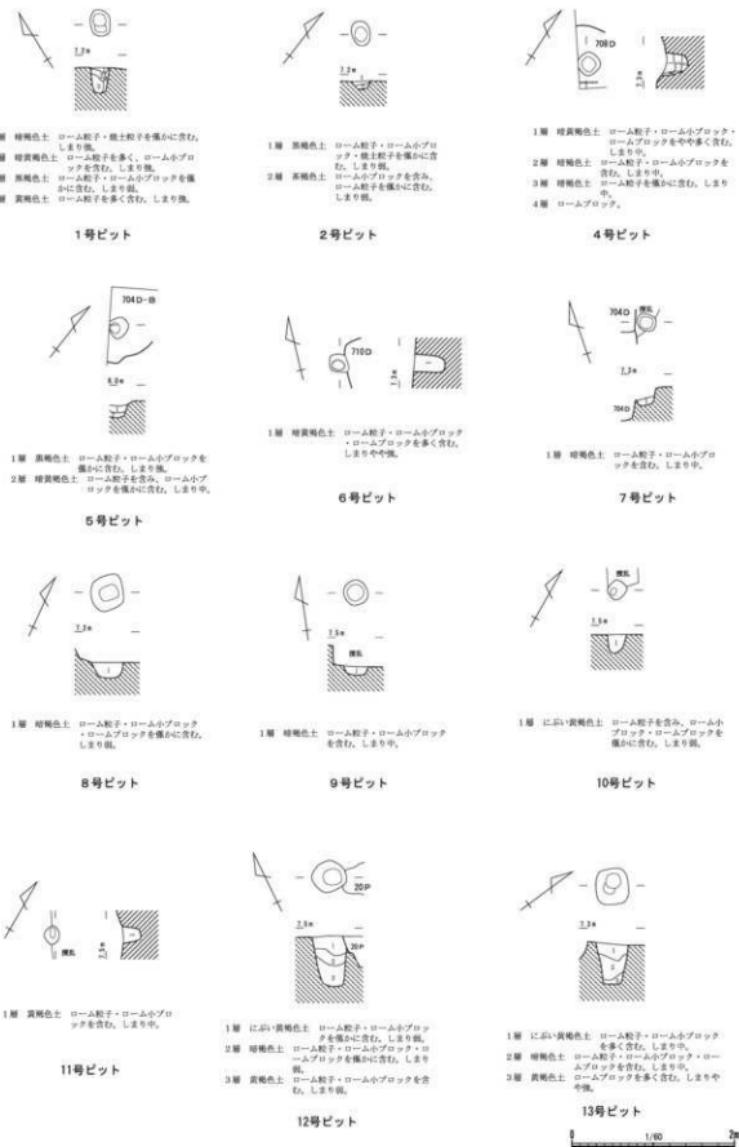
### (4) ピット (第14・18・19図、第10表)

調査区域内から検出されたピットは、全部で24本(1~24P)である。これらは覆土の観察から、中世以降の時期のものと考えられる。いずれのピットからも遺物は出土しなかった。

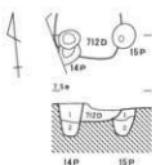
ピットの基本内容については、第10表に示した。



第17図 32号溝跡 (1/60)

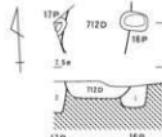


第18図 ピット1 (1/60)



14号・15号ピット

- 1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
- 2層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 15P 1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 2層 にひい黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

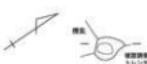


16号・17号ピット

- 16P 1層 塗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・  
ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
- 17P 2層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
しまり中。

- 1層 黄褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・  
ローム小ブロックを含む。しまり中。

18号ピット



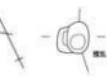
- 1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
しまり中。
- 2層 黄褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

19号ピット



- 1層 にひい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロッ  
クを含む。しまり中。

20号ピット



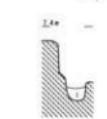
- 1層 にひい黄褐色土 ローム小ブロック・ローム  
ブロックを含む。しまり中。

21号ピット

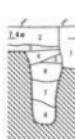


- 1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
地盤粒子に僅かに含む。しまり中。
- 2層 黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム  
粒子を含む。しまり中。

22号ピット



- 1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。



24号ピット

- 1層 塗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。(確認後塗褐色土)
- 2層 黄褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。
- 3層 塗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 4層 塗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 5層 黄褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。
- 6層 黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり中。
- 7層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 8層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

第19図 ピット2 (1/60)

遺構名	平面形	規模 (cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時代・時期
		長軸	短軸	深さ			
1P	不整方形	35.0	24.0	38.5	4層	遺物なし	中世以降
2P	長円形	30.5	22.5	10	2層	遺物なし	中世以降
3P	椭円形か	不明	不明	11.5	単層／707Dに切られる	遺物なし	中世以降
4P	方形か	28.0	23.0	33	4層／708Dと重複する	遺物なし	中世以降
5P	不整方形	24.0	不明	19	2層／704Dと重複する	遺物なし	中世以降
6P	方形	不明	22.0	38.5	単層／710Dと重複する	遺物なし	中世以降
7P	方形	23.0	20.0	21	単層	遺物なし	中世以降
8P	方形か	41.0	40.0	23.5	単層／32Mと重複する	遺物なし	中世以降
9P	長円形	31.0	28.0	11	単層	遺物なし	中世以降
10P	方形	22.5	20.5	23.5	単層／12Pを切る	遺物なし	中世以降
11P	不整方形	19.0	18.0	30.5	単層	遺物なし	中世以降
12P	不整方形	38.5	35.5	62	3層／10・20Pに切られる	遺物なし	中世以降
13P	方形	43.0	40.0	54.5	3層	遺物なし	中世以降
14P	重複した円形	43.0	26.5	42	2層／712Dを切る	遺物なし	中世以降
15P	椭円形	31.0	28.0	35	2層／712Dに切られる	遺物なし	中世以降
16P	長方形	34.0	23.0	32	単層／712Dに切られる	遺物なし	中世以降
17P	長円形	不明	不明	45.5	単層／712Dに切られる	遺物なし	中世以降
18P	方形	25.0	不明	30	単層	遺物なし	中世以降
19P	不明	不明	不明	23.5	2層	遺物なし	中世以降
20P	重複した円形	41.0	38.0	41.5	単層／12Pを切る	遺物なし	中世以降
21P	長円形	47.0	30.0	68	単層／714Dを切る	遺物なし	中世以降
22P	椭円形か	不明	不明	44	2層／713Dと重複する	遺物なし	中世以降
23P	椭円形	29.5	25.0	39	単層／711Dと重複する	遺物なし	中世以降
24P	椭円形か	不明	不明	88	5層／714Dを切る	遺物なし	中世以降

第10表 ピット一覧

## (5) 遺構外出土遺物 (第20図、図版7-2、第11表)

ここでは、確認調査から出土した遺物、そして、遺構の外から出土した遺物を、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、近世以降の遺物が出土した。

## ①近世以降の遺物 (第20図、図版7-2-1~5、第11表)

## [陶器] (図版7-2-1~3、第11表)

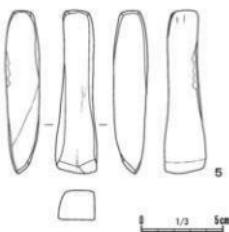
1は擂鉢、2は小碗、3は土鍋である。2は18世紀代、1・3は19世紀以降のものである。

## [土器] (図版7-2-4、第11表)

4は焰烙である。18世紀代のものである。

## [石製品] (第20図、図版7-2-5)

5は砥石である。長さ10.1cm、幅2.6cm、厚さ2.0cm、重さ65.5gである。凝灰岩製の完形品で、使用面は表裏面・両側面・上面の5面である。



第20図 遺構外出土遺物（1／3）

図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版7-2-1	A区遺構外	陶器	擂鉢	厚0.8	内面の口縁部・外面に鉄軸／標目10本一単位／胎土：色調は浅黄色、砂粒を僅かに含む／口縁部～体部破片	瀬戸・美濃系	近世以降 (19c以降)
図版7-2-2	確認調査時 2 Tr	陶器	小碗	厚0.5	内外面に灰釉／胎土：色調は灰白色、砂粒を含む／口縁部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c代)
図版7-2-3	確認調査時 1 Tr	陶器	土鍋	厚0.4	内外面に鉄軸／受口状／胎土：色調はにぶい赤褐色、砂粒を僅かに含む／口縁部小破片	不明	近世以降 (19c以降)
図版7-2-4	A区遺構外	土器	培培	高3.0 厚1.0	有耳／底は平坦／胎土：色調はにぶい橙色、砂粒を僅かに含む／口縁部～底形破片	在地系	近世 (18c代)

第11表 遺構外出土陶器・土器一覧

## 第4章 中道遺跡第94地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

中道遺跡は、志木市柏町5丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の1kmに位置している。本遺跡は、南北方向に約300m、東西方向に約330mの広がりをもち、面積54,420m<sup>2</sup>を有している。

遺跡を地勢的に見ると、武藏野台地の北端部にあたり、標高は北端で約13m、南端で約14m、低地との比高差は約7mである。遺跡の現況は都市計画道路富士見・大原線（ユリノキ通り）の開通とともに各種開発が盛んに行われ、畠地は急激に減少している。

本遺跡は、これまでに96地点の調査（令和5年1月11日現在）が実施され（第21図）、旧石器時代、縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代中・後期、平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

### 第2節 調査の経緯

#### （1）調査に至る経過

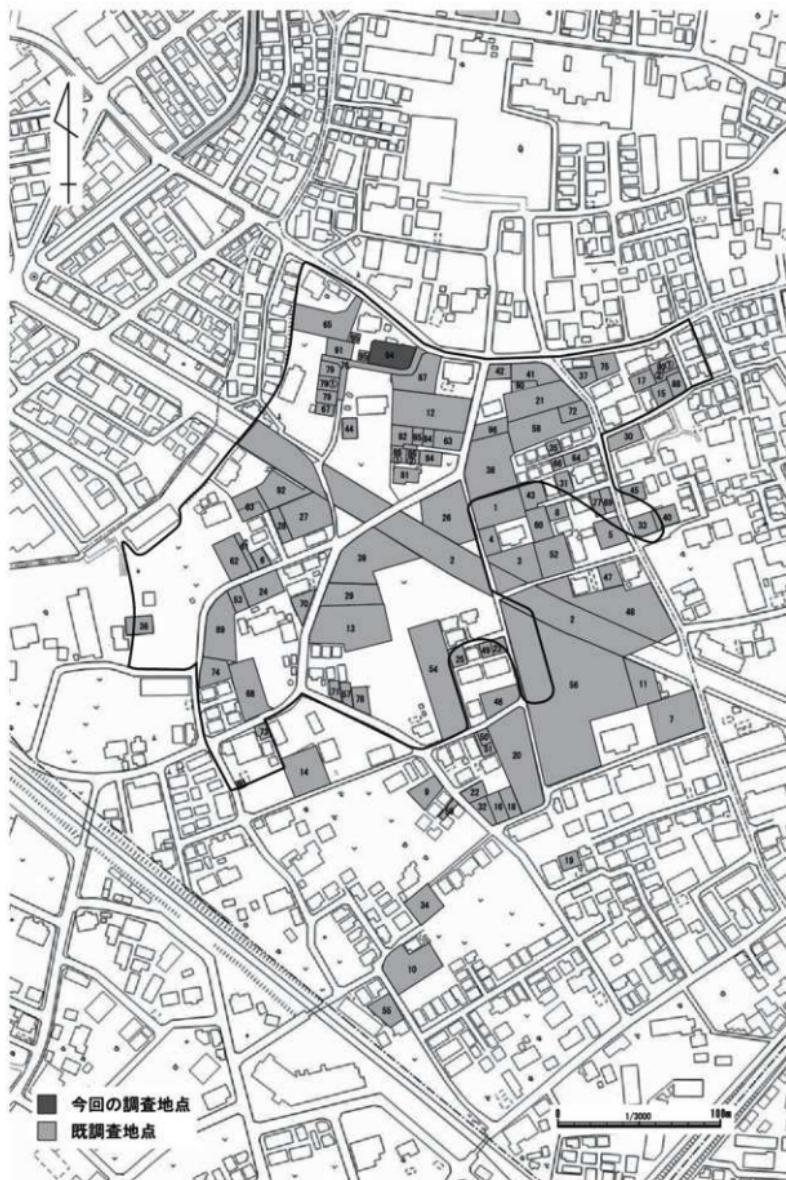
令和3年3月、株式会社日栄設計から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町5丁目2956番5、2957番3の一部（面積387.10m<sup>2</sup>）地内に共同住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中道遺跡（コード11228-09-005）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

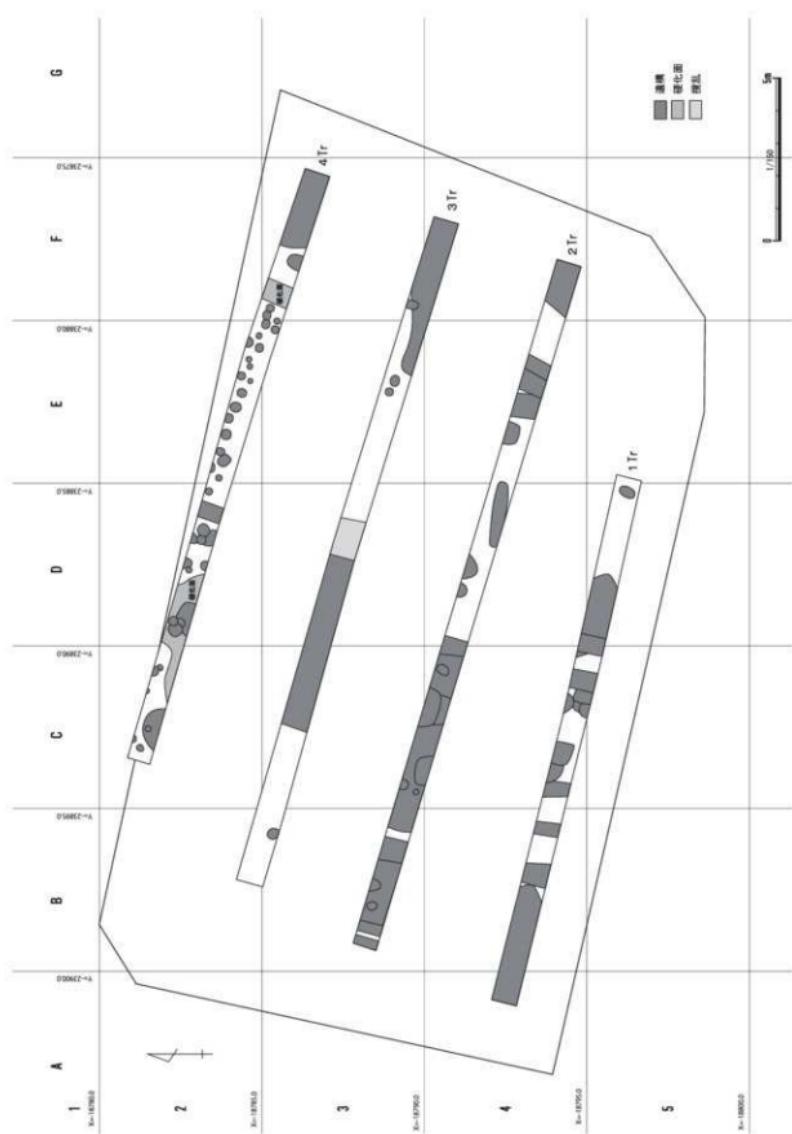
3月29日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、中道遺跡第94地点として、4月26・27日の2日間で確認調査を実施した。確認調査は、第22図に示すように調査区内に4本のトレンチ（1～4T r）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡1軒・土坑1基、古墳時代後期～平安時代の住居跡4軒、中世以降の土坑23基・溝跡1本・ピット51本を確認した。

教育委員会はこの結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。令和3年5月13日に土木工事主体者と埋蔵文化財の保存措置について事前打合せを行った。その結果、深基礎部分については、盛土保存が不可能であり、発掘調査（面積94.75m<sup>2</sup>）を実施することとなった。同日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、土木工事主体者から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。27日、教育委員会は志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2



第21図 中道遺跡の調査地点 (1/3,000)

令和5年1月11日現在



第22図 確認調査時の造構分布（1／150）

項に基づき、土木工事主体者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。6月2日、志木市と土木工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は5月27日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、6月10日から発掘調査を実施した。

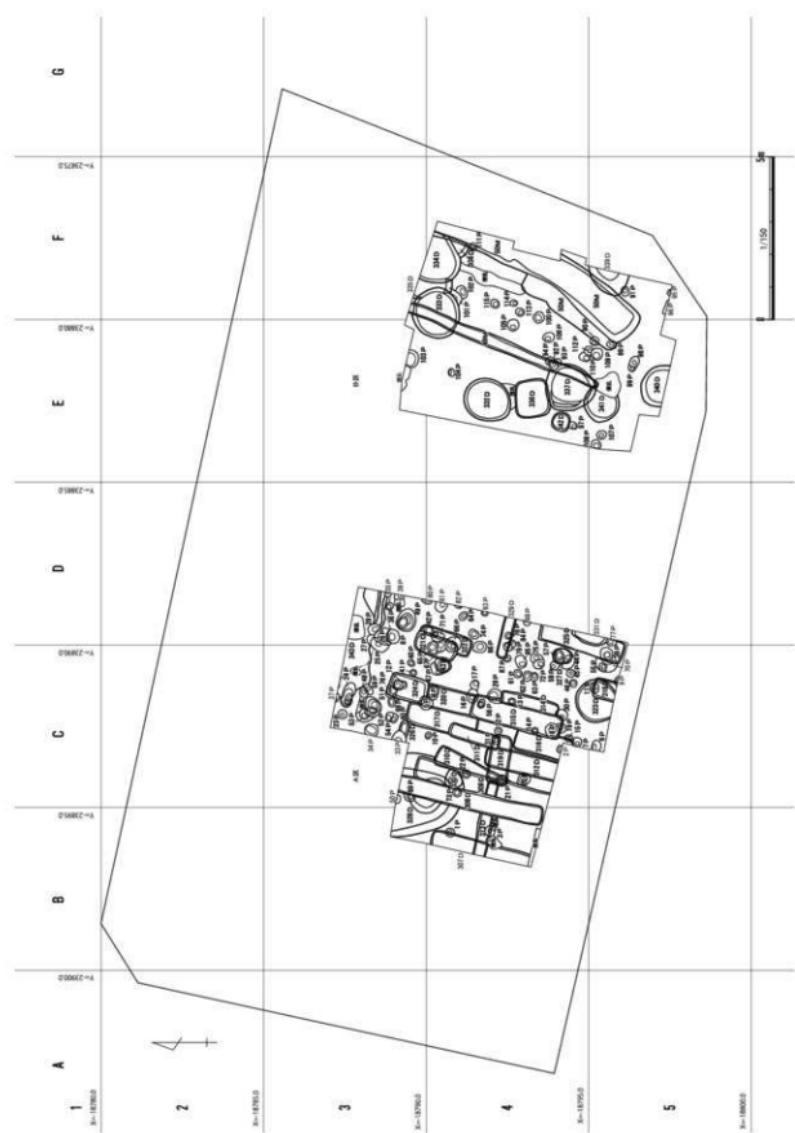
## (2) 発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第12表の発掘調査工程表に示した。

6月10日 発掘調査を開始する。調査区は2か所に分かれ、西側をA区、東側をB区とした。

	令和3年6月					7月					
	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日
夷土剥ぎ作業 (萬文時代)	6.10 0.11										
328D				7.8		7.14					
330D						7.13	7.14				
(平安時代)											
332D						7.15	7.16				
333D						7.15		7.20			
334D						7.15		7.21			
335D						7.15		7.21			
337D						7.16		7.20			
338D						7.16		7.21			
340D						7.20	7.21				
(中世以降)											
307D	6.18			6.23							
308D	6.18			6.22							
309D	6.18			6.22							
310D	6.21		6.22								
311D	6.21		6.23								
312D	6.21		6.22								
313D	6.21		6.22								
314D	6.21		6.22								
315D	6.21		6.22								
316D	6.21		6.22								
317D	6.21		6.23								
318D	6.21		6.22								
319D	6.21		6.24								
320D	6.21		6.23								
321D	6.22		6.23								
322D	6.22		6.23								
323D	6.23										
324D	6.23		6.24								
325D	6.22		6.24								
326D	6.29		6.28								
327D				7.6	7.7						
329D						7.13					
331D						7.13	7.14				
336D						7.16		7.19			
339D							7.19				
341D							7.20				
342D							7.20				
343D	6.28			7.7							
49M						7.14		7.21			
50M						7.14		7.21			
埋戻し作業									7.26		

第12表 中道遺跡第94地点の発掘調査工程表



第23図 遺構分布図(1/150)

- B区から重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。残土置場は北側の調査区外とした。本日中にB区の表土剥ぎ作業を終了する。プレハブの設置を行う。
- 11日 A区の表土剥ぎ作業を行う。人員を導入し、調査機材を搬入する。B区の調査区整備、遺構確認作業を行う。本日中にA区の表土剥ぎ作業を終了する。
- 14日 雨天のため、発掘作業を中止したが、基準点測量については実施した。
- 15～18日 A区の調査区整備、遺構確認作業を行う。A区の遺構検出状況の写真撮影を行い、A区の遺構精査に入る。中世以降の土坑（307～309D）の精査を開始する。
- 21日 B区の調査区整備、遺構確認作業を再度行い、遺構検出状況の写真撮影を実施する。中世以降の土坑（310～320D）の精査を開始する。
- 22～28日 中世以降の土坑（321～326・343D）の精査を開始する。A区北端で検出された343Dは硬化面を伴う緩やかに傾斜した掘り込みであり、通常の土坑とは異なる構造の遺構であった。307～326Dの精査を終了する。
- 7月5～8日 縄文時代の土坑（328D）、中世以降の土坑（327D）の精査を開始する。327・343Dの精査を終了する。
- 12～16日 縄文時代の土坑（330D）、中世以降の土坑（329・331D）の精査を開始する。14日にはA区の全ての遺構精査を終了し、B区の遺構精査に入る。平安時代の土坑（332～335・337・338D）、中世以降の土坑（336D）・溝跡（49・50M）の精査を開始する。
- 19～21日 平安時代の土坑（340D）、中世以降の土坑（339・341・342D）の精査を開始する。50Mでは硬化面1の下から硬化面2が検出された。21日にはB区の全ての遺構精査を終了した。
- 26日 埋め戻し作業を開始する。本日中にA・B区の埋め戻し作業を終了する。
- 29日 プレハブの撤去作業を終了し、すべての調査を完了する。

### 第3節 縄文時代の遺構・遺物

#### （1）概要

縄文時代の遺構としては、土坑2基（328・330D）、ピット4本（69・70・73・76P）が検出された。土坑からは良好な出土遺物は少なく、早期後葉の条痕文系土器や前期後葉の諸磯c式土器が小破片で出土した。また、ピットでは70Pから中期後葉の加曾利E式土器の小破片が出土した。

#### （2）土坑

##### 328号土坑

###### 遺構（第24図）

【位置】 A区。（B・C-3・4）グリッド。

【検出状況】 308～310D、50・69Pに切られ、330D、73Pと重複する。

【構造】 平面形：楕円形。規模：長軸現況1.96m／短軸2.55m／深さ48cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-4°-E。その他：底面に一部、円形の段差が認められる。

[覆 土] 12(3~14層)層に分層された。覆土が外側から斜めに堆積しており、自然堆積と考えられる。

[遺 物] 早期後葉の条痕文系土器、前期後葉の諸磯c式土器が出土した。

[時 期] 前期後葉(諸磯c式期)か。

[遺 物] (第26図1~4、図版15-1~1~4、第14表)

1~3は早期後葉の条痕文系土器である。4は前期後葉の諸磯c式土器である。

### 330号土坑

[遺 構] (第24図)

[位 置] A区。(C-4) グリッド。

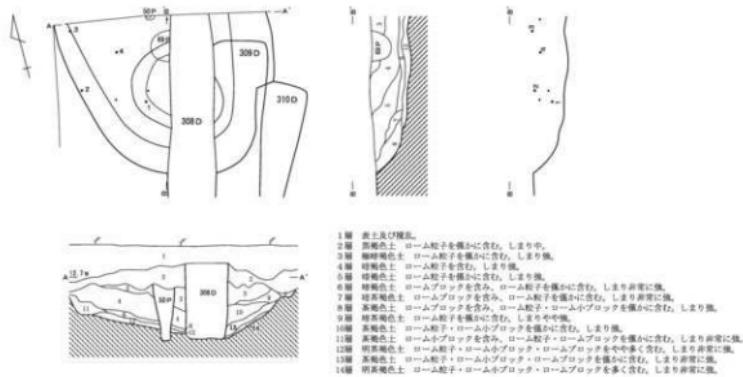
[検出状況] 308・309Dに切られ、328D、73Pと重複する。

[構 造] 平面形: 楕円形。規模: 長軸0.60m/短軸0.53m/深さ39cm。壁: 瓢状に立ち上がる。長軸方位: N-77°-E。

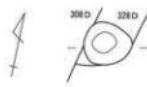
[覆 土] 3層に分層された。ロームブロックを多く含む層が主体である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から縄文時代と思われる。

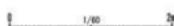


328号土坑



- 1層 明茶褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。  
2層 明黄褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。  
3層 明黄褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

330号土坑



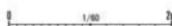
第24図 土坑(1/60)

## (3) ピット (第25図)

本地点で検出されたピットは合計115本で、縄文時代のピットは4本 (69・70・73・76P) であった。ピットの基本内容は第13表に示した。縄文時代のピット4本のうち、遺物が出土したものは、70Pの1本のみであった。遺物としては、中期後葉の加曾利E3～4式土器が出土した（第26図1、図版15-1-1、第14表）。

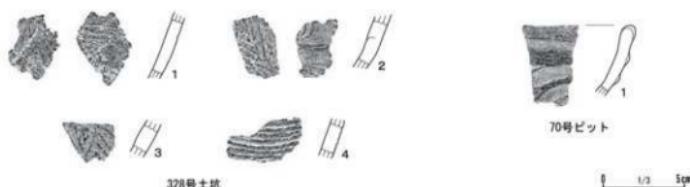


第25図 ピット(1/60)



遺構名	位置 調査区 グリッド	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
69 P	A区 (C-3) G	橢円形か	不明	37	23	単層/308Dに切られ、328Dを切る	遺物なし	縄文
70 P	A区 (C-5) G	円形か	70	38	74	8層/325D+38・55Pに切られる	土器1点	中期後葉 (加曾利E3～4式)
73 P	A区 (C-4) G	圓丸方形	26	26	14	単層/308Dに切られ、330Dと重複	遺物なし	縄文
76 P	A区 (C-3) G	圓丸長方形か	不明	不明	37	5層/324D+12・68Pに切られる	遺物なし	縄文

第13表 縄文時代のピット一覧



第26図 土坑・ピット出土遺物 (1/3)

擲出番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式
第26図1 図版15-1-1	328D	深鉢	胴	厚0.8	外傾	内面に横位、外面に縱位の条痕文	赤褐色／砂粒や多量、チャート中量、織維少量	早期後葉 (条痕文系)
第26図2 図版15-1-2	328D	深鉢	胴	厚0.9	僅かに屈曲し、外傾	内外面に縱位の条痕文	橙色／砂粒・チャート中量、織維少量	早期後葉 (条痕文系)
第26図3 図版15-1-3	328D	深鉢	胴	厚0.9	外傾	外面に斜位の条痕文	にぶい橙色／砂粒・小織維少量	早期後葉 (条痕文系)
第26図4 図版15-1-4	328D	深鉢	胴	厚0.8	外傾	半乾竹管状工具による集合沈殿を張張に施文	にぶい褐色／砂粒・角閃石や多量、小織維中量	前期後葉 (諸磯c式)
第26図1 図版15-1-1	70P	深鉢	口縁	厚0.7	僅かに内湾	外面に微隆起線文	にぶい黄褐色／砂粒中量、角閃石少量	中期後葉 (加賀利E-3~4式)

第14表 繩文時代の遺構出土土器一覧

## 第4節 平安時代の遺構・遺物

### (1) 概 要

平安時代の遺構は、土坑7基(332~335、337・338・340 D)、ピット8本(19・28・34・44・54・60・65・67 P)が検出された。これらの遺構は出土遺物、遺構の切合関係、覆土の観察から平安時代と判断した。遺構分布については、A区側でピットが、B区側で土坑が集中して検出された。

### (2) 土 坑

#### 332号土坑

##### 遺 構 (第27図)

[位 置] B区。(E-4) グリッド。

[検出状況] 単独で検出。南側一部を攪乱される。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸1.50m／短軸1.29m／深さ36cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-24°-E。

[覆 土] 6層に分層された。しまりが強い暗褐色～黒褐色土を基調とする。全体的にローム粒子、ローム小ブロックを含む。

[遺 物] 須恵器甕形土器が出土した。

[時 期] 平安時代。

##### 遺 物 (図版15-2-1、第17表)

1は須恵器甕形土器の小破片である。

#### 333号土坑

##### 遺 構 (第27図)

[位 置] B区。(E・F-3・4) グリッド。

[検出状況] 49M、101Pに切られ、335Dを切る。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸1.54m／短軸1.45m／深さ49cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

長軸方位：N-80°-W。

[覆 土] 7層に分層された。しまりが強い暗褐色～黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 須恵器環形土器、土師器壺形土器、石製品（砥石）、鉄製品（釘）が出土した。砥石は南端の覆土下層から出土した。

[時 期] 平安時代。

[遺 物] (第29図、図版15-2-1~4、第17・18表)

[土 器] (図版15-2-1・2、第17表)

1は須恵器環形土器、2は土師器壺形土器である。

[石 製 品] (第29図3、図版15-2-3)

3は砥石である。長さ4.9cm、幅3.0cm、厚さ1.6cm、重量43.2g。上下両端部を欠損する。長方形を呈し、砥面は正面、左右側面、裏面の4面である。凝灰岩製。

[鉄 製 品] (第29図4、図版15-2-4、第18表)

4は釘である。

### 334号土坑

[遺 構] (第27図)

[位 置] B区。(F-3・4) グリッド。

[検出状況] 50Mに切られ、335Dを切り、338Dと重複する。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸現況1.30m／短軸現況1.40m／深さ50cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-62°-E。

[覆 土] A-A'で8層(4~11層)、B-B'で5層に分層された。しまりが強い暗褐色～黒色土を基調とする。下層(10・11層)はローム粒子が多く、ローム小ブロックを含む。

[遺 物] 須恵器環形土器、土師器壺形土器、鉄製品（釘）が出土した。鉄製品は中央付近の下層から出土している。

[時 期] 平安時代（9世紀代）。

[遺 物] (第29図、図版15-2-1~4、第17・18表)

[土 器] (図版15-2-1・2、第17表)

1は須恵器環形土器と思われる。2は土師器壺形土器である。

[鉄 製 品] (第29図3・4、図版15-2-3・4、第18表)

3・4は釘である。

### 335号土坑

[遺 構] (第27図)

[位 置] B区。(F-3・4) グリッド。

[検出状況] 333・334D、101Pに切られる。

[構 造] 平面形：円形か。規模：長軸現況1.05m／短軸現況0.65m／深さ47cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-10°-E。

[覆 土] A-A'で7層(12~18層)、B-B'で2層(6・7層)に分層された。しまりが強い暗褐

色～黒色土を基調とする。全体的にローム粒子、ローム小ブロックを含む。

〔遺 物〕 遺物は出土しなかった。

〔時 期〕 覆土の観察から平安時代と考えられる。

### 337号土坑

〔遺 構〕 (第27図)

〔位 置〕 B区。(E-4・5) グリッド。

〔検出状況〕 336・341D、49M、92・93Pに切られる。

〔構 造〕 平面形：円形。規模：長軸1.55m／短軸1.45m／深さ47cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

長軸方位：N-22°-E。その他：底面は平坦であるが、西壁際に1段の段差が認められた。

〔覆 土〕 10層に分層された。暗褐色～黒色土を基調とする。全体的にローム粒子、ローム小ブロックを含む。下層(8～10層)はしまりが強い。

〔遺 物〕 須恵器壺・甕形土器が出土した。壺形土器は西側の覆土中層から、甕形土器は東側覆土下層からそれぞれ出土した。

〔時 期〕 平安時代(9世紀代)。

〔遺 物〕 (図版15-2-1・2、第17表)

1は須恵器壺形土器、2は須恵器甕形土器である。

### 338号土坑

〔遺 構〕 (第27図)

〔位 置〕 B区。(F-4) グリッド。

〔検出状況〕 50Mに切られ、334Dと重複する。

〔構 造〕 平面形：円形か。規模：長軸 不明／短軸 不明／深さ26cm。壁：64°の角度で立ち上がる。長軸方位：不明。

〔覆 土〕 暗褐色土を基調とする。全体的にローム粒子、ローム小ブロックを含む。しまりは中。

〔遺 物〕 遺物は出土しなかった。

〔時 期〕 覆土の観察から平安時代と考えられる。

### 340号土坑

〔遺 構〕 (第27図)

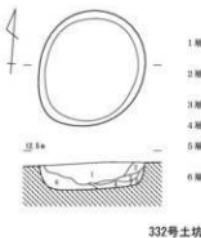
〔位 置〕 B区。(E-5) グリッド。

〔検出状況〕 単独で検出。南半部は調査区外である。

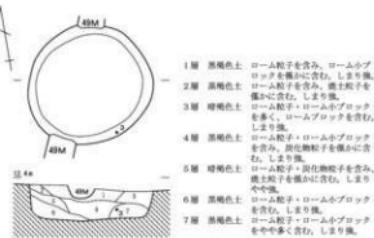
〔構 造〕 平面形：円形か。規模：長軸1.25m／短軸現況0.76m／深さ54cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-89°-W。

〔覆 土〕 9層(3～11層)に分層された。しまりが強い暗褐色～黒色土を基調とする。全体的にローム粒子、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。3層は本遺構の立ち上がりよりも外側から堆積しており、しまりが非常に強い。

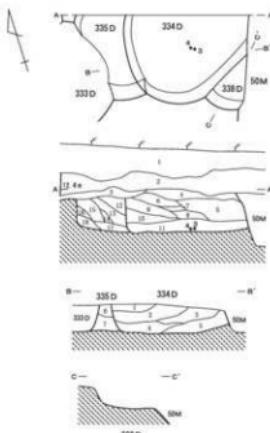
〔遺 物〕 須恵器壺形土器、鉄製品(鎧か)が出土した。須恵器壺形土器は北端の覆土上～中層、鉄



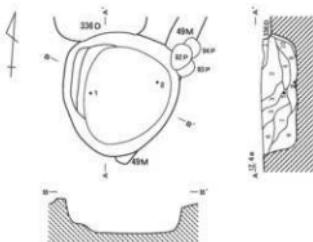
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
- 3層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 5層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。



- 1層 黒褐色土 ローム粒子を含み。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を含み。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 4層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
- 6層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 7層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。



334・335・338号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
- 2層 黑褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み。土粒子を僅かに含む。
- 3層 黄褐色土 ローム粒子をやや多く含む。しまりやや強。
- 4層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 5層 黑褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を多く。ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 7層 黑褐色土 ローム粒子を含み。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 8層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 9層 黑褐色土 ローム粒子を多く。ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 10層 黑褐色土 ローム粒子を多く。ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
- 11層 对黄褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを多く。ローム粒子を含む。しまり強。

337号土坑

第27図 土坑(1/60)

遺構名	位置		平面形	規模(m)			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
	調査区	グリッド		長軸	短軸	深さ				
332D	B区	(E-4) G	円形	1.50	1.29	0.36	N-24°-E	6層／南側一部は複数	須恵器1点	平安
333D	B区	(E-F-3-4) G	円形	1.54	1.45	0.49	N-80°-W	7層／49M、101Pに切られ、335Dを切る	須恵器2点、土師器2点、石製品1点、鉄製品1点／須恵器、土師器各1点は図示できなかった	平安
334D	B区	(F-3-4) G	椭円形	(1.30)	(1.40)	0.50	N-62°-E	8層(4~11層)／50Mに切られ、335Dを切り、338Dと重複	須恵器4点、土師器2点、鉄製品2点／須恵器2点、土師器1点は図示できなかった	平安(9c代)
335D	B区	(F-3-4) G	円形か	(1.05)	(0.65)	0.47	N-10°-E	7層(12~18層)／333-334D、101Pに切られる	遺物なし	平安
337D	B区	(E-4-5) G	円形	1.55	1.45	0.47	N-22°-E	10層／336-341D・49M-92・93Pに切られる	須恵器2点	平安(9c代)
338D	B区	(F-4) G	円形か	不明	不明	0.26	不明	覆土はローム粒子、ローム小ブロックを含む暗褐色土を基層とする／50Mに切られ、334Dと重複	遺物なし	平安
340D	B区	(E-5) G	円形か	1.25	(0.76)	0.54	N-89°-W	9層／南半部は調査区外	須恵器1点	平安

規模の( )内の数値は現存値。

第15表 平安時代の土坑一覧

製品は中央付近の上層からの出土である。

[時期] 平安時代。

[遺物] (第29図2、図版15-2-1・2、第17・18表)

[土器] (図版15-2-1、第17表)

1は須恵器環形土器である。

[鉄製品] (第29図2、図版15-2-2、第18表)

2は鎌と思われる。

### (3) ピット (第28図)

調査区域内から検出されたピットは、全部で115本、そのうち平安時代のピットは8本(19・28・34・44・54・60・65・67P)である。

ここでは、19・28・34・44・54・65Pの6本から出土した遺物の記述に留めた。ピット基本内容は第16表に示した。

19Pからは、須恵器蓋形土器の破片1点が出土した(図版15-2-1、第17表)。

28Pからは、須恵器壺形土器の破片1点が出土した(図版15-2-1、第17表)。

34Pからは、須恵器環形土器と思われる破片1点、土師器壺形土器の破片1点が出土した(図版15-2-1・2、第17表)。

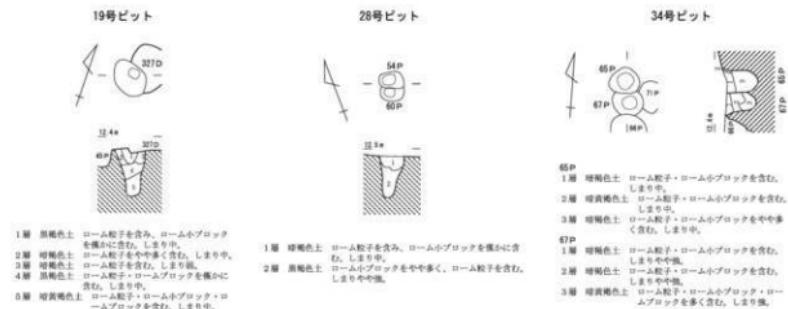
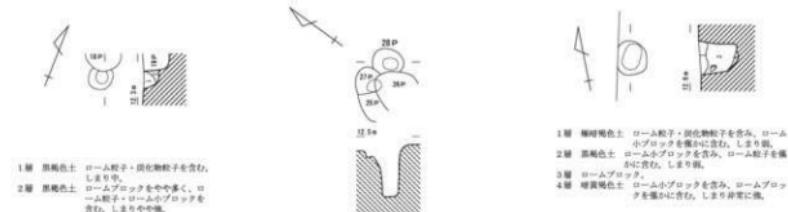
44Pからは、須恵器環形土器の破片1点、鉄製品(釘)1点が出土した(第29図2、図版15-2-1・2、第17・18表)。

54Pからは、須恵器環形土器の破片1点が出土した(図版15-2-1、第17表)。

65Pからは、須恵器環形土器の破片1点が出土した(図版15-2-1、第17表)。

遺構名	位置 調査区 グリッド	平面形	断面 (cm)			覆土及び特徴等	主な遺物	時 期
			長軸	短軸	深さ			
19 P	A区 (C-4) G	隅丸方形	32	29	20	2層／18Pに切られ、315Dと重複	須恵器1点	平安
28 P	A区 (D-3) G	隅丸長方形	38	不明	60	土層注記なし／343D、26・27Pに切られる	須恵器1点	平安
34 P	A区 (C-3) G	隅丸長方形	42	39	40	4層／西側一部は調査区外	須恵器1点、土師器1点	平安
44 P	A区 (C-4) G	隅丸方形	50	38	63	5層／327Dに切られる	須恵器1点、鐵製品1点	平安
54 P	A区 (C-3) G	隅丸長方形	30	20	48	2層／60Pを切る	須恵器1点、土師器1点(図示不可)	平安
60 P	A区 (C-3) G	隅丸方形	30	不明	53	土層注記なし／54Pに切られる	遺物なし	平安
65 P	A区 (C-D-4) G	隅丸方形	38	32	50	3層／321Dに切られ、67Pを切る	須恵器1点	平安
67 P	A区 (C-D-4) G	隅丸方形	38	不明	45	3層／321D・65・66・71Pに切られる	遺物なし	平安

第16表 平安時代のピット一覧



第28図 ピット (1/60)



第29図 土坑・ピット出土遺物 (1/3)

図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調査等	胎土	時期	出土位置
図版15-2-1	332D	須恵器 甕	胴部破片	厚0.7	曲線状の胴部／内面に自然軸	内外面：横ナデ	灰白色／白色砂粒を含む、小礫を僅かに含む	平安	覆土中
図版15-2-1	333D	須恵器 甕	胴部破片	厚0.2	外彌する／東金子製品	ロクロ成形	灰色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-2	333D	土師器 甕	胴部破片	厚0.3	いわゆる武藏型甕か	内面：ヘラナデ、外面：ヘラ削り	褐色／砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-1	334D	須恵器 甕	口縁部破片	厚0.2	外彌し、口唇部で屈曲する ／東金子製品	ロクロ成形／ロクロ 回転は右回転	灰白色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-2	334D	土師器 甕	頭部破片	厚0.5	「コ」の字口縁	内外面：横ナデ	に赤い黄褐色／砂粒を僅かに含む	平安 (9c代)	覆土中
図版15-2-1	337D	須恵器 甕	底部破片	高[1.7]	平底	ロクロ成形／底部に 回転糸切り痕	灰白色／白色砂粒、 小礫を含む	平安 (9c代)	西側の覆土中層
図版15-2-2	337D	須恵器 甕	胴部破片	厚1.0	外面に黒く煤けた部分あり	内面：横ナデ／外面： ヘラナデか？	灰色／白色粒子・ 白色砂粒を多く含む	平安	東側の覆土下層
図版15-2-1	340D	須恵器 甕	胴部破片	厚0.3	外彌する／東金子製品	ロクロ成形	灰色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-1	19P	須恵器 蓋	口縁部破片	高[0.8]	東金子製品	ロクロ成形	灰色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-1	28P	須恵器 甕	胴部破片	厚0.8	曲線状の胴部／東金子製品	内面：当て道具痕／ 外面：ナデ	灰色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-1	34P	須恵器 甕	胴部破片	厚0.3	外彌する／東金子製品か	ロクロ成形	灰色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-2	34P	土師器 甕	胴部破片	厚0.4	いわゆる武藏型甕か	内面：ヘラナデ、外 面：ヘラ削り	褐色／砂粒を含み、 赤褐色粒子を僅かに含む	平安	覆土中
図版15-2-1	44P	須恵器 甕	口縁部破片	厚0.3	口縁部はわずかに外反する ／東金子製品	ロクロ成形／ロクロ 回転は右回転	灰白色／白色砂粒を含む	平安	覆土中
図版15-2-1	54P	須恵器 甕	口縁部破片	厚0.5	口縁部はわずかに外反する	ロクロ成形／ロクロ 回転は右回転	灰白色／砂粒・小 礫を含む	平安	覆土中
図版15-2-1	65P	須恵器 甕	胴部破片	厚0.4	外彌する／東金子製品	ロクロ成形	灰色／白色砂粒を含む	平安	覆土中

第17表 平安時代の遺構出土土器一覧

排列番号 図版番号	出土遺構	種別	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	特徴	
第29図4 図版15-2-4	333D	鉄製品	釘	3.5	0.5	0.4	1.4	断面形は方形／折れ曲がっている／両端ともに欠損	
第29図3 図版15-2-3	334D	鉄製品	釘	4.8	0.6	0.5	2.2	先端部はやや丸めに尖っている／断面形は長方形／上端は欠損	
第29図4 図版15-2-4	334D	鉄製品	釘	3.6	0.7	0.5	2.7	先端部は尖っている／断面形は長方形／上端は欠損	
第29図2 図版15-2-2	340D	鉄製品	鍔	2.0	0.6	0.5	0.5	「コ」の字状／断面形は長方形／両端は欠損	
第29図2 図版15-2-2	44P	鉄製品	釘	12.1	1.4	0.5	30.8	断面は長方形／両端は欠損	

(単位: cm, g)

第18表 平安時代の遺構出土鉄製品一覧

## 第5節 中世以降の遺構・遺物

### (1) 概要

中世以降の遺構は、土坑28基(307~327・329・331・336・339・341~343D)、溝跡2本(49・50M)、ピット103本(1~18・20~27・29~33・35~43・45~53・55~59・61~64・66・68・71・72・74・75・77~115P)が検出された。各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合に陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

遺構の分布をみると、A区では溝状・長方形の土坑、ピットが濃密に広がっており、B区では溝跡が認められた。A・B区は接しているが、分布や密度に差が認められた。また、A区北端で検出された343Dは、明確な立ち上がりが認められず、緩やかに傾斜し底面に硬化面を有する特異な遺構である。343Dからは古墳時代後期の土師器の小破片が出土しているのみであり、中世以降の遺物は出土していない。遺構の切合関係から今回は343Dを中世以降とし、本節で報告する。

### (2) 土坑

#### 307号土坑

##### 遺構 (第30図、第19表)

【位置】 A区。(B-4) グリッド。

【検出状況】 313D、1Pを切る。一部攢乱を受ける。

【構造】 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況3.08m／短軸現況0.49m／深さ19cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-12°-E。

【覆土】 3層に分層された。暗褐色土を基調とする覆土である。しまりの違いで概ね上下2層に分かれる。

【遺物】 磁器1点、瓦1点が出土した。

【時期】 近世(18世紀後半)。

##### 遺物 (図版15-3-1・2、第21表)

##### 【磁器】 (図版15-3-1、第21表)

1は磁器で、碗である。時期は近世(18世紀後半)である。

##### 【瓦】 (図版15-3-2)

2は瓦の小破片である。現存長8.5cm、現存幅3.4cm、現存厚0.6cm、重さ14.2g。

#### 308号土坑

##### 遺構 (第30図、第19表)

【位置】 A区。(B-4、C-3・4) グリッド。

【検出状況】 309・313・328・330D、69・73Pを切る。

【構造】 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況4.47m／短軸0.62m／深さ57cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-14°-E。

【覆土】 6層に分層された。暗褐色土を基調とする覆土である。

[遺 物] 磁器 2点、陶器 3点が出土した。磁器 2点のうち 1点は小破片のため図示できなかった。

[時 期] 近世（18～19世紀）。

**遺 物**（図版 15-3-1～4、第21表）

[陶 磁 器]（図版 15-3-1～4、第21表）

1は磁器碗である。時期は近世（18世紀末）。2～4は陶器である。2は碗で、近世（19世紀代）である。3は香炉で、近世（18世紀代）である。4は皿で、時期が近世（17世紀代）である。

### 309号土坑

**遺 構**（第30図、第19表）

[位 置] A区。（B-4、C-3・4）グリッド。

[検出状況] 308 Dに切られ、310・313・319・328・330 Dを切り、21・22 Pと重複する。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況4.22m／短軸0.87m／深さ26cm。壁：約80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-17°-E。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりはやや強い。

[遺 物] 磁器 1点、陶器 1点が出土した。陶器は小破片のため図示できなかった。

[時 期] 近世か。

**遺 物**（図版 15-3-1、第21表）

[陶 器]（図版 15-3-1、第21表）

1は磁器で、青磁碗である。

### 310号土坑

**遺 構**（第30図、第19表）

[位 置] A区。（C-4）グリッド。

[検出状況] 309 Dに切られ、319 Dを切り、21・22 Pと重複する。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況2.38m／短軸現況0.51m／深さ22cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-28°-E。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 311号土坑

**遺 構**（第30図、第19表）

[位 置] A区。（C-4）グリッド。

[検出状況] 312・317・319 Dを切り、31 Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.62m／短軸0.63m／深さ15cm。壁：50～62°の角度で緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-17°-E。

[覆 土] 単層。灰暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 312号土坑

**遺構** (第30図、第19表)

[位 置] A区。(C-4) グリッド。

[検出状況] 311Dに切られ、319Dを切り、20Pと重複する。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況2.23m／短軸0.64m／深さ7cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-13°-E。

[覆 土] 単層。灰暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 313号土坑

**遺構** (第31図、第19表)

[位 置] A区。(B・C-4) グリッド。

[検出状況] 307～309Dに切られ、319Dを切り、3Pと重複する。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況2.34m／短軸0.43m／深さ21cm。壁：約85°で立ち上がる。長軸方位：N-78°-W。

[覆 土] B-B'で5層（2～6層）に分層された。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 314号土坑

**遺構** (第30図、第19表)

[位 置] A区。(C-4) グリッド。

[検出状況] 315Dを切り、13・29・30Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.82m／短軸0.42m／深さ7cm。壁：約85°で立ち上がる。長軸方位：N-14°-E。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 315号土坑

**遺構** (第30図、第19表)

[位 置] A区。(C-4) グリッド。

[検出状況] 314Dに切られ、316Dを切り、320D、14・16・18・19・29・56Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸2.83m／短軸0.78m／深さ11cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-14°-E。

- [覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 316号土坑

#### **遺 構** (第30図、第19表)

- [位 置] A区。(C-4) グリッド。
- [検出状況] 315 Dに切られ、2 Pを切り、15 Pと重複する。
- [構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.78m／短軸0.73m／深さ6cm。壁：緩やかに立ち上がる。  
長軸方位：N-15°-E。
- [覆 土] 単層。黒褐色土を基調とする覆土で、しまりは中。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 317号土坑

#### **遺 構** (第30図、第19表)

- [位 置] A区。(C-3・4) グリッド。
- [検出状況] 311 Dに切られ、320 D、5 Pを切り、324 Dと重複する。
- [構 造] 平面形：長方形。規模：長軸2.20m／短軸0.69m／深さ12cm。壁：緩やかに立ち上がる。  
長軸方位：N-14°-E。
- [覆 土] 単層。灰暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 318号土坑

#### **遺 構** (第31図、第19表)

- [位 置] A区。(C-5) グリッド。
- [検出状況] 323 D、9 Pを切り、11 Pと重複する。
- [構 造] 平面形：長方形。規模：長軸現況0.70m／短軸0.62m／深さ14cm。壁：約70°で立ち上がる。長軸方位：N-14°-E。
- [覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 319号土坑

#### **遺 構** (第31図、第19表)

- [位 置] A区。(C-4) グリッド。
- [検出状況] 309～313 Dに切られ、21・31 Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.52m／短軸0.63m／深さ7cm。壁：皿状に緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-81°-W。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりはやや強い。

[遺 物] 鉄製品1点が出土した。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

[遺 物] (第43図1、図版15-3-1、第22表)

[鉄 製 品] (第43図1、図版15-3-1、第22表)

1は鉄製品で、鉗であろうか。

### 320号土坑

[遺 構] (第30図、第19表)

[位 置] A区。(C-4) グリッド。

[検出状況] 317Dに切られ、4・5・16Pを切り、315・324Dと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸現況1.53m／短軸現況0.68m／深さ8cm。壁：50°で緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-14°-E。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 321号土坑

[遺 構] (第31図、第19表)

[位 置] A区。(C-D-3・4) グリッド。

[検出状況] 322D、65・67・71Pを切り、42・66Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.34m／短軸0.64m／深さ13cm。壁：皿状に緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-20°-E。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは強い。

[遺 物] 磁器が1点出土したが、小破片のため図示できなかった。

[時 期] 近世以降。

### 322号土坑

[遺 構] (第31図、第19表)

[位 置] A区。(C-4、D-3・4) グリッド。

[検出状況] 321Dに切られ、71Pを切り、42・66Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.67m／短軸0.59m／深さ10cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-20°-E。

[覆 土] 単層。灰暗褐色土を基調とする覆土で、しまりはやや強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

## 323号土坑

**遺構** (第31図、第19表)

[位 置] A区。(C-4・5) グリッド。

[検出状況] 318Dに切られ、11Pと重複する。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸1.31m／短軸1.29m／深さ14cm。壁：皿状に緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-65°-E。

[覆 土] A-A'で6層に分層された。暗褐色～黒褐色土を基調とする覆土で、しまりは全体的にやや強い。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

## 324号土坑

**遺構** (第30図、第19表)

[位 置] A区。(C-3・4) グリッド。

[検出状況] 12・76Pを切り、317・320D、4・5・41Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.23m／短軸0.77m／深さ33cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-16°-E。

[覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりはやや強い。

[遺 物] 磁器1点、陶器1点、鉄製品1点が出土した。陶磁器は小破片のため、図示できなかった。

[時 期] 近世以降。

**遺物** (第43図1、図版15-3-1、第22表)

[鉄製品] (第43図1、図版15-3-1、第22表)

1は鉄製品で、釘である。

## 325号土坑

**遺構** (第31図、第19表)

[位 置] A区。(C-D-4・5) グリッド。

[検出状況] 331D、70・77Pを切り、38Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸2.66m／短軸0.68m／深さ36cm。壁：垂直に立ち上がり、部分的にオーバーハングしている。長軸方位：N-16°-E。

[覆 土] 3層に分層された。各層が水平気味に堆積している状況が観察された。

[遺 物] 陶器2点が出土した。

[時 期] 近世か。

**遺物** (図版15-3-1・2、第21表)

[陶器] (図版15-3-1・2、第21表)

1・2は陶器で、1は皿で、時期は中世(14世紀代)。2が火鉢で、時期は近世である。

### 326号土坑

**遺構** (第32図、第19表)

[位置] A区。(C-3) グリッド。

[検出状況] 33Pに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸現況0.50m／短軸0.29m／深さ6cm。壁：皿状に緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-77°-W。

[覆土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中。

[遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 327号土坑

**遺構** (第32図、第19表)

[位置] A区。(C-4) グリッド。

[検出状況] 44・57・58Pを切る。

[構造] 平面形：不整な方形。規模：長軸0.57m／短軸0.49m／深さ10cm。壁：約80°で立ち上がる。長軸方位：N-4°-E。

[覆土] 3層に分層された。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中～やや強い。

[遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 329号土坑

**遺構** (第32図、第19表)

[位置] A区。(C・D-4) グリッド。

[検出状況] 78・79・84・87Pと重複する。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸現況1.29m／短軸0.35m／深さ18cm。壁：約80°で立ち上がる。長軸方位：N-75°-W。

[覆土] 2層(2・3層)に分層された。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中～やや強い。

[遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 331号土坑

**遺構** (第32図、第19表)

[位置] A区。(C-5、D-4・5) グリッド。

[検出状況] 325D、77Pに切られる。

[構造] 平面形：長方形か。規模：長軸1.10m／短軸現況0.31m／深さ23cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-14°-E。

[覆土] 3層に分層された。黒褐色～暗褐色土を基調とする覆土で、覆土中にロームブロックが目立つ。

- [遺 物] 遺物は出土しなかった。  
 [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 336号土坑

- 遺 構** (第32図、第19表)
- [位 置] B区。(E-4) グリッド。
- [検出状況] 337 Dを切る。北側一部に擾乱を受ける。
- [構 造] 平面形：方形。規模：長軸1.14m／短軸1.06m／深さ12cm。壁：約75°で立ち上がる。長軸方位：N-86°-E。
- [覆 土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりは中。
- [遺 物] 土器1点が出土した。
- [時 期] 近世（17世紀代）。
- 遺 物** (図版15-3-1、第21表)
- 陶 器** (図版15-3-1、第21表)
- 1は土器で、焰焰である。時期は近世（17世紀代）である。

### 339号土坑

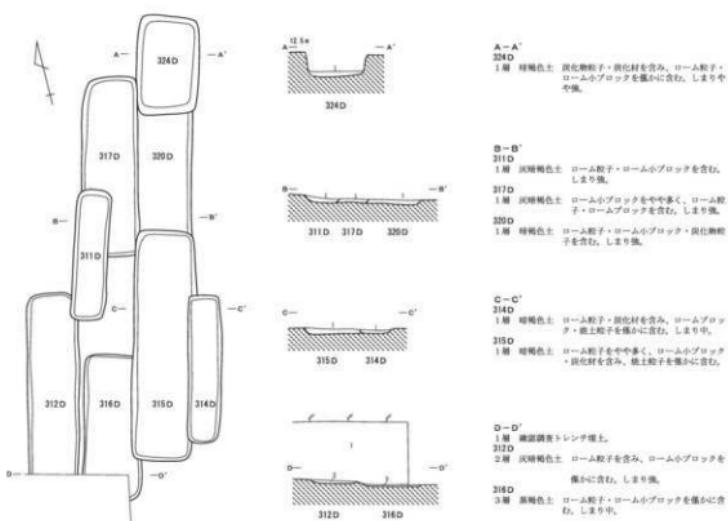
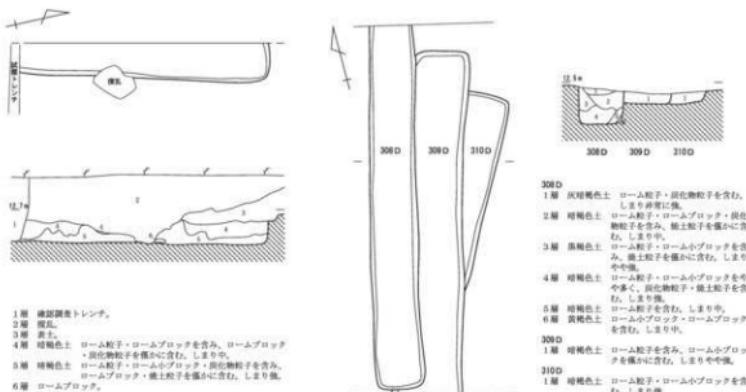
- 遺 構** (第32図、第19表)
- [位 置] B区。(F-5) グリッド。
- [検出状況] 50Mを切り、91Pと重複する。
- [構 造] 平面形：不明。規模：長軸不明／短軸不明／深さ30cm。壁：碗状に立ち上がる。長軸方位：不明。
- [覆 土] 9層（2～10層）に分層された。全体的にローム粒子、ロームブロックを含んでいる。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 341号土坑

- 遺 構** (第32図、第19表)
- [位 置] B区。(E-4・5) グリッド。
- [検出状況] 49Mに切れられ、337 Dを切る。東側は擾乱を受ける。
- [構 造] 平面形：円形。規模：長軸1.14m／短軸1.08m／深さ18cm。壁：皿状に緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-70°-E。
- [覆 土] 3層（2～4層）に分層された。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりはやや強い。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

### 342号土坑

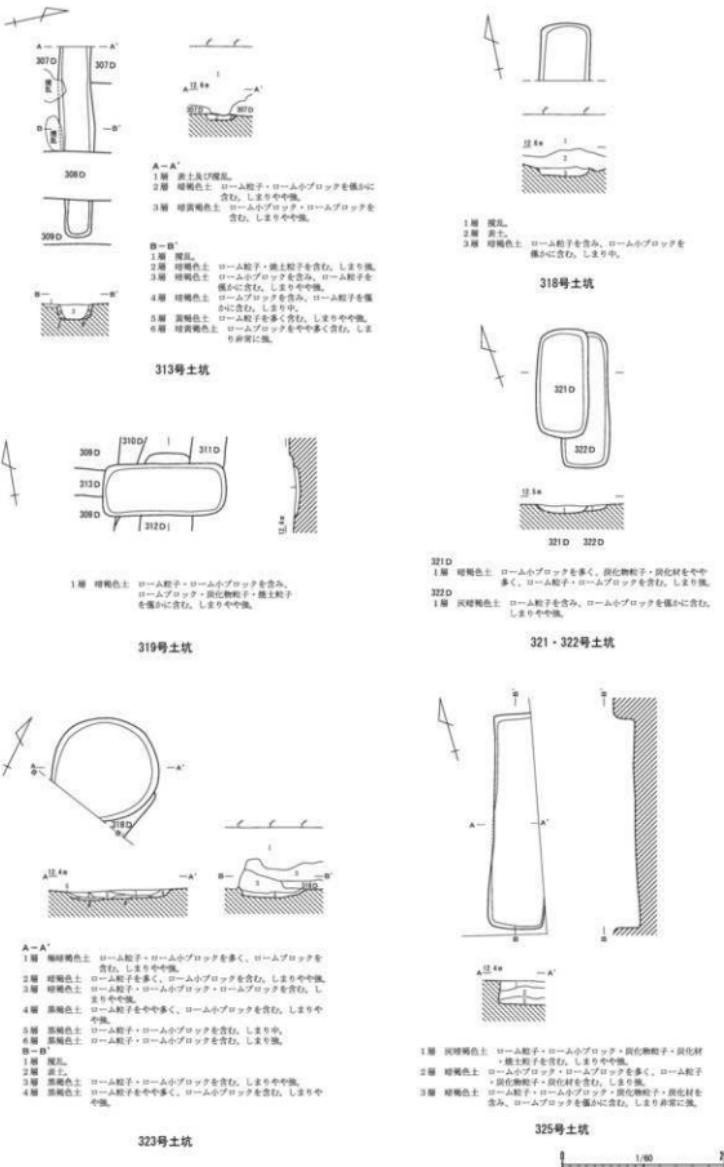
- 遺 構** (第32図、第19表)



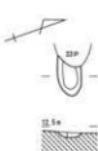
311・312・314・315・316・317・320・324号土坑



第30図 土坑1(1/60)

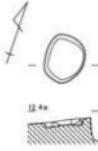


第31図 土坑2(1/60)



1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
しまり中。

## 326号土坑



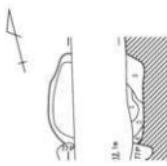
1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。  
2層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。  
3層 黄褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

## 327号土坑



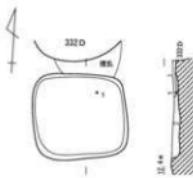
1層 土上及び壁面。  
2層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。  
3層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

## 329号土坑



1層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。民化灰を含む。しまり強。  
2層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。  
3層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。  
4層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。じる。

## 331号土坑



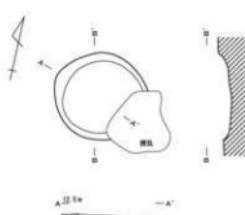
1層 混乱。  
2層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

## 332号土坑



1層 表土。  
2層 塗褐色土 ローム粒子を含み。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。  
3層 塗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。  
4層 黑褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。  
5層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。  
6層 黑褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。  
7層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。  
8層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。  
9層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。  
10層 塗褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。  
11層 黑褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。

## 333号土坑



1層 混乱。  
2層 塗褐色土 ローム粒子を含み。ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。  
3層 塗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含み。ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。  
4層 塗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。

## 341号土坑



1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。

## 342号土坑



第32図 土坑3(1/60)

[位置] B区。(E-4) グリッド。

[検出状況] 97Pを切る。

[構造] 平面形：方形。規模：長軸0.57m／短軸0.55m／深さ10cm。壁：80°前後で立ち上がる。

長軸方位：N-75°-W。

[覆土] 単層。暗褐色土を基調とする覆土で、しまりはやや強い。

[遺物] 陶器1点が出土した。

[時期] 近世（17世紀代）。

**遺物** (図版15-3-1、第21表)

[陶器] (図版15-3-1、第21表)

1は陶器で、碗である。時期は近世（17世紀代）。

### 343号土坑

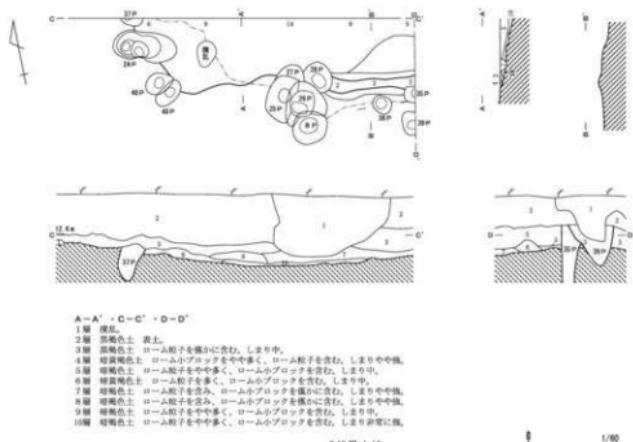
**遺構** (第33図)

[位置] A区。(C-D-3) グリッド。

[検出状況] 大部分が調査区外であり、検出された範囲は遺構の南西部である。8・24～26・35～37・39・48・49Pに切られ、28Pと重複する。27Pの直上に本遺構の硬化面が形成されていたことから、27Pを切る。

[構造] 平面形：不明。規模：長軸不明／短軸不明／遺構確認面からの深さ14cm。壁：なだらかに傾斜していく掘り込みのため、壁となる立ち上がりは確認されず、傾斜が始まる上端のみ確認できた。

長軸方位：不明。床面：南側から北側へ向かって緩やかに傾斜している。南西側に東西方向に延びる凸堤状の高まりが確認された。検出長1.03m、幅0.34m、高さ2～3cm。西側では、緩やかな段差が認



第33図 土坑4(1/60)

遺構名	位置 調査区 グリッド	平面形	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
307D	A区 (B-4) G	溝状	(3.08)	(0.49)	0.19	N-12°・E	3層／313D、1Pを切る 69・73Pを切る	磁器1点、瓦1点 磁器2点、陶器3点 磁器1点は図示できなかつた	近世後半 (18c後半)
308D	A区 (B-4、C-3・4) G	溝状	(4.47)	0.62	0.57	N-14°・E	6層／309・313・328・330D、 21・22Pと重複	磁器1点・陶器1点 陶器は図示できなかつた	近世後半 (18~19c)
309D	A区 (B-4、C-3・4) G	溝状	(4.22)	0.87	0.26	N-17°・E	单層／308Dに切れ、310・ 313・319・328・330Dを切り、 21・22Pと重複	遺物なし	近世か (詳細不明)
310D	A区 (C-4) G	溝状	(2.38)	(0.51)	0.22	N-28°・E	单層／309Dに切れられ、319D を切り、21・22Pと重複	遺物なし	中世以降
311D	A区 (C-4) G	長方形	1.62	0.63	0.15	N-17°・E	单層／312・317・319Dを切 り、31Pと重複	遺物なし	中世以降
312D	A区 (C-4) G	溝状	(2.23)	0.64	0.07	N-13°・E	单層／311Dに切れられ、319D を切り、20Pと重複	遺物なし	中世以降
313D	A区 (B・C-4) G	溝状	(2.34)	0.43	0.21	N-78°・W	5層／307～309Dに切れられ、 319Dを切り、3Pと重複	遺物なし	中世以降
314D	A区 (C-4) G	長方形	1.82	0.42	0.07	N-14°・E	单層／315Dを切り、13・29・ 30Pと重複	遺物なし	中世以降
315D	A区 (C-4) G	長方形	2.83	0.78	0.11	N-14°・E	单層／314Dに切れられ、316D を切り、320D、14・16・18・ 19・29・56Pと重複	遺物なし	中世以降
316D	A区 (C-4) G	長方形	1.78	0.73	0.06	N-15°・E	单層／315Dに切れられ、2Pを 切り、15Pと重複	遺物なし	中世以降
317D	A区 (C-3・4) G	長方形	2.20	0.69	0.12	N-14°・E	单層／311Dに切れられ、320D、 5Pを切り、324Dと重複	遺物なし	中世以降
318D	A区 (C-5) G	長方形	(0.70)	0.62	0.14	N-14°・E	单層／323D、9Pを切り、11P と重複	遺物なし	中世以降
319D	A区 (C-4) G	長方形	1.52	0.63	0.07	N-81°・W	单層／309～313Dに切れられ、 21・31Pと重複	鉄製品1点	中世以降
320D	A区 (C-4) G	長方形	(1.53)	(0.68)	0.08	N-14°・E	单層／317Dに切れられ、4・5・ 16Pを切り、315・324Dと重 複	遺物なし	中世以降
321D	A区 (C・D-3・4) G	長方形	1.34	0.64	0.13	N-20°・E	单層／322D、65・67・71Pを 切り、42・66Pと重複	磁器1点(図示できなかつた)	近世以降
322D	A区 (C-4, D-3・4) G	長方形	1.67	0.59	0.10	N-20°・E	单層／321Dに切れられ、71Pを 切り、42・66Pと重複	遺物なし	中世以降
323D	A区 (C-4・5) G	円形	1.31	1.29	0.14	N-65°・E	6層／318Dに切れられ、11Pと 重複	遺物なし	中世以降
324D	A区 (C-3・4) G	長方形	1.23	0.77	0.33	N-16°・E	单層／12・76Pを切り、317・ 320D、4・5・41Pと重複	磁器1点、陶器1点、 鉄製品1点／陶磁器 は図示できなかつた	近世以降
325D	A区 (C・D-4・5) G	長方形	2.66	0.68	0.36	N-16°・E	3層／331D、70・77Pを切り、 38Pと重複	陶器2点	近世か (詳細不明)
326D	A区 (C-3) G	橿円形	(0.50)	0.29	0.06	N-77°・W	单層／33Pに切られる	遺物なし	中世以降
327D	A区 (C-4) G	不整な 方形	0.57	0.49	0.10	N-4°・E	3層／44・57・58Pを切る	遺物なし	中世以降
329D	A区 (C・D-4) G	溝状	(1.29)	0.35	0.18	N-75°・W	2層／78・79・84・87Pと重 複	遺物なし	中世以降
331D	A区 (C-5, D-4・5) G	長方形 かた	1.10	(0.31)	0.23	N-14°・E	4層／325D、77Pに切られる	遺物なし	中世以降
336D	B区 (E-4) G	方形	1.14	1.06	0.12	N-80°・E	单層／北側一部は搅乱、337D を切る	土器1点	近世 (17c代)
339D	B区 (F-5) G	不明	不明	不明	0.30	不明	9層／50Mを切り、91Pと重 複	遺物なし	中世以降
341D	B区 (E-4・5) G	円形	1.14	1.08	0.18	N-70°・E	3層／東側は滑乱、49Mに切 られ、337Dを切る	遺物なし	中世以降
342D	B区 (E-4) G	方形	0.57	0.55	0.10	N-75°・W	单層／97Pを切る	陶器1点	近世 (17c代)
343D	A区 (C・D-3) G	不明	不明	不明	0.14	不明	7層／8・24・26・35・37・ 39・48・49Pに切られ、27Pを 切り、28Pと重複／27Pの直上 に硬化面が形成される	遺物なし	中世以降

規模の( )内の数値は復存値

第19表 中世以降の土坑一覧

められた（B-B'）。硬化面は凸堤状の高まりの南側から北側調査区壁にかけて面的に確認された。なお、27 Pを半截時に本遺構の硬化面が27 P直上に形成されていることが断面観察から確認できた。

**[覆 土]** 7層（4～10層）に分層できた。床面直上の覆土（7・9・10層）は薄く堆積し、特に10層はしまりが非常に強い。なお、本遺構は表土直下の黒褐色土（3層）に被覆される。

**[遺 物]** 中世以降の遺物は出土せず、覆土中から古墳時代後期の土師器甕形土器の小破片が出土したのみである。

**[時 期]** 覆土の観察、遺構同士の切合関係から中世以降と思われる。今回の調査では中世以降の遺物の出土がなく、詳細な時期を決定できなかった。

**[所 見]** 明確な立ち上がりが確認されず、床面が緩やかに傾斜していることから、窪地状を呈すると思われる。確認調査時において3号トレンチ中央付近（第22図の（C-D-3）グリッド）でやや大きめの遺構範囲が確認されており、規模や位置関係からすると本遺構の覆土と考えられる。さらに4号トレンチ内西側で硬化面が検出されており（第22図の（C-D-2）グリッド）、検出位置から、この硬化面は本遺構の硬化面と繋がる可能性が考えられる。このように考えた場合、あくまで想定の範囲ではあるが、本遺構は概ね南北方向に楕円形状に広がるものと思われる。

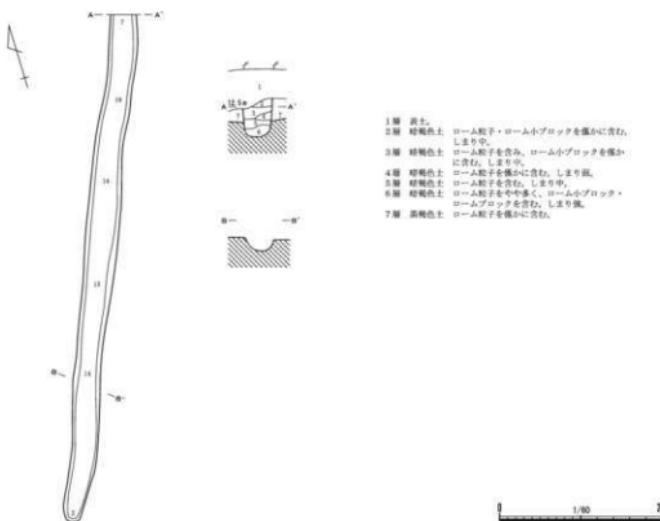
### （3）溝 跡

#### 49号溝跡

##### 遺 構（第34図）

**[位 置]** B区。（E-4・5、F-3・4）グリッド。

**[検出状況]** 北側は調査区外に延びる。333・337・341 D、92～94 Pを切る。



第34図 49号溝跡(1/60)

[構 造] 規模：検出長6.27m／検出最大幅0.40m／下端0.30m／遺構確認面からの深さ2～19cm。

断面形：「U」字状を呈する。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。走向方位：N-23°-E。

[覆 土] 5層（2～6層）に分層された。ローム粒子を含む暗褐色土を基調とする。

[遺 物] 磁器が1点出土した。

[時 期] 近世。

[遺 物] (図版16-1-1、第21表)

[陶 器] (図版16-1-1、第21表)

1は磁器で、碗である。時期は近世である。

## 50号溝跡

[遺 構] (第35図)

[位 置] B区。(E・F-4・5) グリッド。

[検出状況] 北東側は調査区外に延びる。339Dに切られ、334・338Dを切り、89・90・111Pと重複する。

[構 造] 規模：検出長6.85m／検出最大幅1.60m／下端0.87m／遺構確認面からの深さ（硬化面以外）42～50cm。断面形：逆台形状を呈する。壁：75～80°で立ち上がる。走向方位：おおよそ北東-南西方向に向かっており、(F-4) グリッド南端付近で「く」の字に屈曲する。屈曲部を境に、南半部ではN-40°-E、北半部ではN-19°-E。その他：北半部側では、南北方向に延びた硬化面が2面（硬化面1・2）検出された。硬化面2は硬化面1の下に間層（A-A'・B-B'の9～11層）を挟み確認されている。硬化面1の遺構確認面からの深さは30～43cm。硬化面2の遺構確認面からの深さは45～50cm。硬化面下の掘り方には凹凸が認められる。

[覆 土] C-C'では、覆土が外側から流れ込むような堆積状況が確認された。A-A'・B-B'では、硬化面2の上に9～11層が堆積した後、硬化面1が構築されている状況が確認された。なお、本遺構は表土直下の黒褐色土（3層）に被覆される。

[遺 物] 磁器3点、陶器5点、鉄製品1点、銭貨1点が出土した。

[時 期] 近世（17～18世紀後半）。

[遺 物] (第43図9・10、図版16-1-1～10、第21～23表)

[陶 器] (図版16-1-1～8、第21表)

1～3は磁器で、碗である。4～8は陶器で、4は碗、5～7は皿、8が徳利である。

[鉄 製 品] (第43図9、図版16-1-9、第22表)

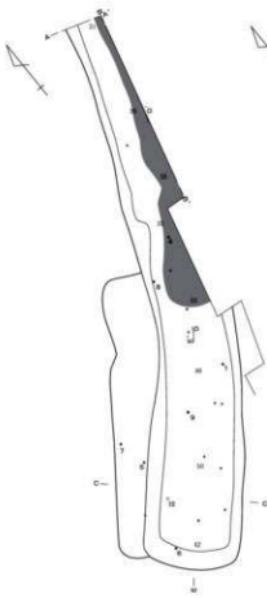
9は釘である。

[銭 貨] (第43図10、図版16-1-10、第23表)

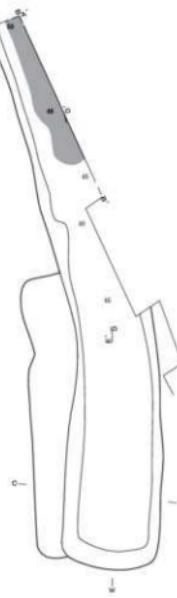
10は雁首銭である。

## (4) ピット (第36～42図、第20表)

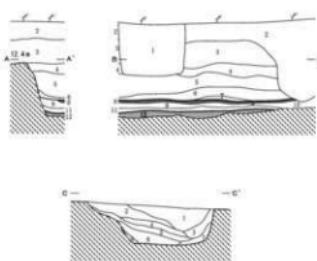
調査区域内から検出されたピットは、全部で115本、そのうち中世以降のピットは103本（1～18・20～27・29～33・35～43・45～53・55～59・61～64・66・68・71・72・74・75・77～115P）である。



硬化面1



硬化面2

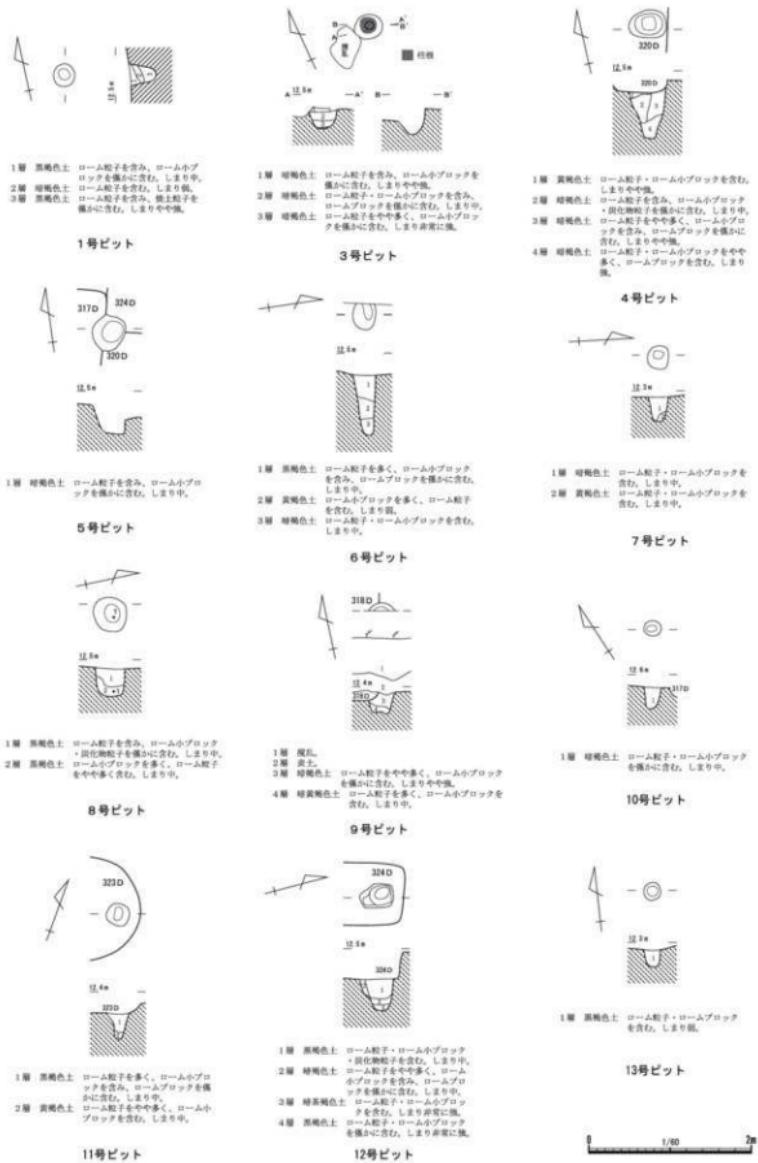


C—C':  
 1層 植物褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・堆土粒子を僅かに含む。  
 しまり中。  
 2層 植物褐色土: ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。  
 しまり中。  
 3層 黒褐色土: ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。  
 4層 黄褐色土: ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。  
 5層 黑褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。  
 6層 黑褐色土: ローム粒子を含む。しまり中。  
 7層 黄褐色土: ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。  
 8層 黄褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。  
 しまり中。  
 9層 植物褐色土: ローム粒子を含む。しまり中。  
 10層 植物褐色土: ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。  
 11層 植物褐色土: ローム粒子を含み、ローム小ブロックを含む。しまり中。  
 12層 黄褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。硬化面1。  
 13層 黄褐色土: ローム粒子を含む。しまり中。

D—D':  
 1層 黄褐色土: ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常  
 強。硬化面1。  
 2層 植物褐色土: ローム粒子を僅かに含む。しまり強。  
 3層 植物褐色土: ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しま  
 りやや強。  
 4層 植物褐色土: ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。ローム  
 ブロックを僅かに含む。しまり強。  
 5層 黄褐色土: ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり非  
 常強。硬化面2。



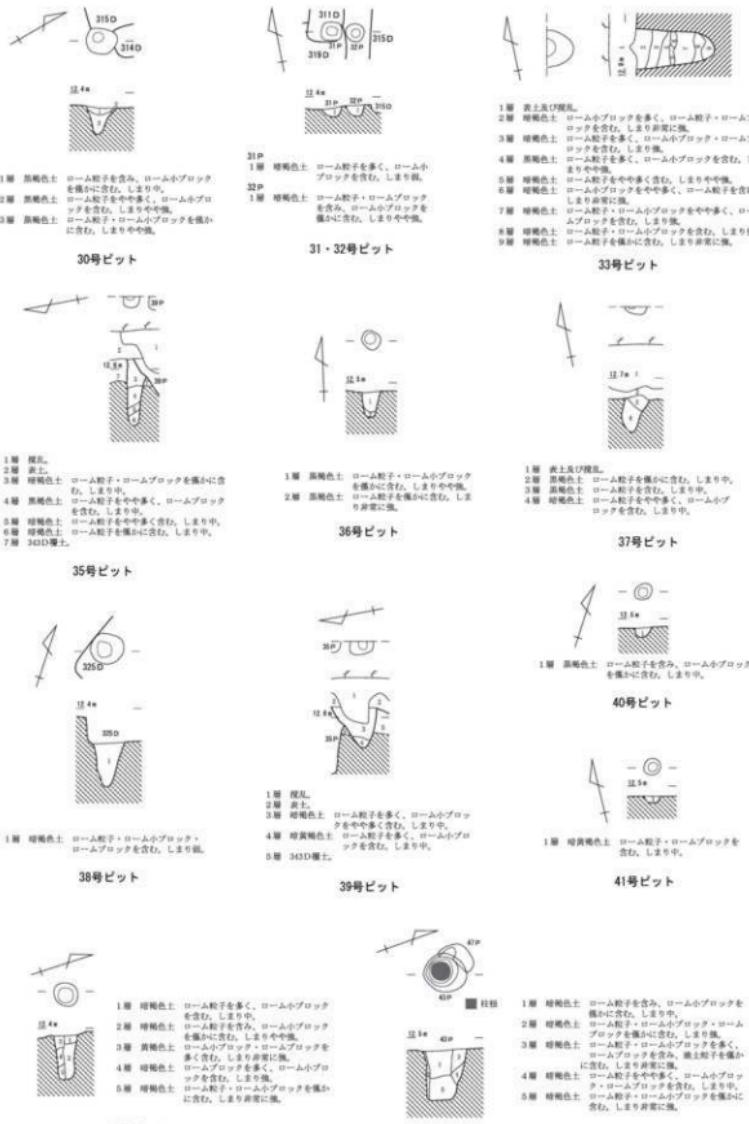
第35図 50号溝跡(1/60)



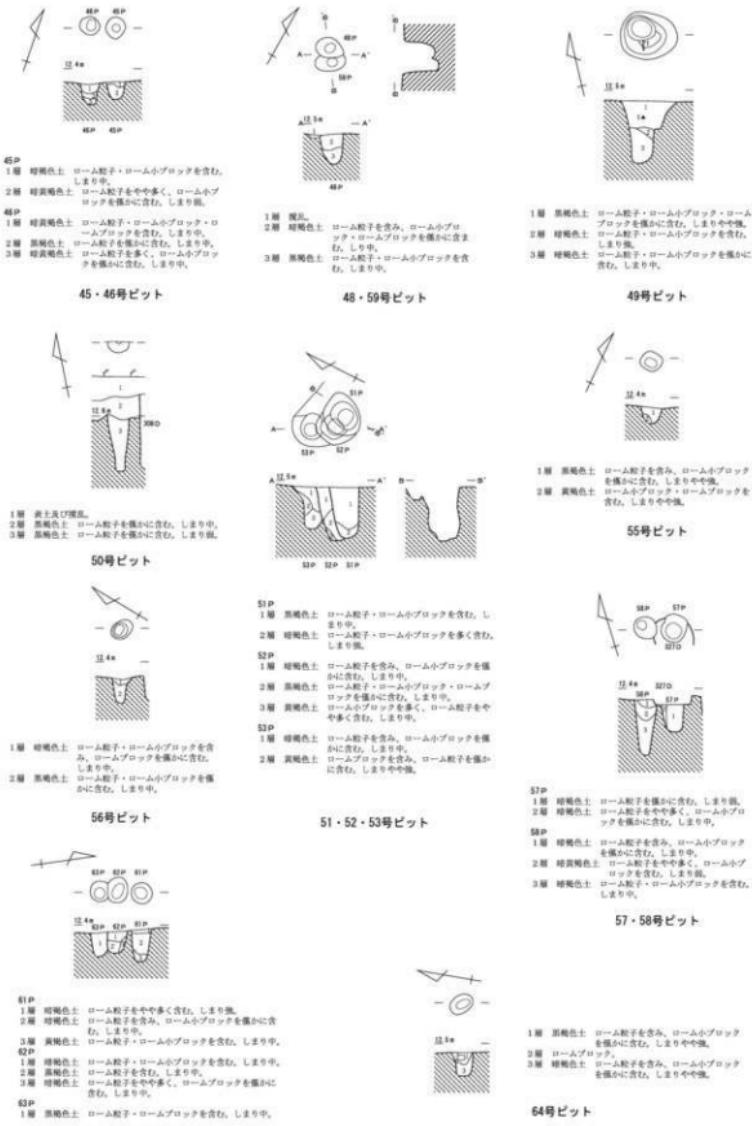
第36図 ピット1 (1/60)



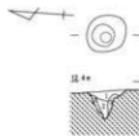
第37図 ピット2 (1/60)



第38図 ピット3 (1/60)

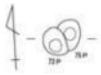


第39図 ピット4 (1/60)



- 1層 黒褐色土 ローム粒子・田んぼ粒子を含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
- 3層 細黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックが多く含む。しまり強。

66号ピット

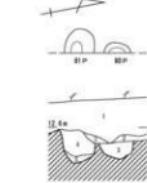


- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 2層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

72号ピット

72・75号ピット

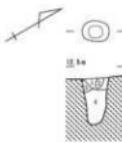
75号ピット



80・81号ピット

- 1層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 2層 明褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
- 3層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

68号ピット



- 1層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 3層 細黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
- 4層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

71号ピット

- 1層 細黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

77号ピット

74号ピット



- 1層 暗褐色土 在鉄器時代トレンチ。
- 2層 深灰土。
- 3層 黑褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
- 4層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 5層 細黄褐色土 ローム粒子をやや多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

82号ピット



83号ピット

- 1層 暗褐色土 在鉄器時代トレンチ。
- 2層 深灰土。
- 3層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

- 1層 黑褐色土 ローム小ブロックを含み。ローム粒子をやや多く含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックをやや多く含む。ローム粒子を含む。しまりやや強。

87号ピット



- 1層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。ローム粒子を含む。しまりやや強。
- 3層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
- 4層 細黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。

85号ピット

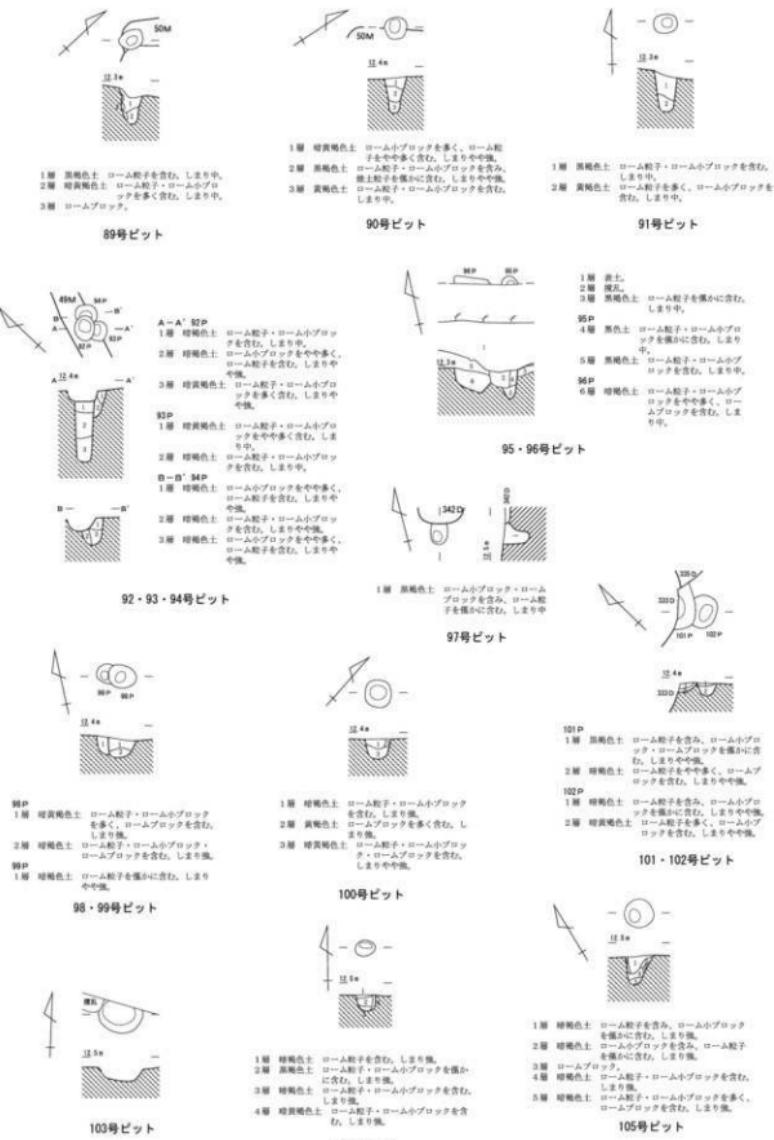
- 1層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子をやや多く含む。ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 3層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

- 1層 黒褐色土 及び深灰土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子をやや多く含む。しまりやや強。

88号ピット

1/60

第40図 ピット5 (1/60)



第41図 ピット6 (1/60)

ここでは、8・20・36・43・49・58・98・110Pの8本から出土した遺物の記述に留めた。ピット基本内容は第20表に示した。

8Pからは、銭貨1点（寛永通宝）が出土した（図版16-1-1、第23表）。

20Pからは、陶器1点（土鍋）が出土した（図版16-1-1、第21表）。

36Pからは、磁器1点（碗）が出土した（図版16-1-1、第21表）。

43Pからは、鉄製品1点（釘）が出土したが、小片のため図示できなかった。

49Pからは、鉄製品1点（鎌）が出土した（図版16-1-1、第22表）。

58Pからは、陶器1点（蓋か）が出土した（図版16-1-1、第21表）。

98Pからは、炭化種子1点（モモ）が出土した（図版16-1-1）。長さ2.2cm、幅1.7cm、厚さ1.3cm、重さ1.4g。

110Pからは、スラグ1点が出土した（図版16-1-1）。長さ4.6cm、幅3.5cm、厚さ1.8cm、重さ33.2g。



- 1層 塗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり無し。  
2層 黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子を含む。しまり強。

106号ピット



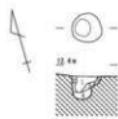
- 1層 黒褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。  
2層 ロームブロック。  
3層 黒褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。  
4層 塗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

107号ピット



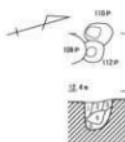
- 1層 塗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。  
2層 塗褐色土 ローム粒子を含む。しまり中。  
3層 塗褐色土 ローム粒子、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。  
4層 塗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

108号ピット



- 1層 塗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり無し。  
2層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。  
3層 深褐色土 ローム粒子を含む。しまり強。  
4層 塗褐色土 ローム粒子を多く含む。しまり中。  
5層 塗褐色土 ロームブロックを含む。しまり強。

109号ピット



- 1層 黒褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。  
2層 黑褐色土 ローム粒子を含む。しまり強。  
3層 塗褐色土 ローム粒子を多く含む。ローム小ブロックを含む。しまり中。  
4層 黑褐色土 ロームブロックを含む。しまり中。  
5層 塗褐色土 ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

110・112号ピット



- 1層 塗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

111号ピット



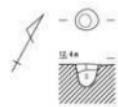
- 1層 塗褐色土 ローム粒子を含む。しまりやや強。  
2層 黑褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

113号ピット



- 1層 塗褐色土 ローム粒子をや多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。  
2層 黑褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。

114号ピット



- 1層 塗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。  
2層 黑褐色土 ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。

115号ピット

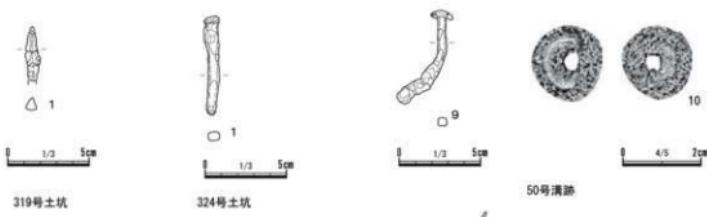


第42図 ピット7 (1/60)



遺構名	位置 測量区 グリッド	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
79 P A区	(C-D-4) G	圓丸方形	30	25	44	単層: ローム粒子・ローム小プロックを含み、ロームブロックを柱間に含む黒褐色土/329D、84Pと重複	遺物なし	中世以降
80 P A区	(D-3-4) G	圓丸長方形か	不明	不明	7	単層(3層)	遺物なし	中世以降
81 P A区	(D-4) G	圓丸長方形	不明	36	15	2層(4+5層)	遺物なし	中世以降
82 P A区	(D-4) G	不明	不明	不明	15	2層(4+5層)	遺物なし	中世以降
83 P A区	(D-4) G	圓丸方形	30	不明	9	単層(3層)	遺物なし	中世以降
84 P A区	(C-D-4) G	圓丸方形か	不明	不明	37	単層: ローム粒子・ローム小プロックを含む黒褐色土/329D、79Pと重複	遺物なし	中世以降
85 P A区	(C-4) G	圓丸長方形	40	31	70	4層	遺物なし	中世以降
86 P A区	(C-D-4) G	圓丸方形	39	34	69	4層	遺物なし	中世以降
87 P A区	(C-D-4) G	圓丸長方形	24	20	13	2層/23Dと重複	遺物なし	中世以降
88 P A区	(D-4) G	圓丸方形か	不明	13	27	単層(2層)	遺物なし	中世以降
89 P B区	(B-5) G	圓丸長方形	30	23	48	3層/50Mと重複	遺物なし	中世以降
90 P B区	(B-5) G	圓丸方形	28	26	47	3層/50Mと重複	遺物なし	中世以降
91 P B区	(B-5) G	圓丸長方形	30	23	53	2層/339Dと重複	遺物なし	中世以降
92 P B区	(B-4) G	圓丸長方形	30	25	90	3層/49Hに切られ、337D、93Pを切る	遺物なし	中世以降
93 P B区	(B-4) G	圓丸方形	25	不明	32	2層/49M、92Pに切られ。337Dを切る	遺物なし	中世以降
94 P B区	(B-4) G	圓丸方形	25	不明	34	3層/49Mに切られる	遺物なし	中世以降
95 P B区	(B-5) G	圓丸方形	20	14H	29	2層(4+5層)	遺物なし	中世以降
96 P B区	(B-5) G	圓丸長方形	44	不明	17	単層(6層)	遺物なし	中世以降
97 P B区	(B-4) G	圓丸長方形	不明	21	34	単層/34Dに切られる	遺物なし	中世以降
98 P B区	(B-5) G	圓円形	35	27	26	2層/99Pを切る	変化種子1点	中世以降
99 P B区	(B-5) G	圓丸形か	24	不明	24	単層/58Hに切られる	遺物なし	中世以降
100 P B区	(E-F-4) G	圓丸方形	34	33	25	3層	遺物なし	中世以降
101 P B区	(D-4) G	圓丸長方形か	不明	不明	15	2層/333+335D、102Pを切る	遺物なし	中世以降
102 P B区	(D-4) G	圓丸長方形	41	不明	15	2層/101Pに切られる	遺物なし	中世以降
103 P B区	(D-4) G	圓丸長方形	不明	不明	15	1層注記なし	遺物なし	中世以降
104 P B区	(D-3) G	不整の圓円形	23	20	25	4層	遺物なし	中世以降
105 P B区	(D-4) G	圓丸方形	35	35	39	5層	遺物なし	中世以降
106 P B区	(D-4) G	不整の圓丸方形	33	30	31	2層	遺物なし	中世以降
107 P B区	(D-5) G	圓丸方形	28	26	56	4層	遺物なし	中世以降
108 P B区	(B-5) G	圓丸方形	32	26	69	4層/西側一部は断面外	遺物なし	中世以降
109 P B区	(D-5) G	圓丸方形	37	37	31	5層/112Pを切る	遺物なし	中世以降
110 P B区	(E-4+5) G	圓丸長方形	35	不明	38	5層/109Pに切られる	スラガ点	中世以降
111 P B区	(F-4) G	圓丸方形か	27	22	58	單層/50Mと重複	遺物なし	中世以降
112 P B区	(E-4+5) G	圓丸長方形	27	不明	15	単層: ローム粒子・ローム小プロックを多く含み、ロームプロックを含む黒褐色土/109Pに切られ。110Pを切る	遺物なし	中世以降
113 P B区	(D-4) G	不整の圓円形	26	25	31	2層	遺物なし	中世以降
114 P B区	(D-4) G	圓丸方形	22	19	33	2層	遺物なし	中世以降
115 P B区	(D-4) G	圓丸方形	28	25	32	2層	遺物なし	中世以降

第20表 中世以降のピット一覧 (2)



第43図 土坑・溝跡・ピット出土遺物 (1/3・4/5)

図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定產地	時期
図版15-3-1	307D	磁器	碗	厚0.3	染付／外面に網目文／体部下半小破片	肥前系	近世 (18c後半)
図版15-3-1	308D	磁器	碗	厚0.2	白磁／口縁部小破片	肥前系	近世 (18c末)
図版15-3-2	308D	陶器	碗	厚0.3	内外面に灰釉／掛け分け／貫入あり／胎土：色調は灰白色／口縁部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (19c代)
図版15-3-3	308D	陶器	香炉	厚0.4	内面口縁直下から口唇部、外面にかけて灰釉、内面体部は無釉／胎土：色調は浅黄褐色／口縁部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c代)
図版15-3-4	308D	陶器	皿	厚0.6	内面に灰釉、外表面は無釉／胎土：色調は灰黃褐色／底部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (17c代)
図版15-3-1	309D	磁器	碗	厚0.3	青磁／貫入あり／胎土：色調は灰白色。精鍛されている／体部下半小破片	不明	不明
図版15-3-1	325D	陶器	皿	厚0.4	内面から外面口縁部直下に灰釉、外面体部は無釉／胎土：色調は淡黄色／口縁部小破片	瀬戸・美濃系	中世 (14c代)
図版15-3-2	325D	陶器	火鉢	厚0.9	外面に柿輪？／胎土：色調は灰白色、砂粒を多く含む／体部小破片	在地系？	近世 (詳細不明)
図版15-3-1	336D	土器	焰灯	厚0.9	内外面に回転ナデ／外面は黒く焼けている／胎土：色調は黄灰色、砂粒を含む／口縁部小破片	在地系	近世 (17c代)
図版15-3-1	342D	陶器	碗	厚0.3	内面に綠色釉、外面に透明釉／胎土：色調は黄白色／口縁部小破片	唐津	近世 (17c代)
図版16-1-1	49M	磁器	碗	厚0.3	染付／口縁部小破片	肥前系	近世 (詳細不明)
図版16-1-1	50M	磁器	碗	厚0.2	染付／外面に書花文／口縁部小破片	肥前系	近世 (18c代)
図版16-1-2	50M	磁器	碗	厚0.5	染付／外面に草花文／腹部に一重巻線／体部下半破片	肥前系	近世 (18c代)
図版16-1-3	50M	磁器	碗	厚0.5	染付／腹部に一重巻線、高台に二重巻線、高台内側に一重巻線／見込みに草花文／底部破片	肥前系	近世 (18c後半)
図版16-1-4	50M	陶器	碗	厚0.3	内面に灰釉／貫入あり／胎土：色調は黄白色／体部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (17c代)
図版16-1-5	50M	陶器	皿	厚0.4	内面、外表面口縁直下に緑色釉、外表面体部に透明釉／胎土：色調は黄白色／口縁部小破片	唐津	近世 (17c代)
図版16-1-6	50M	陶器	皿	厚0.9	三島手？／内面に透明釉／胎土：色調はぶい赤褐色、砂粒を含む／体部破片	唐津	近世 (18c代)
図版16-1-7	50M	陶器	皿	高[1.4]	内面、外表面体部に志野釉、底部は無釉／貫入あり／高台あり／胎土：色調は灰白色、砂粒を含む／底部破片	瀬戸・美濃系	近世 (17c代)
図版16-1-8	50M	陶器	拂利	厚0.8	外面に灰釉／外面に鉛絵で名入れ？／胎土：色調は浅黄色、砂粒を僅かに含む／体部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c後半)
図版16-1-1	20P	陶器	土鍋	厚0.7	内外面に灰釉／胎土：色調は淡黄色、砂粒を僅かに含む／口縁部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (詳細不明)
図版16-1-1	36P	磁器	碗	厚0.4	染付／外面に草花文／体部下半破片	肥前系	近世 (18c代)
図版16-1-1	58P	陶器	蓋か	厚0.4	内外面に灰釉／貫入あり／胎土：色調は淡黄色、砂粒を僅かに含む／蓋の可能性もあり	瀬戸・美濃系	近世 (18c代)

第21表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧

拂田番号 図版番号	出土遺構	種別	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	特徴
第43図1 図版15-3-1	319D	鉄製品	鍔か	3.1	0.9	0.7	2.4	先端は尖っている／断面形は三角形／両端ともに欠損
第43図1 図版15-3-1	324D	鉄製品	釘	6.1	0.8	0.5	6.2	頭部幅0.9cm／頭部は屈曲する／断面形は長方形／先端は欠損していないと思われるが丸い／完形品
第43図1 図版16-1-9	50M	鉄製品	釘	6.7	0.5	0.5	4.1	巻頭釘／断面形は長方形
第43図1 図版16-1-1	49P	鉄製品	鍔	14.8	2.6	0.3	29.0	刃部：長さ約9.5cm・最大幅2.6・厚さ0.2cm／茎部：長さ約5.7cm・最大幅1.6cm・厚さ0.3cm／茎部は差込みタイプ／全体の形状は「く」の字状／茎部の先端は屈曲しているが、欠損後鍛付いたものと思われる／刃部先端は欠損

第22表 中世以降の遺構出土鉄製品一覧

博物番号 図版番号	銭貨名	外径	方孔 一辺	厚さ	重量	初鑄年	遺存状態	出土位置	備考
第43図1 図版16-1-1	寛永通寶	2.5	0.6	0.1	2.8	寛文(1668)	完形品	8P	新寛永／文銭
第43図1 図版16-1-10	羅首践	1.9	0.4	0.2	2.2	-	完形品	50M	

(単位: cm, g)

第23表 銭貨一覧

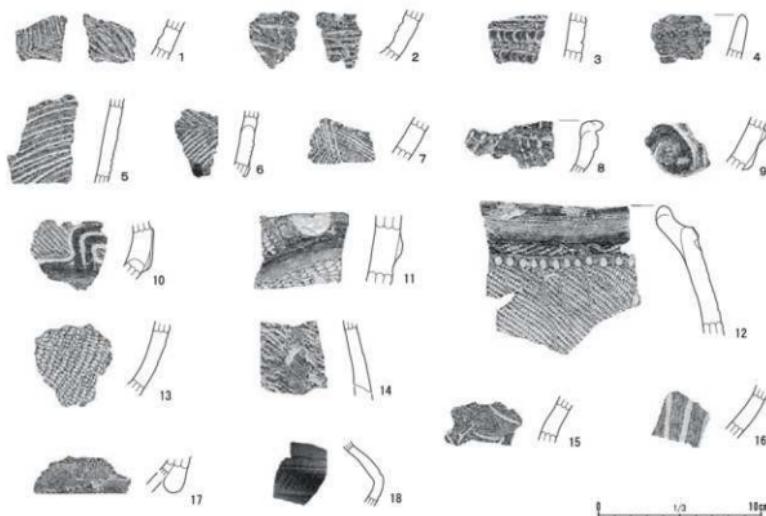
## 第6節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、古墳時代後期の土器、中世以降の遺物に分類する。

### (1) 縄文時代の土器 (第44図1～16、図版16-2-1～16、第24表)

- 1・2は早期末葉の条痕文系土器である。
- 3～7は前期後葉の諸礎式土器である。
- 8～14は中期の土器で、8は中期中葉の阿玉台式土器、9は中期中葉の勝坂式土器、10～14は中期後葉の加曾利E式土器である。
- 15・16は後期初頭～前葉の称名寺式～堀之内式土器である。



第44図 遺構外出土遺物 (1/3)

拂図番号 図版番号	器種 器種別	部 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文 線・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土遺構 出土位置
第44図1 図版16-2-1	深鉢	胴	厚0.9	外傾	内面に斜位。外面に横位の条痕文	橙色／砂粒中量、礫・繊維少量	縄文早中期葉(条痕文系)	B区 遺構外
第44図2 図版16-2-2	深鉢	胴	厚1.0	外傾	内外面に横位の条痕文	にぶい橙色／砂粒中量、礫少量	縄文早中期葉(条痕文系)	324D
第44図3 図版16-2-3	深鉢	胴	厚1.0	僅かに外傾	地文に単筋縞文か／横位の爪形文	橙色／砂粒中量、小礫少量	縄文前期後葉(筋縞b式)	53P
第44図4 図版16-2-4	深鉢	口縁	厚0.9	僅かに外傾	浮線文／横位の押引文	橙色／砂粒中量	縄文前期後葉(筋縞b式)	332D
第44図5 図版16-2-5	深鉢	胴	厚0.7	僅かに外傾	半截竹管工具による集合沈線文	明赤褐色／砂粒・角閃石・片岩中量	縄文前期後葉(筋縞c式)	13P
第44図6 図版16-2-6	深鉢	胴	厚0.8	僅かに外傾	半截竹管工具による集合沈線文を羽状に施文／ボタン状貼付文	にぶい褐色／砂粒・片岩中量	縄文前期後葉(筋縞c式)	51P
第44図7 図版16-2-7	深鉢	胴	厚1.0	外傾	半截竹管工具による集合沈線文を縦位、斜位に施文	橙色／砂粒中量、小礫少量	縄文前期後葉(筋縞c式)	343D
第44図8 図版16-2-8	深鉢	口縁	厚1.0	僅かに内湾し、口唇部で屈曲	口唇部直下に横位の結節沈線文／斜位の結節沈線文	褐色／砂粒、石英、金雲母片多量	縄文中期中葉(阿玉台1b式)	A区 遺構外
第44図9 図版16-2-9	深鉢	胴	厚1.1	僅かに内湾し、外傾	隣溝による渦巻文／隣帯施文に沈線が沿う	明赤褐色／砂粒中量、小礫極少量	縄文中期中葉(拂坂式)	B区 遺構外
第44図10 図版16-2-10	深鉢	胴	厚1.1	僅かに内湾	口縁部にR L 単節縞文を横位施文／一本一対の隣溝によるクランク縞文／隣帯施文に沈線が沿う／彌部は無文	黄褐色／砂粒少量	縄文中期後葉(加曾利E 1～2式)	318D
第44図11 図版16-2-11	深鉢	胴	厚1.5	僅かに外傾	地文は R L 単節縞文を從位施文／断面カマボコ状の隙縫を貼り付け／隣帯直下に磨り削り／強状の沈線文	にぶい黄褐色／砂粒・灰白色粒子中量	縄文中期後葉(加曾利E 3～4式)	51P
第44図12 図版16-2-12	深鉢	口縁	厚1.1	浸状口縁か／内湾し、やや内傾	口縁部は無文／口縁部と脇部の境に横位の隣帶／隣帶上にR L 単節縞文／隣帯直下に最終する突窓文／脇部にL R 単節縞文を從位施文	にぶい褐色／砂粒、赤褐色粒子・小礫少量	縄文中期後葉(加曾利E 4式)	確認調査 3Tr
第44図13 図版16-2-13	深鉢	胴	厚0.9	僅かに内湾し、外傾	地文はL R 単節縞文を横位施文	灰黃褐色／砂粒中量、棕色粒子多量	縄文中期後葉(加曾利E式)	確認調査 2Tr
第44図14 図版16-2-14	深鉢	胴	厚1.0	僅かに内傾	地文はL R 単節縞文を縦位施文か	黄褐色／砂粒・灰白色粒子少量	縄文中期後葉(加曾利E式)	334D
第44図15 図版16-2-15	深鉢	口縁	厚0.9	僅かに外傾	刺突文／沈線文	にぶい黄褐色／砂粒中量	縄文後期前葉(弥名寺II～III之内式)	50M
第44図16 図版16-2-16	深鉢	胴	厚0.9	僅かに内湾し、外傾	懸重文	にぶい黄褐色／砂粒・白色粒子中量	縄文後期前葉(弥名寺II～III之内式)	50M
第44図17 図版16-2-17	壺	口縁	厚0.8	ほぼ直立／複合口縁	外面にハケ目調整後、ヘラ磨き調整／横位方向にS字状結節文／内面複合部下面に赤彩	浅黄褐色／砂粒極少量、棕色粒子や多量	弥生時代後期～古墳時代前期	325D
第44図18 図版16-2-18	須恵器 壺	胴	厚0.6	脇部で屈曲	ロクロ成形／二本の横位沈線／沈線間に彌歯状工具による刺突文／外面に自然軸／湖西製品	灰色／黑色粒子極少量	古墳時代後期	333D
図版16-2-19 須恵器 壺	須恵器 壺	胴	厚0.5	内湾	ロクロ成形／横位沈線／刺突文／湖西製品	灰色／砂粒・石英少量	古墳時代後期	334D

第24表 遺構外出土土器一覧

## (2) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (第44図17、図版16-2-17、第24表)

17は壺形土器の口縁である。

## (3) 古墳時代後期の土器 (第44図18、図版16-2-18・19、第24表)

18・19は須恵器で、臨形土器ある。

## (4) 中世以降の遺物 (図版16-2-20～25、第25表)

## [陶磁器] (図版16-2-20～23、第25表)

20～22は磁器碗である。23は陶器鉢である。

## [土器] (図版16-2-24～25、第25表)

24は秉燭である。25は鉢である。

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版16-20	磁器	碗	高〔4.8〕	染付／外面に草花文／口縁部～体部破片	肥前系	遺構外	近世 (18c代)
図版16-21	磁器	碗	厚0.3	染付／口縁部～体部小破片	肥前系	遺構外	近世 (18c代)
図版16-22	磁器	碗	高〔3.3〕	染付／腰部に一重巻線、高台に二重巻線／底部破片	肥前系	遺構外	近世 (18c代)
図版16-23	陶器	鉢	高〔3.1〕	内面は緑色釉、外面は鉄釉／高台あり／胎土：浅黄色、砂粒を僅かに含む／底部小破片	在地系	遺構外	近世 (19c代)
図版16-24	土器	秉燭	高〔4.9〕	内外面に赤褐色釉／胎土：褐色、砂粒を僅かに含む／脚台部破片	在地系	遺構外	近世 (19c代)
図版16-25	土器	鉢	高(6.6)	植木鉢／胎土：褐色、砂粒を多く含み、雲母片を僅かに含む／内外面：回転ナデ？／口縁部～体部破片	在地系	遺構外	不明

第25表 遺構外出土陶磁器・土器一覧

## 第5章 田子山遺跡第172地点の調査

### 第1節 遺跡の概要

田子山遺跡は、志木市本町2丁目を中心広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.3km、柳瀬川駅の東約1.8kmに位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約15m、低地との比高差は約10mである。

遺跡の周辺を眺めてみると、北側は際立った断崖地形になっており、その眼下には新河岸川が流れている。遺跡の現況は、古くから個人専用住宅を中心として小規模住宅が密集している地区であり、最近では、過去に埋蔵文化財保存措置を講じた地点の建替えや新たに分譲住宅建設を実施する計画の照会があるなど、今後も増加する見込みである。

本遺跡は、これまでに178地点の調査（令和5年1月31日現在）が実施され（第45図）、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

### 第2節 調査の経緯

#### （1）調査に至る経過

令和3年12月、工事の施工責任者である株式会社アーネストワン（代表取締役 松林 重行。以下、施工責任者）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市本町2丁目1680番7、1681番9（面積133.47m<sup>2</sup>）地内に木造3階建分譲住宅建設（2棟）を行うというものである。

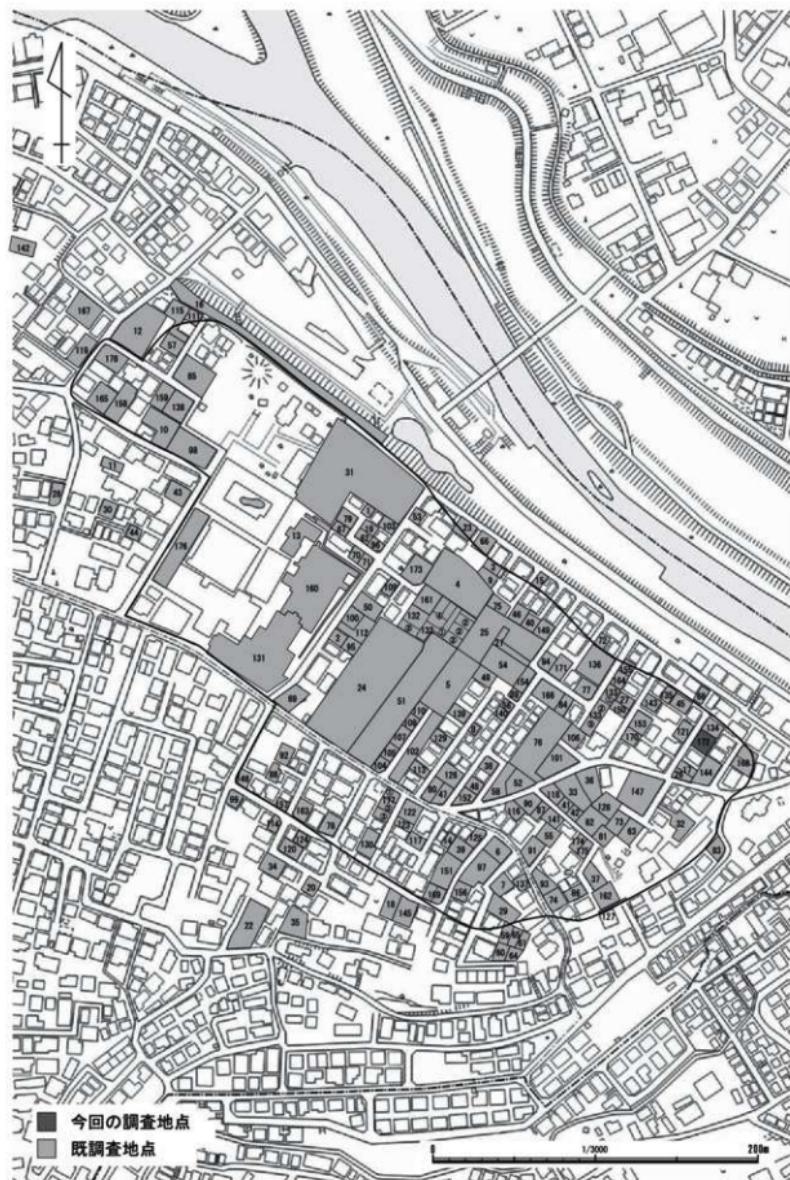
これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である田子山遺跡（コード11228-09-010）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

12月20日、教育委員会は、施工責任者より確認調査依頼書を受理し、田子山遺跡第172地点として、令和4年1月14日に確認調査を実施した。確認調査は、第46図に示すように調査区内に北東～南西方向の2本のトレンチ（1・2T r）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡1軒・土坑3基・ピット1本、弥生時代以降のピット2本を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに施工責任者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

1月31日に施工責任者と埋蔵文化財の保存措置について事前打合せを行った。その結果、分譲住宅の標準基礎部分については盛土保存とし、深基礎部分（17.10m<sup>2</sup>×2か所=34.20m<sup>2</sup>）については十分



第45図 田子山遺跡の調査地点 (1/3,000)

令和5年1月31日現在

な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

2月22日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、土木工事主体者である株式会社丸虹（以下、工事主体者）から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。

3月28日、教育委員会は、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第2条第2項に基づき、施工責任者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

4月4日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、同日に委託契約を締結した。

教育委員会は、3月29日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、4月5日から発掘調査を実施した。

## （2）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第26表の発掘調査工程表にも示した。

4月5日 発掘調査を開始する。第47図のように、北側の調査区をA区、南側の調査区をB区とし、A区・B区の重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始し、本日中に終了する。残土置場は調査区外の東側で処理した。

6日 本日から人員を導入し、調査区の整備・調査器材の搬入を行う。A区・B区の遺構確認作業を行う。A・B区の全体に、東西方向に延びる幅20cm程度の畝状耕作痕による搅乱を確認し、除去を行う。その後、A区の弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓（2方）、B区の中世以降の土坑（336D）の精査を開始する。A区の中世以降のピット（1P）の精査を開始し、本日中に終了する。基準点移動を実施する。

7日 A区の弥生時代後期～古墳時代前期のピット（2P）、中世以降のピット（3・4P）の精査を開始し、本日中に終了する。2方、336Dの精査を終了する。

8日 B区の縄文時代の住居跡（3J）の精査を開始する。東西方向にセクションベルトを設定し（以下、A-A'セクション）、覆土の掘削を行う。覆土中から早期前葉の撫糸文系土器が一定数出土したことから、市内最古の住居跡と位置づけられることとなった。3Jの東壁と地山の境が不明瞭であるため、セクションベルト際にサブトレーンチを設ける。B区の中世以降のピット（5・6P）の精査を開始し、本日中に終了する。A区全体の完掘状況の写真撮影を行い、本日でA区の調査を終了する。

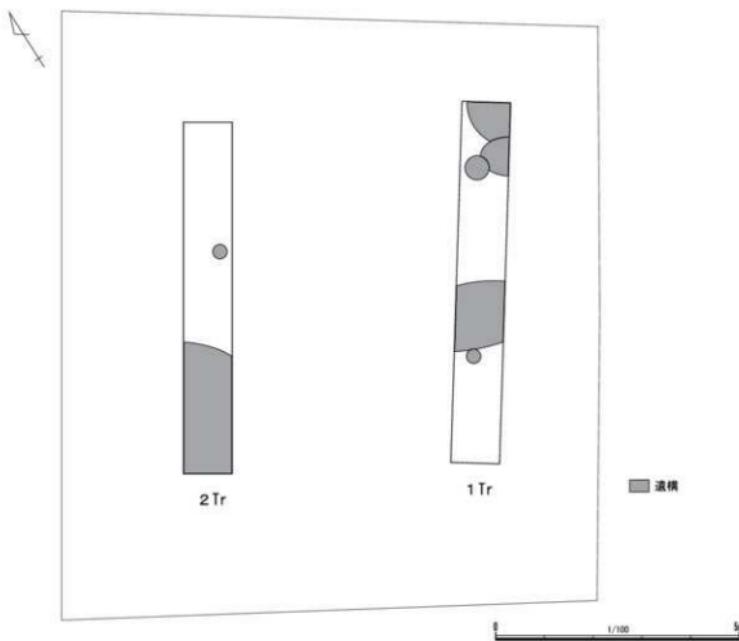
11日 3Jの床面・柱穴（P1～9）を検出する。

12日 3JのA-A'セクションの写真撮影・実測・掘り下げを行う。その後、遺物出土状況の写真撮影を行い、遺物の全点ドットを実施する。B区の中世以降の土坑（337D）・ピット（7P）の精査を開始し、本日中に終了する。

13日 3Jの柱穴の精査を開始。P1～P6は本日中に精査を終了する。

14日 B区東壁セクション（B-B'セクション）の写真撮影・実測を行う。P7の精査を終了する。P8・9の精査を開始し、本日中に終了する。3Jの完掘状況の写真撮影を行う。

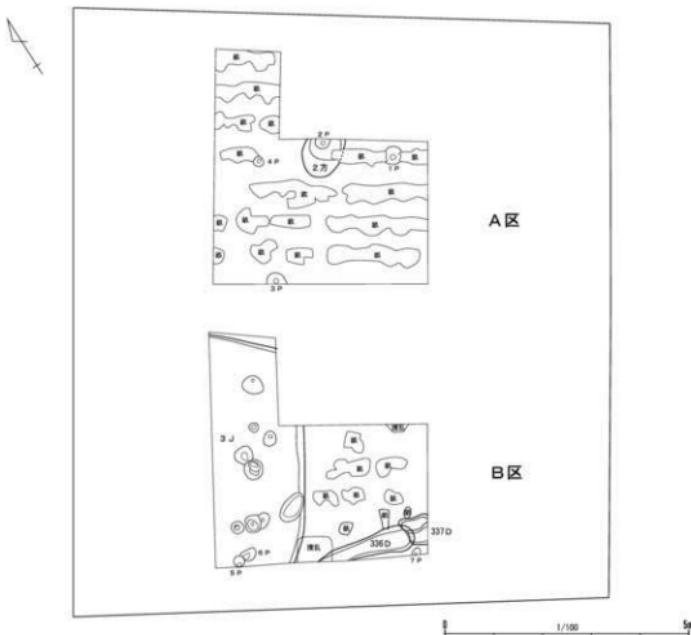
18日 3Jの柱穴のエレベーション図（C-C'セクション）を作成する。3Jの床面の掘り下げを行うが、掘り方は検出されなかった。本日でB区の調査を終了する。調査器材の搬



第46図 確認調査時の遺構分布（1／100）

	令和4年4月															
表土剥ぎ作業	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
(縄文時代)	4.5															
3J				4.8			4.11				4.14			4.19		
(弥生時代)																
2方		4.6				4.7										
2P				4.7												
(中世以降)																
336D		4.6			4.7											
337D							4.12									
1P		4.6														
3P			4.7													
4P			4.7													
5P				4.8												
6P				4.8												
7P							4.12									4.20
埋戻し作業																

第26表 田子山遺跡第172地点の発掘調査工程表



第47図 遺構分布図（1／100）

出を行う。

20日 重機による埋め戻し作業を行う。本日で発掘作業を終了する。

### 第3節 検出された遺構・遺物

#### (1) 概要

今回の調査では、縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、中世以降の遺構・遺物が検出された。

縄文時代の遺構として、住居跡1軒（3J）が検出された。弥生時代後期～古墳時代前期の遺構として、方形周溝墓1基（2方）・ピット1本（2P）が検出された。中世以降の遺構として、土坑2基（336・337D）、ピット6本（1・3～7P）が検出された。

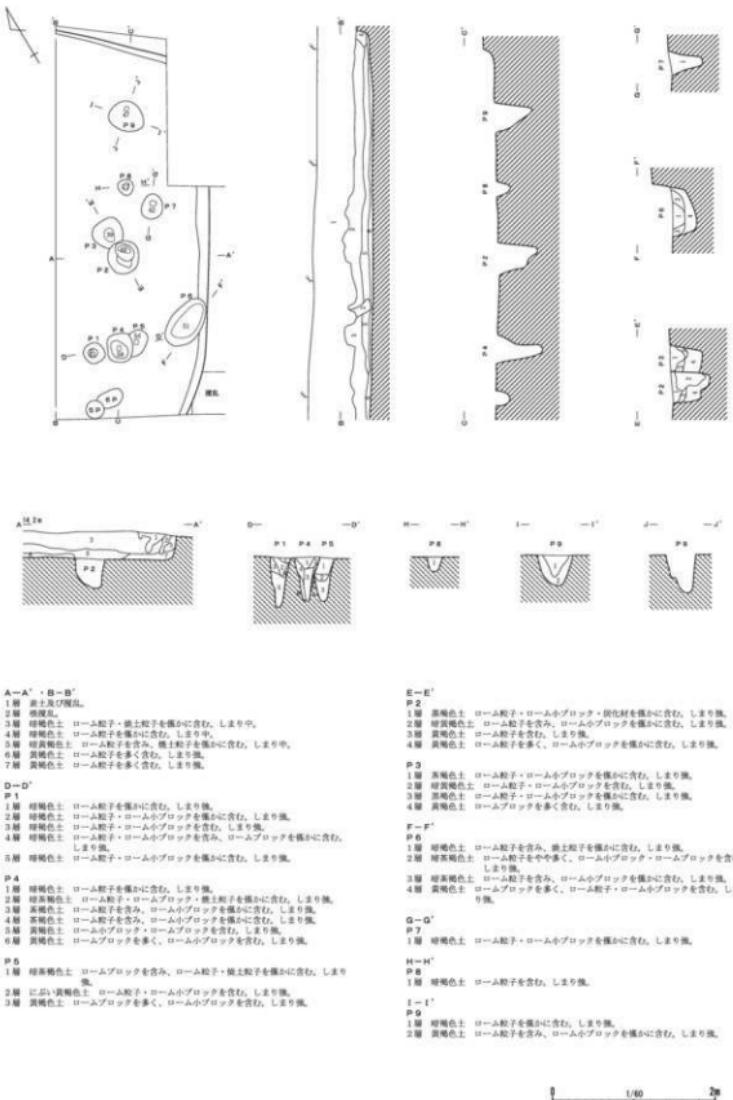
なお、調査区内で見つかった畝状耕作痕については、今回は擾乱扱いとした。

また、遺構外からは、縄文時代・中世以降の遺物が出土している。

#### (2) 住居跡

##### 3号住居跡

**遺構**（第48・49図、第27表）



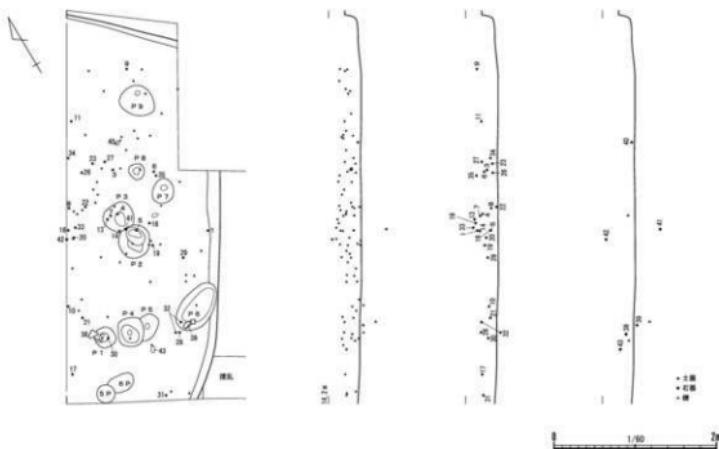
第48図 3号住居跡 (1/60)

[位置] B区の西半。

[検出状況] 住居跡の東半分を検出し、北壁・東壁の立ち上がりを確認した。住居跡の西半は調査区外となる。5・6Pに切られる。覆土の上層付近は歓状耕作痕による搅乱を受けている。

[構造] 平面形：長方形と思われる。規模：検出長で北東—南西軸約4.6m／北西—南東軸約2.0m／遺構確認面からの深さ20cm前後。壁：約80°程度の角度で立ち上がる。主軸方位：N—12°—W。壁溝：検出されなかった。床面：硬化面・貼床は検出されなかった。貯藏穴：検出されなかった。柱穴：9本（P1～9）が検出された。主柱穴は、P9-P2-P4が等間隔ではないが、規則的に並ぶことから、6本柱の住居と推定される。覆土はしまりの強い、黄褐色土・暗褐色土を主体とする。入口施設：検出されなかった。

[覆土] A-A'・B-B'セクションで5層（3～7層）に分層された。暗褐色土を主体とし、床面付近にはローム粒子を多く含む黄褐色土が堆積する。

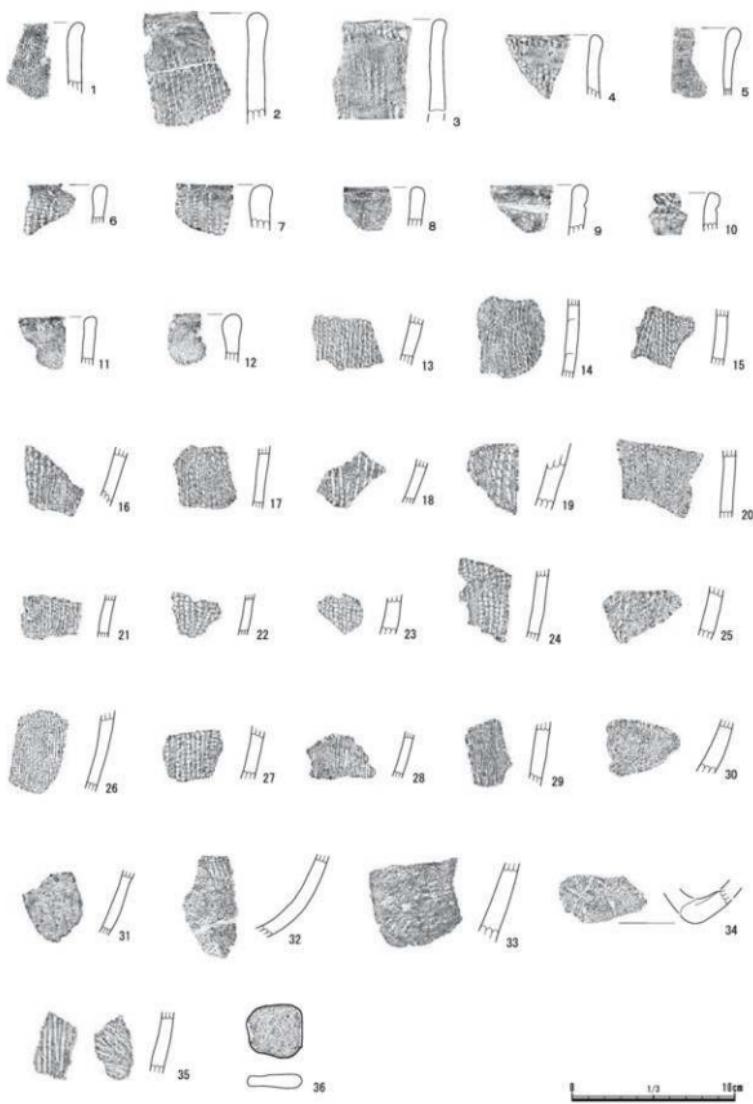


第49図 3号住居跡遺物出土状態（1/60）

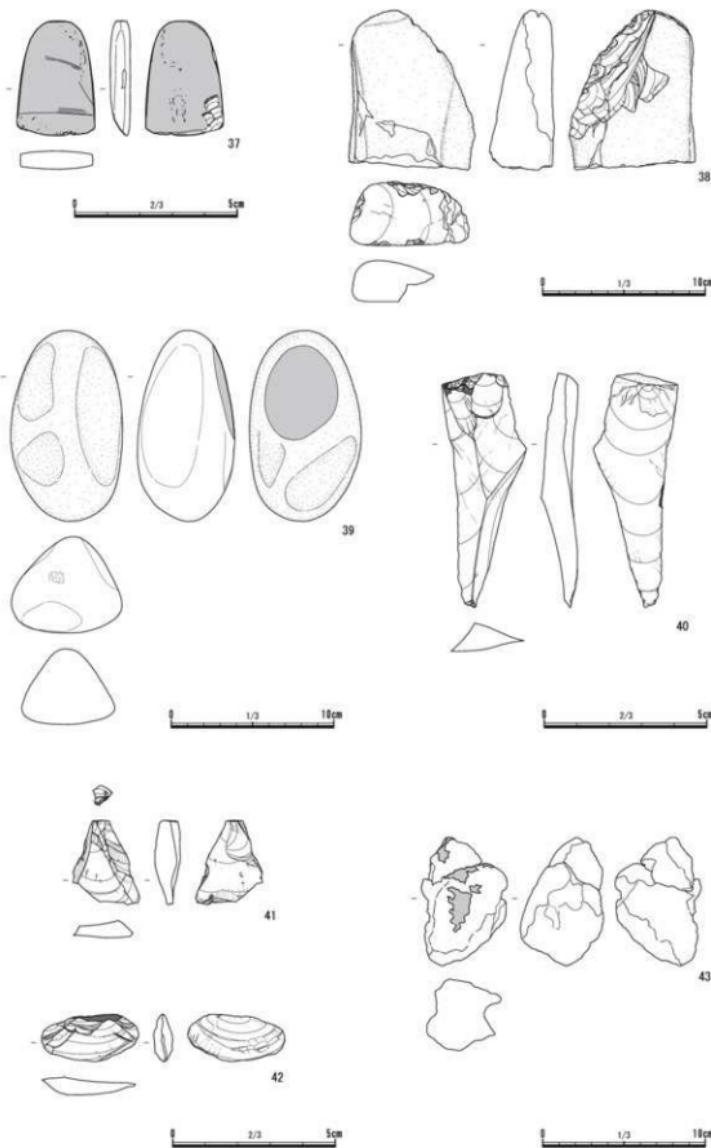
遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考
		長軸	短軸	深さ		
P 1	円形	27	25	61	5層	撫系文系土器
P 2	円形	41	38	49	4層／P3を切る	剝片（黒曜石）1点
P 3	不整円形	38	(33)	39	4層／P2に切られる	撫系文系土器
P 4	橢円長方形	35	31	58	6層／P5を切る	遺物なし
P 5	楕円形	(34)	(25)	54	3層／P4に切られる	撫系文系土器
P 6	楕円形	66	38	31	4層	撫系文系土器／磨石1点
P 7	不整円形	31	26	42	單層	遺物なし
P 8	不整円形	20	18	17	單層	遺物なし
P 9	不整円形	45	36	47	2層	撫系文系土器

規模の（ ）内の数値は現存値

第27表 3号住居跡ピット一覧



第50図 3号住居跡出土遺物 1 (1/3)



第51図 3号住居跡出土遺物2 (2/3・1/3)

擇番号 図版番号	器種 種類	部 位 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文様・特徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第50回1 図版20-1-1	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	尖頭状、外面が肥厚／ ほぼ直立する	外面：口縁部ナデ、以下 対位のR撫系文／内面： ナデ	褐色／石英・赤褐色 粒子・白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回2 図版20-1-2	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	円頭状、外面が肥厚／ ほぼ直立する	外面：口縁部ナデ、以下 対位のL撫系文／内面： 口縁部ミガキ、以下ナデ	にぶい褐色／石英・ 砂粒を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中 (確認調査時 2Tr)
第50回3 図版20-1-3	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	円頭状、外面が肥厚／ ほぼ直立する	外面：ナデのうちに対位のL 撫系文／内面：ナデ	明黄褐色／白色砂粒 を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回4 図版20-1-4	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	円頭状、外面が肥厚／ 外反する	外面：ナデのうちに対位のR 撫系文／内面：ナデ	明褐色／石英・白色 砂粒・小礫を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回5 図版20-1-5	深鉢	口縁部 破片	厚0.4	円頭状、外面が肥厚／ 口縁部直下でくひれる やや外反する	外面：口縁部ナデ、以下 斜位の单節撫文LR／内 面：ナデ	黄褐色／石英・砂粒 を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回6 図版24-1-6	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	円頭状／ほぼ直立する	外面：斜位の单節撫文LL ／内面：ナデ	明灰黃色／石英・長 石・白色砂粒・小礫 を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回7 図版20-1-7	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	円頭状、外面が肥厚／ ほぼ直立する	外面：口縁部ミガキ、対 位のL撫系文／内面：ミ ガキ	褐色／角閃石・赤褐色 粒子・白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回8 図版20-1-8	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	円頭状、外面がやや肥 厚／ほぼ直立する	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	黄褐色／白色砂粒を 多量に含み、小礫を 含む	繩文早期前葉 (桶荷台式)	覆土中
第50回9 図版20-1-9	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	円頭状／ほぼ直立する	外面：口縁部上端ミガキ、 口縁部ナデの直下に1条 の弦紋文、以下対位のR 撫系文／内面：ナデ	明黄褐色／角閃石・ 白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (桶荷原式)	覆土中
第50回10 図版20-1-10	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	円頭状、外面が肥厚／ やや外反する	外面：口縁部ナデの直下 にR撫系文の原体押圧／ 内面：ナデ	褐色／角閃石・砂粒 を含む	繩文早期前葉 (花輪台式)	覆土中
第50回11 図版20-1-11	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	円頭状／ほぼ直立する	内外面：ナデ、無文	黄褐色／角閃石・白 色砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回12 図版20-1-12	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	円頭状、内面が肥厚／ ほぼ直立する	内外面：ナデ、無文	にぶい黄褐色／石英 を多量に含み、白色 砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回13 図版20-1-13	深鉢	脛部 破片	厚0.8	外傾	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	褐色／角閃石・砂粒・ 小礫を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回14 図版20-1-14	深鉢	脣部 破片	厚0.7	僅かに外傾する	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	にぶい黄褐色／石英・ 砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回15 図版20-1-15	深鉢	脣部 破片	厚0.7	僅かに外傾する	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	褐色／石英・砂粒を 含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回16 図版20-1-16	深鉢	脣部 破片	厚0.7	外傾	外面に対位のR撫系文／ 内面：ナデ	褐色／角閃石・石英・ 白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	床面上
第50回17 図版20-1-17	深鉢	脣部 破片	厚0.6	僅かに外傾する	外面：ナデのうちに対位のR 撫系文／内面：ナデ	にぶい黄褐色／石英 を多量に含み、白色 砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回18 図版20-1-18	深鉢	脣部 破片	厚0.6	外傾	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	明褐色／石英・砂粒 を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回19 図版20-1-19	深鉢	脣部 破片	厚1.0	外傾	外面：ナデのうちに対位のR 撫系文／内面：ナデ	明黄褐色／角閃石・ 白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回20 図版20-1-20	深鉢	脣部 破片	厚0.7	僅かに外傾する	外面：ナデのうちに対位のR 撫系文／内面：ナデ	にぶい褐色／角閃 石・石英・砂粒を含 む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回21 図版20-1-21	深鉢	脣部 破片	厚0.6	外傾し、僅かに外反する	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	褐色／砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50回22 図版20-1-22	深鉢	脣部 破片	厚0.5	外傾し、僅かに内湾する	外面：対位のR撫系文／ 内面：ナデ	にぶい黄褐色／白色 砂粒を多量に含み、 角閃石を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	床面上

第28表 3号住居跡出土繩文土器一覧（1）

捕回番号 図版番号	器種 種別	部 遺存状態	法量 (cm)	器 形・形 態	文 標・特 微	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第50図23 図版20-1-23	深鉢	胸部 破片	厚0.9	外傾し、僅かに内湾する	外面：ナデのちに縦位のL 底部文	にぶい黄褐色／角閃石・砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図24 図版20-1-24	深鉢	腹部 破片	厚0.7	外傾し、内湾する	外面：縦位のL撫系文、内 面：ナデ	にぶい黄褐色／角閃石・石英・砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図25 図版20-1-25	深鉢	胸部 破片	厚0.9	外傾し、内湾する／底 部付近か	外面：ナデのちに縦位のL 底部文／内面：ナデ	明黄褐色／角閃石・砂 粒・小礫を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	住居内撫乱
第50図26 図版20-1-26	深鉢	腹部 破片	厚0.8	外傾し、僅かに内湾する	外面：縦位のL撫系文／ 内面：ナデ	褐色／白色砂粒を多 量に含み、角閃石を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図27 図版20-1-27	深鉢	胸部 破片	厚0.7	外傾し、僅かに内湾する	外面：縦位のL撫系文／ 内面：ナデ	黄褐色／角閃石・砂 粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図28 図版20-1-28	深鉢	腹部 破片	厚0.5	外傾し、僅かに内湾する	外面：縦位の格条体条痕 文／内面：ナデ	にぶい黄褐色／角閃石・砂 粒・小礫を含む	繩文早期前葉 (稚荷台式)	覆土中
第50図29 図版20-1-29	深鉢	胸部 破片	厚0.9	ほぼ直立	外面：縦位の格条体条痕 文／内面：ナデ	にぶい黄褐色／角閃石・砂 粒を含む	繩文早期前葉 (稚荷台式)	覆土中
第50図30 図版20-1-30	深鉢	腹部 破片	厚1.0	外傾し、内湾する	内外面：ナデ	黄褐色／石英・砂粒 を多量に含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図31 図版20-1-31	深鉢	胸部 破片	厚0.7	外傾し、内湾する	内外面：ナデ	にぶい黄褐色／角閃石・白 色砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図32 図版20-1-32	深鉢	底部 破片	厚0.8	外傾し、内湾する	外面：ナデのちに縦位のL 底部文／内面：ナデ	明黄褐色／石英を多 量に含み、白色砂粒 を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図33 図版20-1-33	深鉢	底部 破片	厚1.1	外傾し、内湾する	外面：斜位のR撫系文／ 内面：ナデ	明黄褐色／角閃石・白 色砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図34 図版20-1-34	深鉢	底部 破片	厚1.4	尖底／外傾し、内湾する	外面：ナデのちに縦位のL 底部文	にぶい黄褐色／石英・白 色砂粒を含む	繩文早期前葉 (撫系文系)	覆土中
第50図35 図版20-1-35	深鉢	胸部 破片	厚0.8	外傾し、僅かに内湾する	外面：縦位の条痕文／内 面：斜位の条痕文	黄褐色／織維・角閃 石・白色砂粒を含む	繩文早期後葉 (条痕文系)	覆土中

第28表 3号住居跡出土繩文土器一覧(2)

捕回番号 図版番号	器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	特 微	出土位置
第51図37 図版20-1-37	磨製石斧	蛇紋岩	35.54	24.27	6.46	10.30	完形／定角式／表裏・両側面・上面に研磨面あり ／刃部は片刃	覆土中
第51図38 図版20-1-38	スタンプ形石器	砂岩	98.51	77.96	40.04	360.89	完形／裏面の左側線を直接打撃によって調整加工 ／底面は分割されたままの剥離面	覆土中
第51図39 図版20-1-39	磨 石	安山岩	117.71	69.22	60.13	670.71	完形／裏面に研磨面あり／下部に敲打痕あり	P6覆土中
第51図40 図版20-1-40	剥 片	頁岩	72.26	26.26	11.56	12.11	完形／平面打撃／頭部調整／背面構成は縱方向と横 方向から剥離	P8とP9の間 床面上
第51図41 図版20-1-41	剥 片	黒曜石	26.17	20.93	8.11	3.15	末端部欠損／複数剥離打撃／背面構成は縱方向と横 方向から剥離	P2覆土中
第51図42 図版20-1-42	剥 片	頁岩	14.81	30.22	6.12	2.44	完形／打撃石斧の調整剥片か／背面の一部に原礫 面を有する	覆土中
第51図43 図版20-1-43	燧石製石製品	軽石	79.26	53.21	51.37	37.94	完形／加工面と未加工面の区別は困難／浮子か	覆土中

(単位：mm, g)

第29表 3号住居跡出土石器一覧

**[遺 物]** 土器・土製品・石器が出土した。今回は図示し得る遺物を扱い、撚糸文系土器片35点、条痕文系土器片1点、土製円盤1点、石器7点を掲載した。

**[時 期]** 縄文時代早期前葉（撚糸文）。

**[遺 物]** (第50・51図、図版20-1、第28・29表)

**[土 器]** (第50図1~35、図版20-1-1~35、第28表)

1~34は早期前葉の撚糸文系土器で、1~8・28・29は稻荷台式土器、9は稻荷原式土器、10は花輪台式土器と推定される。

35は早期後葉の条痕文系土器である。

**[土 製 品]** (第50図36、図版20-1-36)

36は早期前葉の撚糸文系土器片を転用した土製円盤である。長さ3.5cm、幅3.3cm、厚さ0.8cm、重さ10.2gである。内外面にはナデが施され、周縁は摩滅している。住居内の擾乱からの出土である。

**[石 器]** (第51図37~43、図版20-1-37~43、第29表)

37は蛇紋岩製の磨製石斧である。38はスタンプ形石器である。39は磨石である。40~42は剥片である。42は打製石斧の調整剥片の可能性がある。43は軽石製石製品である。

### (3) 方形周溝墓

#### 2号方形周溝墓

**[遺 構]** (第52図)

**[位 置]** A区の中央北端。

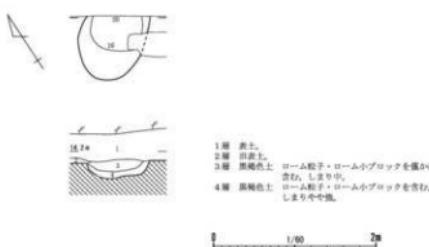
**[検出状況]** 大半が調査区外に延び、今回はその一部を検出した。本地点の北東隣に位置する第134地点で検出された2号方形周溝墓の延長部分と考えられる（2023年現在、未報告）。調査区内では、南・東方向への周溝の延長は確認されなかった。2Pを切る。

**[構 造]** 平面形：溝状の長円形。規模：現況長0.79m／現況幅0.80m／深さ22cm。壁：約60°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-25°-E。

**[覆 土]** 2層（3・4層）に分層された。黒褐色土を主体とする。

**[遺 物]** 出土しなかった。

**[時 期]** 弥生時代後期～古墳時代前期。



第52図 2号方形周溝墓 (1/80)

## (4) 土坑

## 336号土坑

## 遺構 (第53図)

[位置] B区の南端。

[検出状況] 東西方向に延び、西側の立ち上がりは調査区外にある。337Dを切る。

[構造] 平面形：溝状。規模：現況長2.04m／現況幅0.54m／深さ14cm。壁：40°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-75°-W。

[覆土] 灰暗褐色土の単層である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

## 337号土坑

## 遺構 (第53図)

[位置] B区の南端。

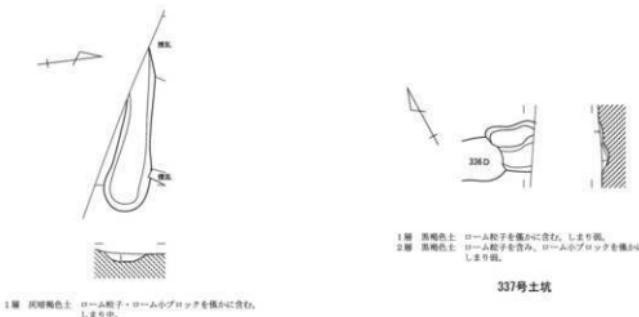
[検出状況] 東西方向に延び、東側の立ち上がりは調査区外にある。336Dに切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形か。底面が2段になる。規模：現況長0.61m／現況幅0.63m／深さ10cm。壁：30～40°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-65°-W。

[覆土] 2層（I・II層）に分層された。黒褐色土を主体とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

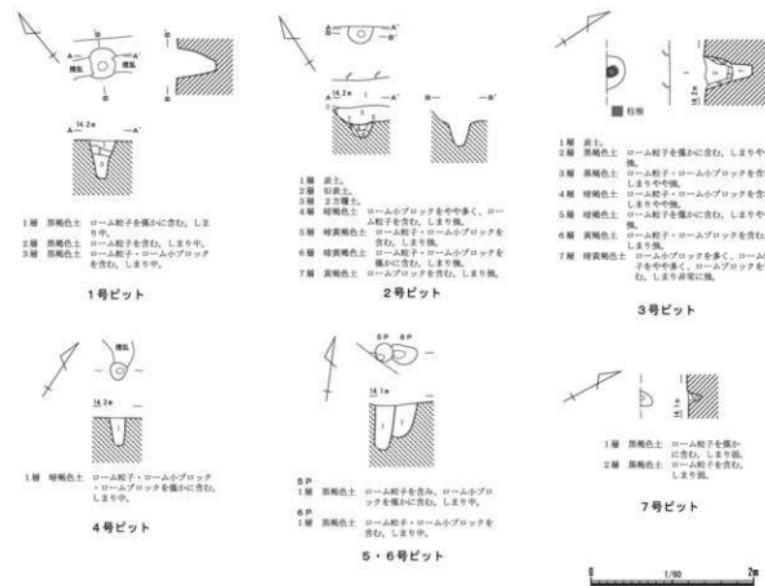


第53図 土坑 (1/60)

## (5) ピット

調査区域内から検出されたピットは、全部で7本(1~7P)である。2Pは2号方形周溝墓に切られていることから弥生時代後期~古墳時代前期、1・3~7Pは覆土の観察から中世以降の時期と考えられる。いずれのピットからも遺物は出土しなかった。

ピット基本内容については第30表に示した。



第54図 ピット (1/60)

遺構名	平面形	面積(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
1P	円形	37	(34)	48	3層／歓状耕作痕に擾乱される	遺物なし	中世以降
2P	椭円形か	(32)	27	47	4層／2方に切られる	遺物なし	弥生時代後期~古墳時代前期
3P	椭円形か	(37)	35	58	6層	遺物なし	中世以降
4P	不整円形	21	20	34	単層／歓状耕作痕に擾乱される	遺物なし	中世以降
5P	円形	22	22	59	単層／3J, 6Pを切る	遺物なし	中世以降
6P	不整円形	(34)	23	43	単層／5Pに切られる。3Jを切る	遺物なし	中世以降
7P	椭円形か	(19)	(16.5)	19	2層	遺物なし	中世以降

第30表 ピット一覧

## (6) 遺構外出土遺物 (第55図、図版20-2、第31・32表)

ここでは、確認調査から出土した遺物、そして遺構の外・攪乱から出土した遺物を、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器及び中世以降の鉄製品が出土した。

## ①縄文時代の土器 (第55図、図版20-2-1~12、第31表)

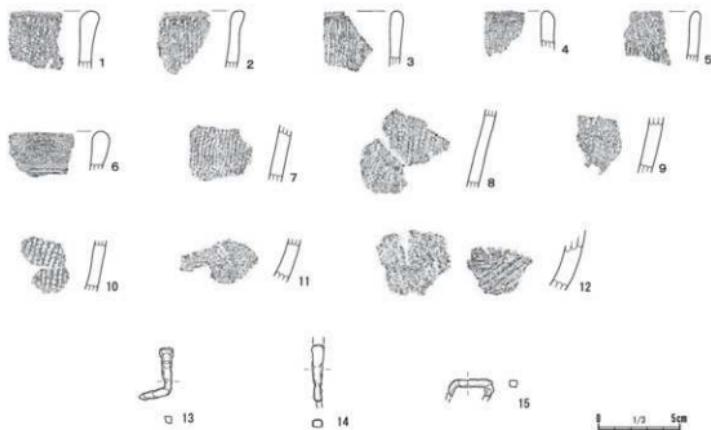
早期前葉・後葉の土器が出土している。各時期の報告点数は、早期前葉11点、早期後葉1点の合計12点である。

1~11は早期前葉の燃糸文系土器で、1~4は稻荷台式土器、5は稻荷原式土器、6は稻荷原式土器もしくは東山式土器と考えられる。

12は早期後葉の条痕文系土器である。

## ②中世以降の鉄製品 (第55図、図版20-2-13~15、第32表)

13・14は釘で、15は鎧である。



第55図 遺構外出土遺物 (1/3)

標印番号 図版番号	器種 種別	部 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態等	文様・調整等	胎土	時期	出土遺構 出土位置
第55図1 図版20-2-1	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	円頭状、外面が肥厚／ ほぼ直立	外面：口縁部ナデ、以 下ミガキのちに縦位のR 撚糸文／内面：ナデ	にぶい黄褐色／角閃 石・白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (福荷台式)	B区遺構外
第55図2 図版20-1-2	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	平坦、外面が肥厚／口 縁部直下でくびれる／ ほぼ直立	外面：ナデのちに縦位 のL撚糸文／内面：ナデ	褐色／角閃石・白色砂 粒を含む	繩文早期前葉 (福荷台式)	B区遺構外
第55図3 図版20-2-3	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	円頭状、外面が僅かに 肥厚／ほぼ直立	外面：ミガキのちに縦位 のR撚糸文／内面：ミ ガキ	にぶい黄褐色／砂粒を 含む	繩文早期前葉 (福荷台式)	6P 覆土中
第55図4 図版20-2-4	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	円頭状で外削ぎ、外面 が僅かに肥厚／ほぼ直 立	外面：ミガキのちに縦 位のR撚糸文／内面：ナ デ	オリーブ褐色／角閃 石・白色砂粒を含む	繩文早期前葉 (福荷台式)	B区遺構外
第55図5 図版20-2-5	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	尖頭状／ほぼ直立	外面：口縁部ナデの 直下に1条の浅い沈線文 以下縦位のL撚糸文／内 面：ナデ	オリーブ褐色／角閃 石・砂粒を含む	繩文早期前葉 (福荷原式)	B区遺構外
第55図6 図版20-2-6	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	円頭状、外面が肥厚／ ほぼ直立	外面：口縁部ナデの 直下に1条の沈線文／内 面：ミガキ	明黄色／石英・白色 砂粒を含む	繩文早期前葉 (福荷原式か 黒山式)	A区遺構外
第55図7 図版20-2-7	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外傾する	外面：縦位のL撚糸文 ／内面：ナデ	にぶい黄褐色／砂粒を 多量に含み、角閃石・ 石英・小礫を含む	繩文早期前葉 (撚糸文系)	B区遺構外耕作痕
第55図8 図版20-2-8	深鉢	胴部 破片	厚0.6	外傾	外面：ナデのちに縦位 のR撚糸文／内面：ナデ	黄褐色／角閃石・石 英・白色砂粒・小礫を 含む	繩文早期前葉 (撚糸文系)	B区遺構外
第55図9 図版20-2-9	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外傾する	外面：ナデのちに縦位 のL撚糸文／内面：ナデ	にぶい黄褐色／角閃 石・石英・砂粒・小礫 を含む	繩文早期前葉 (撚糸文系)	B区遺構外
第55図10 図版20-2-10	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに外傾する	外面：縦位のL撚糸文 ／内面：ナデ	明褐色／角閃石・白色 砂粒を含む	繩文早期前葉 (撚糸文系)	B区遺構外
第55図11 図版20-2-11	深鉢	底部 破片	厚0.8	外傾し、内湾する	外面：ナデのちに撚糸 文／内面：ナデ	黄褐色／石英を多量に 含み、角閃石・白色砂 粒を含む	繩文早期前葉 (撚糸文系)	A区遺構外耕作痕
第55図12 図版20-2-12	深鉢	底部 破片	厚1.0	外傾し、僅かに内湾す る	外面：横ナデ、内面： ナデのちに斜位の柔強 文	黄褐色／纏維・白色砂 粒を含む	繩文早期後葉 (柔強文系)	確認調査時 ITr

第31表 遺構外出土繩文土器一覧

標印番号 図版番号	種別	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	特徴	時期	出土遺構
第55図13 図版20-2-13	鉄製品	釘	4.3	0.8	0.5	3.1	断面は方形／脚部の途中で折れ曲がる／ 先端部を欠損	中世以降	A区歎耕作痕
第55図14 図版20-2-14	鉄製品	釘	3.5	0.7	0.5	2.4	断面は長方形／頭部・先端部は欠損	中世以降	A区歎耕作痕
第55図15 図版20-2-15	鉄製品	劍	1.0	2.6	0.5	2.1	断面は方形／両端部が折れ曲がる／両端 部の先端は欠損	中世以降	A区歎耕作痕

(単位: cm, g)

第32表 遺構外出土鉄製品一覧

## 第6章 調査のまとめ

### 第1節 中野遺跡第121地点の調査成果

本地点からは、古墳時代後期の住居跡1軒（103H）、中世以降のピット（1・2P）が検出された。ここでは、古墳時代後期について若干のまとめを行うこととする。

#### （1）古墳時代後期の土器について

103Hから出土した古墳時代後期の土器は、土師器壺・甕・甑形土器の3器種である。第2章中で掲載した壺形土器（1・2）・甑形土器（3）について、中野遺跡第25地点の分類・編年（尾形・深井2001）と照らし合わせて編年的位置づけを試みる。

1の壺形土器は、いわゆる比企型壺で、B2a類に該当する。口縁部が「S」字状を呈し、口唇部に沈線は伴わず、口径は12cm程度で、やや深身のものである。2の壺形土器は、いわゆる有段壺で、D2類に該当する。口径は14cm以上と予測され、大型品の部類に入る。口縁部はやや強めに外反する。なお、1・2の壺型土器は「入間系土師器」である（尾形 2008）。

3の甑形土器は、B1c類に該当する。長胴化の兆しがみられ、口縁部が弓状に外反する。

以上の分類・特徴を総括すると、3期（6世紀中葉）の土器群として位置づけることができる。

#### （2）穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩について

土器のほか、103Hからは穿孔貝巣穴痕跡軟質泥岩（以下、「穿孔泥岩」と省略する。）が出土した。穿孔泥岩は、海岸沿いで生産された灰塩に混入して持ち込まれたものではないかと推測され、塩の流通を考察する上で注目される遺物である（坂本 2015）。

市内で今までに穿孔泥岩が出土したことが判明している調査地点は、本地点を含め、中野遺跡第40地点（未報告）、城山遺跡第99地点（尾形・大久保 2022）、西原大塚遺跡第225④（未報告）・235地点（徳留ほか 2023）、田子山遺跡第160地点（尾形ほか 2020）の計6地点である。市内の各遺跡から満遍なく出土し、住居の時期は弥生時代後期～古墳時代後期と幅広い。当時の住居における穿孔泥岩の位置づけ・塩の流通について、出土事例の増加を待って今後も検討を進めていきたい。

なお、坂本氏は上記の論文中において、塩の供給と馬飼育の結びつきについて着目しているが、市内における古墳時代の馬関連遺物は未だ出土していない。

#### （3）中野遺跡における古墳時代後期の住居跡について

中野遺跡では、今までに古墳時代の住居跡として計69軒が検出されているが（清水 2022）、時期の内訳は前期0軒、中期0軒、後期69軒であり、現状の成果を踏まえると、後期になってから集落が形成されたことが分かる。本地点でも後期の住居跡103Hが検出され、中野遺跡における古墳時代後期の集落像を検討するまでの事例を一つ追加する成果となった。なお、この103Hは6世紀代の住居跡としては、中野遺跡の最北端に位置することを付記しておく。

## 第2節 中野遺跡第123地点の調査成果

本地点からは、中世以降の土坑13基（704～716D）・溝跡1本（32M）・ピット24本（1～24P）が検出された。

ここでは、中世以降の遺構について若干のまとめを行うこととする。

### （1）中世以降の遺構について

今回の調査区全体で段切状遺構が確認された。その段切状遺構の覆土との関係を基準とし、今回検出された遺構が形成された時期の順序について整理を行う。

①段切状遺構の覆土に覆われる遺構、もしくはその遺構に切られる遺構（段切以前の遺構）

712 D、714 D、24 P

②段切状遺構の覆土を切る遺構（段切以後の遺構）

なし

③段切状遺構の覆土との関係が不明

704 D、705 D、706 D、707 D、708 D、709 D、710 D、711 D、713 D、715 D、716 D、32 M

全体の傾向として、A区の一部には段切状遺構の覆土が残るが、B区には段切状遺構の覆土がみられない。段切状遺構の覆土が削平された後に、表土が堆積した可能性が高く、遺構との関係が不明である。

④に該当する遺構からは、遺物は出土しておらず、段切の時期の判定は難しい。ただし、東隣の第78地点の調査では、段切状遺構に伴うと考えられる土坑（111 D）から17世紀中頃の陶磁器が出土しており（大久保・尾形・青木 2014）、本地点でも近しい時期に段切がなされた可能性が考えられる。

中野遺跡の北端にあたる、近隣の第49地点（尾形・深井・青木 2004）・第78地点・第95地点（徳留・尾形・青木 2017）・第109地点（尾形ほか 2021）でも段切状遺構が検出されており、本地点でもそれが展開していくことが確かめられた。

## 第3節 中道遺跡第94地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の土坑2基（328・330 D）・ピット4本（69・70・73・76 P）、平安時代の土坑7基（332～335・337・338・340 D）・ピット8本（19・28・34・44・54・60・65・67 P）、中世以降の土坑28基（307～327・329・331・336・339・341～343 D）・溝跡2本（49・50 M）・ピット103本（1～18・20～27・29～33・35～43・45～53・55～59・61～64・66・68・71・72・74・75・77～115 P）が検出された。

ここでは、平安時代の遺構について若干のまとめを行うこととする。

### （1）平安時代の遺構について

本地点の平安時代の遺構は、土坑7基（332～335・337・338・340 D）、ピット8本（19・28・34・44・54・60・65・67 P）であった。遺構分布を見ると、A区ではピットが検出され、B区では、円形・楕円形を呈する土坑（332～335・337・338・340 D）が集中して検出されたことが所見とし

て挙げられる。今回の調査区は近接した2か所に分かれていたが、遺構分布の様相は異なっていた。本地点周辺でも平安時代の遺構・遺物が検出されていることから、ここでは、本地点および周辺地点の調査成果を含め、遺構がどのように分布するかの把握を試みる。対象地点は第12・65・76・87・94地点で、これらの遺構分布をまとめたものを第56図に示した。

#### 【第12地点】(佐々木・尾形 1992)

第94地点の南側に位置する(第56図)。第12地点では、住居跡が2軒(8・9H)検出されている。8・9H間の距離は20m程度である。出土遺物から8・9Hは9世紀後葉と考えられる。特に9Hからは「千」の字が書かれた墨書き土器(第56図1)や、灰釉陶器の長頸瓶(第56図2)が出土している。

#### 【第65地点】(尾形・藤波・青柳 2007)

第94地点の北西側に位置する(第56図)。第65地点では、住居跡が1軒(24H)、掘立柱建築遺構1棟(5T)、土坑3基(152・160・161D)、ピット17本(1・12・25・26・38・40~49・51・62P)が検出されている。24Hについては、ピットと硬化面のみの検出である。5Tについては、身舎部分が2間×2間まで検出され、身舎周囲に小規模なピットが回廊状にめぐっており、四面庇建物の可能性がある(大久保 2022)。土坑は、隅丸方形、楕円形、円形と形態は様々である。24Hが調査区の西端に位置し、24Hから東側25m程度の位置に5Tが位置する。土坑・ピットは5Tの周辺に点在する分布傾向を示す。

#### 【第76地点】(尾形・大久保・深井・青木 2018)

第94地点の南・東側に隣接する(第56図)。第76地点では、住居跡が1軒(25H)、土坑3基(197・204・215D)、ピット25本が検出されている。25Hは調査区北東端で検出されている。土坑については、いずれも長方形を呈し、調査区西側の第65地点寄りで散発的に分布する。ピットは調査区中央から西側にかけて分布しており、特に中央付近でやまとまって検出されている。時期については、出土遺物から25Hを9世紀後葉、197・215Dを9世紀代に位置付けている。

#### 【第87地点】(尾形・大久保・林 2020)

第94地点の南東側に位置する(第56図)。第87地点では、住居跡が4軒(28・30~32H)検出されている。28Hは調査区南側に位置し、第12地点寄りである。30~32Hは調査区北側に位置し、ほぼ同一箇所で重複し、第76地点の25Hと隣接する。時期は、出土遺物から28Hが9世紀中葉、30Hが9世紀末葉、31Hが9世紀後葉、32Hが9世紀中葉~後葉である。特筆すべき点として、28Hでは「音」「調」と墨書きされた須恵器環形土器(第56図3・4)が出土している。30Hでは瓦(第56図5・6)や、土鍋の脚部と思われる土器(第56図7)が出土している。

これらの調査所見をもとに、各地点の遺構分布を総合的にみると下記の指摘ができる。

- ①四面庇建物と思われる5Tを中心としてみた場合、5T周辺に土坑・ピットが分布する(第65地点、第76地点、第94地点)。
  - ②上記①の土坑・ピット範囲からさらに東側には、住居跡(8・9・25・28・30~32H)が分布する。
  - ③5T西側には土坑・ピットは少なく、24Hが台地際に存在している。
  - ④時期が判明している遺構は9世紀代のものである。
- 各地点間で未調査部分も多いが、現段階での所見をまとめると、9世紀代において、5Tの周辺および東側に土坑・ピット群域、さらに東側には住居域が広がっていたものと考えられる。
- 当時の集落景観が具体的にどのようなものであったかを考察していくためにも、遺構の性格を捉えていく必



第56図 中道遺跡第94地点周辺の平安時代の遺構分布(1 / 500)

要がある。例えば四面庇建物については、周辺遺跡における事例としては、朝霞市宮原・塚越遺跡の掘立柱建物跡が挙げられる（照林 2004）。照林氏は宮原・塚越遺跡の掘立柱建物跡を、出土遺物とあわせて検討し、仏堂としての性格が考えられると指摘する（照林 2004）。5Tは宮原・塚越遺跡のそれとは規模が異なり、仏教関連遺物の出土もないが、仏堂としての可能性を考慮しておく必要はあるだろう。また、土坑・ピット群域の性格については、遺構の機能を考察できる遺物の出土がなく、現時点では不明確であり、課題である。住居跡については、瓦や墨書き器など出土遺物の検討が必要となろう。

今後、周辺での調査が進み、集落構造や出土遺物の内容を検討していくことで、中道遺跡は当時の集落景観が復元可能な一例になると思われる。

## 第4節 田子山遺跡第172地点の調査成果

この地点では、縄文時代早期の住居跡1軒（3J）、弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓1基（2方）・ピット1本（2P）、中世以降の土坑2基（336・337D）・ピット6本（1・3～7P）が検出された。

ここでは、縄文時代と弥生時代後期～古墳時代前期について若干のまとめを行うこととする。

### （1）縄文時代早期の遺物について

3Jからは、早期前葉の稻荷台式を中心とする撚糸文系土器が出土した。稻荷台式土器は、口縁部がほぼ直立し、胴部が鋭角の尖底に向かって緩やかにすぼまる器形を主とする。口唇部外面に無文部を形成し、胴部には撚糸文・無文が増え、撚糸文の条間隔が広くなるなど施文の規則性が弛緩することが特徴として挙げられる（原田 1991）。

また、3Jに伴う石器として、磨製石斧、スタンプ形石器、磨石、剥片、打製石斧調整剥片、軽石製石製品が出土した。とりわけ、小型の磨製石斧、スタンプ形石器は稻荷台式期に著しい増加をみせる石器であることから（原田 1991）、今回の住居跡から出土したことは整合性の高い成果となった。

田子山遺跡では、本地点以外に、第32・37・39・47・49・121地点からも当該期の遺物がしており、これら早期の遺物は田子山遺跡の南東のエリアに分布する傾向にある。

### （2）縄文時代早期の住居跡について

現在までに市内における最古の住居跡は、中道遺跡第65地点で検出された、縄文時代早期末葉の条痕文系土器様式期の第10号住居跡とされてきたが（尾形・藤波・青柳 2007）、今回検出された3Jが、市内における最古の住居跡として改めて位置づけられることとなった。

さらに、本地点の西隣の第121地点では、稻荷台式を中心とする撚糸文系土器及び石器が集中して出土した遺物包含層が存在する（徳留・尾形・藤波 2012）。本地点で同時期の住居跡を検出したことから、第121地点の遺物包含層も住居跡の覆土であった可能性を指摘しておきたい。

稻荷台式期に、多摩丘陵・武藏野台地周辺で竪穴住居跡の検出例が著しく増加することから、縄文時代における竪穴住居普及の画期があったとされ（原田 1991）、本地点から稻荷台式期の住居跡が検出されたことも、この事象の一環として捉えることができよう。

### (3) 弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓について

今回検出された2方は、本地点の北東隣の第134地点で検出された2号方形周溝墓の延長部分と考えられる（未報告）。本地点で周溝が途切れる事になるが、周溝を含めて最小で一辺約7m程度の規模であったことが推測される。

田子山遺跡で現在までに検出された方形周溝墓は、他に第32地点の1号方形周溝墓のみであるが（尾形 1996）、本地点と第32地点は約50mの指呼の距離にある。田子山遺跡における方形周溝墓の検出事例は未だ少ないものの、第134・172地点及び第32地点を含む辺り一帯、つまりは田子山遺跡の南東隅のエリアが弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓が集中する区域であった可能性が指摘できる。

#### [引用・参考文献]

- 大久保聰 2022「新羅郡の時代の志木市」『新羅郡の時代 朝霞市・志木市・新座市・和光市の古代遺跡をめぐる』  
シンポジウム「新羅郡の時代を探る」実行委員会 雄山閣
- 大久保聰・尾形則敏・青木 修 2014『中野遺跡第78地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第57集  
埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏 1996『志木市の遺跡群Ⅶ』志木市の文化財第23集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏 2008『古墳時代後期の土師器研究の再認識』『埼玉考古』第43号 埼玉考古学会
- 尾形則敏・大久保聰 2022『城山遺跡第99地点 中野遺跡第114地点 中道遺跡第92地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第84集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聰・石川安司・小林陽子・清水理史 2020『田子山遺跡第160地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第77集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聰・深井恵子・青木 修 2018『中道遺跡第76地点 城山遺跡第91①地点 西原大塚遺跡第211地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第69集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聰・林 邦雄 2020『中道遺跡第87地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第73集  
埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・大久保聰・市川康弘・梶ヶ谷真理・植月 學 2021『中野遺跡第109地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第82集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子 2001『埋蔵文化財調査報告書2』志木市の文化財第31集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2004『中野遺跡第49地点』志木市遺跡調査会調査報告第7集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形則敏・藤波啓容・青柳美雪 2007『中道遺跡第65地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第12集  
埼玉県志木市遺跡調査会
- 坂本和俊 2015『古墳時代東国への土器を使わない製塙と塙の流通痕跡』『埼玉考古』第50号 埼玉考古学会
- 佐々木保俊・尾形則敏 1992『中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地点 田子山遺跡第5地点 発掘調査報告書』志木市の文化財第18集 埼玉県志木市教育委員会
- 清水理史 2022『中野遺跡における古墳時代の遺構分布』『中野遺跡第117地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第88集 埼玉県志木市教育委員会
- 原田昌幸 1991『燃糸文系土器様式』考古学ライブラリー61 ニュー・サイエンス社
- 照林敏郎 2004「朝霞市における奈良・平安時代の集落について」『あらかわ』第7号 あらかわ考古談話会
- 徳留彰紀・尾形則敏・青木 修 2017『市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集 埼玉県志木市教育委員会
- 徳留彰紀・尾形則敏・藤波啓容 2012『田子山遺跡第121地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第50集  
埼玉県志木市教育委員会
- 徳留彰紀・大久保聰・尾形則敏・木村結香・市川康弘 2023『西原大塚遺跡第235地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第89集 埼玉県志木市教育委員会

図 版





1. 調査区近景



2. 確認調査風景



3. 表土剥ぎ風景



4. 発掘風景



5. 103号住居跡



6. 103号住居跡 P 1



7. 103号住居跡貯蔵穴



8. 103号住居跡 P 1・貯蔵穴



1. 103号住居跡カマド検出状況



2. 103号住居跡カマド



3. 103号住居跡カマド



4. 103号住居跡遺物出土状態



5. 103号住居跡掘り方精査風景



6. 103号住居跡掘り方



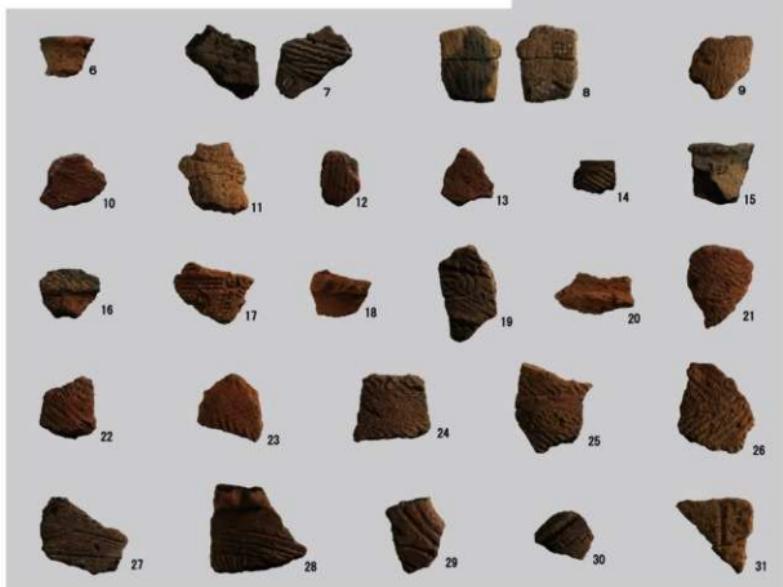
7. 1号ピット



8. 2号ピット



1. 103号住居跡出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 調査区近景



2. 確認調査風景



3. 表土剥ぎ風景



4. A区基本土層



5. B区基本土層



6. 704号土坑



7. 705号土坑



8. 706号土坑



1. 707号土坑



2. 708号土坑



3. 709号土坑遺物出土状態



4. 709号土坑遺物出土状態



5. 709号土坑



6. 710号土坑



7. 711号土坑



8. 712号土坑



1. 713号土坑



2. 714号土坑



3. 715号土坑



4. 716号土坑



5. 32号溝跡



6. 32号溝跡



7. A区発掘風景



8. B区発掘風景





1. 調査区近景



2. 表土剥ぎ風景



3. 基準点測量



4. 328号土坑



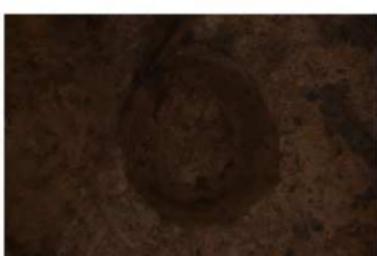
5. 330号土坑



6. 69号ピット



7. 70号ピット



8. 73号ピット



1. 76号ピット



2. 332号土坑



3. 333号土坑



4. 334・335・338号土坑



5. 337号土坑



6. 340号土坑



7. 19・18号ピット



8. 28号ピット



1. 34号ピット



2. 44号ピット



3. 54・60号ピット



4. 65・67号ピット



5. 307・313号土坑



6. 308・309・310号土坑



7. 311・317・320・324号土坑



8. 312・314・315・316号土坑



1. 313号土坑



2. 318号土坑



3. 319号土坑



4. 321・322号土坑



5. 323号土坑



6. 325号土坑



7. 326号土坑



8. 327号土坑



1. 329号土坑



2. 331号土坑



3. 336号土坑



4. 339号土坑



5. 341号土坑



6. 342号土坑



7. 343号土坑（南から）



8. 343号土坑（東から）



1. 49号溝跡



2. 50号溝跡硬化面 1



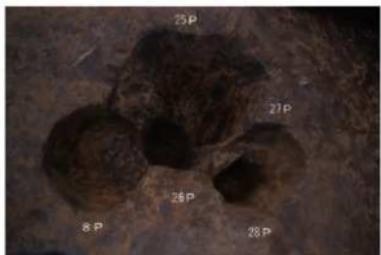
3. 50号溝跡硬化面 2



4. 50号溝跡掘り方



1. 8号ピット銭貨出土状態



2. 8・25・26・27・28号ピット



3. 20号ピット



4. 36号ピット



5. 49号ピット鉄製品出土状態



6. 58号ピット



7. 99・98号ピット



8. 110号ピット



1. 土坑・ピット出土遺物（縄文時代）



2. 土坑・ピット出土遺物（平安時代）



3. 土坑出土遺物（中世以降）



1. 溝跡・ピット出土遺物（中世以降）



2. 遺構外出土遺物



1. 調査区近景



2. 表土剥ぎ風景



3. 3号住居跡遺物出土状態



4. 3号住居跡遺物出土状態



5. 3号住居跡遺物出土状態



6. 3号住居跡



1. 3号住居跡P 1



2. 3号住居跡P 2・P 3



3. 3号住居跡P 4・P 5



4. 3号住居跡P 6



5. 3号住居跡P 7



6. 3号住居跡P 8



7. 3号住居跡土層断面



1. 3号住居跡P.9



2. 2号方形周溝墓



3. 336号土坑



4. 337号土坑



5. 2号ピット



6. 調査風景



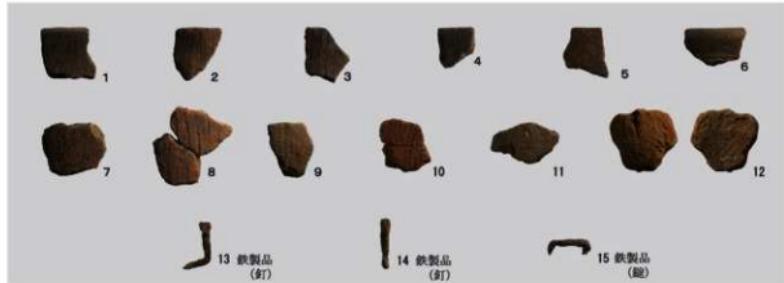
7. 調査区A区全景



8. 調査区B区全景



1, 3 号住居跡出土遺物



2. 遺構外出土遺物

## 報 告 書 抄 錄

志木市の文化財 第90集

中野遺跡第121地点  
中野遺跡第123地点  
中道遺跡第94地点  
田子山遺跡第172地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号  
発行日 令和5(2023)年3月29日  
印刷 株式会社白峰社